

銀行

論

第三卷

中華民國二十一年四月

3961



銀行論第三卷目次

- 第九章 一千八百年英蘭銀行條例ノ繼續ヨリ一千八百十九年紙幣兌換再始條例ノ發布マデ 一丁
- 第十章 一千八百十九年紙幣兌換再始條例ノ發布ヨリ一千八百四十四年ノ銀行條例發布迄 二百三十六丁
- 第十一章 一千八百四十四年ノ銀行條例制定ヨリ今日ニ至ルマデ 三百七十三丁
- 第十二章 蘇格蘭銀行ノ起元及進歩ノ歴史 五百丁

銀行論第三卷目次終

銀行論第三卷

英國 ダンニンク、マクレネード 著  
日本 乘 竹 孝 太 郎 譯

第九章 一千八百九十年英國銀行條例ノ繼續ヨリ一千八百  
十九年紙幣兌換再始條例ノ發布マテ

後貨幣ノ事ニ配慮セル人ノ注意ヲ喚起ス可キ著明  
ニ發起セリ一千七百九十九年ノ收穫歎ス可ク凶  
積ノ穀物ヲ輸入セザルヲ得ザリシハ余既ニ示セ  
九十九年ノ秋季及冬季ニ於テモ前年ノ如ク時候  
一切ノ農作ニ適セス加フルニ一千八百九十年ノ春季ハ  
非常ニ濕氣強ク收穫ノ際ニ在テ猛烈ナル霖雨來レリ故ニ收穫  
時節ノ景況ハ前年ヨリモ尙ホ一層不利ニシテ我嶋嶼ノ北部ニ  
於テハ收穫金ク減シ外國ヨリ小麥ヲ輸入セシヨリ一百二十四萬



二千五百零七「クスター」ノ未曾有ノ額ニ達セシニ拘ラズ小麦ハ益騰貴シテ凶年饑饉ノ相場ヲ現ハセリ此時ニ當リ國家ノ平和ハ辛クシテ維持セラレ十一月議院ノ開會セシ時ニ於テハ國內ノ事情悚然トシ戰慄ス可キ者アリキ議院ハ通常ノ策ヲ取リ食物ノ消費ヲ最モ嚴ニ節センコトヲ懇願シ小麦ヲ輸入スル者ニ對シテ「クスター」ニ付百志ノ直段ヲ保證シ若シ直段茲ニ及ハザレバ議院ニテ之ヲ補フ可キ旨ヲ告示セリ然ルニ斯カル處置ニ出テシニ拘ラズ小麦ノ直段ハ一千八百一年三月ニハ百五十六志ニ騰貴シ大麥ハ九十志ニ騰貴シ燕麥ハ四十七志ニ騰貴セリ而テ一千七百九十九年ニ於テハ「ハムボルク」ニ大破産起リ八十二ノ商家二百五十萬磅ノ負債ヲ以テ斃レシカバ之ガ結果トシテ同地割引ノ歩合一割五分ニ騰貴セリ左レハ穀物輸入ノ爲メニ巨額ノ貨幣ヲ外國ニ送りシトハ「ハムボルク」割引ノ歩合騰貴シテ

貨幣ヲ吸引セント其他ノ諸原因トノ爲メニ數年間彼レノ如ク騰貴セシハ「ハムボルク」ニ對スル爲替ハ一千八百一年一月ニハ二九、八ニ下落セリ即此相場ニテハ英國ニ不利ナル「一割四分餘」ナリ  
一千六百九十六年ヨリ九十七年ニ亘ルノ大恐慌ニ於テ地金ノ市價大ニ騰貴シ外國爲替ノ相場大ニ下落セシハ貨幣ノ劣惡ナリシニ原因スル「ハ」議院及有名ナル商人ノ一般ニ認メシ所ニシテ貨幣ヲ改良スルト同時ニ爲替相場速ニ回復セシ「ハ」余既ニ之ヲ示セリ當時ニ在テハ銀行紙幣ハ法貨ヲラザリシナリ而テ其實際價ニシテ額面價ヨリ下ル「ハ」レバ之ヲ稱シテ割引ヲ生ゼリト云ヘリ當時ノ人ハ銀行紙幣ハ請求ニ應シテ若干磅ノ貨幣ヲ仕拂フ可キ約束書タルヲ知リ若シ其發行者ガ之ニ對シテ額面ノ金額ヲ仕拂フ能ハズ又其他ノ人ガ之ニ對シテ額面ノ

金額ヲ與フルヲ爲サマルトハ此事實ヲ稱スルニ銀行紙幣割引  
 ナ生セリノ語ヲ以テシテ決シテ他ノ語ヲ以テセザリキ紙幣ハ  
 傍ヲ表スル者ナレバ紙幣ノ下落ニ非ズシテ地金ノ騰貴ナリト  
 云フ如キ語ハ當時之ヲ吐キシ人アルヲ見ザルナリ而テ貨幣ノ  
 改良セラレ之ト同時ニ爲替相場ノ回復スルヤ當時ノ人之ヲ稱  
 シテ貨幣ノ改良ガ爲替相場ノ回復ヲ起セリト云ヘリ貨幣ノ劣  
 悪ナルニ基クキテ外ニシテ尙ホ商品ノ形ヲ有スル金ガ貨幣ノ  
 形ヲ有スル金ニ比シテ其價值ヲ異ニスルヲアリト云フ如キ謬  
 說一部ノ人々ノ間ニ全ク行ハレザリシニ非スト雖數多ノ商人  
 ハ小冊子ヲ著シテ以テ此說ノ非ヲ攻撃セリ  
 アダム、スミス氏ハ若シ地金ノ市價ト造幣價トノ間ニ永續ノ差  
 シ生スルアレバ是レ必ズ貨幣ノ有様ニ基カズンバアル可カラ  
 ザルヲ其原理ノ一トシテ說ケリ而テヒューム氏ハ爲替相場ハ決

シテ貨幣回送費用ノ上ニ昇ル者ニ非ズト說ケリ此等ノ原理ハ  
 幾何學ノ原則ト同様ニ最モ明白ナル所ニシテ余ガ茲ニ論スル  
 時代ヨリモ久シキ以前ニ於テ既ニ發見セラレタルナリ  
 世人價值ヲ算スルニ獨リ金屬貨幣ノミチ以テセル時ニ在テハ  
 右ノ原理ハ何人ト雖認メシ所ノ確立セル原理タリシナリ然レ  
 ニ茲ニ論スル時代ニ於テハ一新元素ノ其間ニ投入セル者アリ  
 即不換紙幣是ナリ此時代ニ於テハ世人ノ思想ハ金屬貨幣ヨリ  
 轉シテ專ラ紙幣ニ注ケリ夫ノ一磅紙幣ノ發行以來ハ直段若干  
 磅ト云フトハ世人直ニ此紙幣ヲ指ス者ト解スルニ至レリ抑初  
 ノ紙幣兌換ノ停止セラレシ時ニ當リテハ世人一般ニ英國銀行  
 紙幣ノ下落ス可キヲ期シタリキ然ルニ銀行者及商人ガ英國銀  
 行ノ信憑ヲ支ヘント決議シタルヲ政府ガ租稅ノ仕拂ニ平價ヲ  
 以テ該銀行紙幣ヲ請取ル可シト決シタルヲ停止後數年間ハ該

銀行取締役が紙幣ノ下落セザラフンコ最モ注意シタルコ等ノ  
 爲メニ世人ノ恐懼ハ全ク排掃セラレ該銀行紙幣ハ數年間平價  
 ナリテ流通セリ  
 然レ此此時ニ至リ數多ノ人ノ注意ヲ紙幣ノ有様ニ引ク所ノ現  
 像起レリ蓋一千七百九十九年九月ニ至ルマデ造幣銀ノ市價ハ  
 一匁ニ付三磅十七志六片ニテ續キ外國金貨ハ地金トシテヨリ  
 モ寧ロ貨幣トシテ用ヒラル、ノ故ヲ以テ其相場稍之ヨリモ貴  
 カリキ然ルニ一千八百零六年六月ニハ外國金貨ノ相場俄然非常ニ  
 騰貴シ四磅五志トナリ銀ハ一匁ニ付五志七片トナリ外國爲替  
 ハ平均點以下ニ下落セリ一千八百零一年一月ニハ金銀共ニ一匁  
 ニ付更ニ一片ヲ騰貴シハムボルグニ對スル爲替ハ二十九志八  
 片トナレリ即此相場コテハ平均點ノ下ニ在ルコト一割四分ナリ  
 然レモハムボルグニ正金ヲ現送スルノ費用ハ七分ニ超ヘズト

算セラレタルヲ以テ殘餘ノ七分ノ下落ハ他ノ理由ヨリ起リシ  
 者ナラザル可カラズ  
 明白視易キノ大眞理發見セラレタルハ此時ニ在リ正貨制ノ下  
 ニ在テ貨幣劣惡ナルトハ爲メニ地金ノ市價ヲシテ其造幣價ノ  
 上ニ騰貴セシメ外國爲替ノ下落ヲ起ス者トセバ反對ノ案說モ  
 亦眞理ヲラザル可カラズト云フト是ナリ反對ノ案說トハ則左  
 ノ如シ紙幣ハ畢竟金屬貨幣ノ代表物タルニ外ナラザレバ若シ  
 紙幣制ノ下ニ在テ紙幣ニ對スル地金ノ市價其造幣價ノ上ニ騰  
 貴シ又外國爲替ノ相場正貨現送費ヲ超ヘテ下落スルコトアレバ  
 是レ此代表物ノ下落ニ原因セズンバアル可カラズト云フト是  
 ナリ故ニ諸シスカル事情ノ起ルアレバ是レ明ニ紙幣ノ下落セ  
 ルヲ證スル者ナリト云フト是ナリ  
 此至大至重ノ眞理ヲ發見セルノ功ハ何人ニ歸スル乎ハ吾人之

確知スル能ハズ蓋ウ、ト、ポイド氏ノ如キハ假令之ヲ發見  
 セルノ功ヲ存セズトスルモ第一ニ之ヲ公言シテ世人ノ注意ヲ  
 喚起セル創唱者ノ一人タルヤ明ナリ而テキング公ハ一層巧ミ  
 且明カニ此眞理ヲ唱ヘ又ヘンリー、ソルトン氏ノ如キモ稍  
 明瞭ヲ缺ク所アリト雖モ尙ホ「紙幣ノ結果ヲ講究ス」ト題スル書  
 ニ於テ此眞理ヲ唱ヘタリ左レバ吾人穿鑿ノ達ヒシ所ヲ以テ之  
 ナ云ハ、此眞理ヲ確立セルノ功ハ右ノ三氏ニ歸スル所ニシテ  
 此眞理ノ貨幣學上ニ緊要ナルハ猶ホユートン氏ノ引力説ノ天  
 文學ニ於ケルガ如シ  
 佛國ニ對スル平和ノ假條約ハ一千八百一年十月ヲ以テ倫敦ニ  
 於テ調印セラレ其本條約ハ一千八百二年三月二十七日ヲ以テ  
 アミエンスニ於テ調印セラレタリ而テ夫ノ紙幣兌換停止ハ本  
 條約調印後六ヶ月ニ至ラバ其期盡ク可クシテ英蘭銀行ハ其金

庫正貨ニ當ミ紙幣兌換ヲ再始スルヲ望ム旨ヲ公言シタリト雖  
 尙ホ出納局長アッディングトン氏ハ一千八百二年四月九日ヲ以テ  
 一千八百三年三月一日マデ兌換停止ヲ繼續スルノ議案ヲ提出  
 シ而テ此議案可決セラレタリ此議案辨護ノ爲メニ主張セラレ  
 タル議論ヲ觀察スルニハ一千八百二年ノ政府ハ一千六百九十  
 六年ノ政府ニ比シテ大ニ理財ノ知識ノ劣ルヲ知ル可キ也蓋  
 一千六百九十六年ニ於テハ外國爲替ノ不利トナリ貨幣劣惡ナ  
 ルガ爲メニ地金ノ市價其造幣價ノ上ニ騰貴セシヲ以テ貨幣  
 改鑄ヲ行ハザル可カラザルノ理由ト爲シ以テ此舉ヲ主張セリ  
 政府ノ反對黨ハ激烈ニ之ニ抵抗シタリト雖貨幣改鑄ノ舉其功  
 ナ奏シ爲メニ國家ノ信憑及外國爲替ヲ回復セシコトハ余ガ既  
 ニ示セシガ如シ故ニ一千八百二年ニ於テモモンタキユーノ如キ  
 亂數ナル一政治家アツシメバ外國爲替ノ不利トナリ地金ノ騰

貴セルハ全ク貨幣ノ劣悪ナルニ因ルヲ看破シ之ヲ平價ニ復  
 スル唯一ノ方法ハ速ニ紙幣兌換ヲ再始スルニ在ルヲ悟リシ  
 ナル可シ然ルニ當時ノ政治家此事ニ關シテ無識ナルノ甚シキ  
 ヤ反テ外國爲替ノ不利ナルヲ以テ紙幣兌換ヲ再始ス可カラ  
 ザルノ理由ト爲セリ嗚呼豈驚ク可キニ非ズヤロベルト、ピール  
 氏ハ此時ニ於テ全歐洲ニ對スル我外國爲替ハ悉ク不利トナリ  
 居シヲ述ヘタリ而テアッディングトン氏カ其議案ヲ提出スルヤ  
 左ノ如キ説ヲ吐ケリ曰

我國ト外國諸港トノ間ノ爲替ハ吾レニ不利ニシテ輸出貿易  
 ハ數月間不動不進ノ狀ヲ呈セリ而テ外國爲替吾レニ不利ナ  
 ルニ當テ我流通正貨ヲ増加スルアレバ爲メニ我國ニ取テ甚  
 有害ナル一種ノ商業ヲ起スニ至ル可シ何トナレバ過クハ數  
 月間ニ於テ之ヲ輸出セシムガ爲メニ金貨幣ヲ買占ムルヲ大ニ

行ハレバナリ蓋此事ノ如キハ余ガ本院ニ向テ報告スル  
 事敢テ要トセザル可キナリ而テ余ガ英蘭銀行ノ紙幣兌換停  
 止ヲ繼續セシムル本院ニ向テ求ムル者ハ斯カル理由アルニ  
 因ルナリト

嗚呼何ヲ以テ其レ然ル乎蓋事情此ノ如クナルハ猶豫ナクシテ  
 速ニ紙幣兌換ヲ再始セザル可カラザルノ理由クルナリ金貨ヲ  
 買占ムルヲ行ハル、所以ノ者ハ他ナシ紙幣ノ額過多ナルニ因  
 ルノミ蓋仕拂フ可キ約束即紙幣ハ金貨ニ對シテ下落シ避ク可  
 カラザルノ結果トシテ金貨ノ輸出ヲ起セシムルニ紙幣兌換  
 ヲ再始スルハ決シテ流通媒介物ヲ増加スル者ニ非サル耳ナラ  
 ば英蘭銀行ヲシテ紙幣ヲ適當ノ度ニ減少セシムルガ故ニ必ス  
 大ニ流通媒介物ヲ減少スルノ効ナカル可カラズ輸出貿易ノ不  
 利ナルハ我國物品ノ直段貴キガ故ニシテ銀行紙幣ヲ減少セバ



勢は物價ノ下落ヲ起シテ輸出ヲ鼓勵セズンバアル可カラザル  
 ナリ  
 斯ノ如ク誤謬甚シキ理財策ノ結果ハ容易ニ之ヲ前見シ得可キ  
 ノミ我國ノ事情ハ毫モ改良スルナキナリ何トナレバ宰相ガ其  
 改良ヲ妨ク可キ最モ有効ナル處置ヲ施シタレバナリ而テ一千  
 八百三年アッディンクトン氏ハ再ヒ紙幣兌換停止ヲ繼續スルノ議  
 案ヲ提出セリ氏曰此議案ヲ必要ナリトスル理由ハ極メテ強ク  
 極メテ切ニシテ得テ抗ス可カラズト蓋前回ノ國會ニ於テ停止  
 ヲ繼續セシ者ハ外國爲替ノ不利ナリシニ因ルモノニシテ當時  
 ハムボルクニ對スル爲替ハ平價ナリシト雖アムステルダムニ  
 對スル爲替亦不利ナリシ也氏ハ此等ノ理由ニ基キ論シテ曰我  
 商業次第ニ進ミ外國爲替漸ク我國ノ利トナリ安全ニ紙幣兌換  
 ヲ再始セ得ルニ至ルマデハ停止ヲ繼續スルヲ便トスト又曰過

クル三年間穀物凶歉ナリシガ爲メニ輸入穀物ノ代價トシテ二  
 千萬磅ノ地金ヲ輸出セザルヲ得ザリキ故ニ此地金ノ返流スル  
 マデハ紙幣兌換ヲ再始スル能ハズトフツクス氏此論ヲ評シテ  
 曰若シ斯ノ如クニ論セバ外國爲替ノ不利トナル毎トニ英蘭銀  
 行ノ仕拂ヲ停止セザル可カラズトノ論チ一般ノ定則トシテ確  
 立スルニ至ル可シト而テ氏ノ說正點ニ觸レタリ曰加之外國爲  
 替ノ我國ニ不利ナルハ或ハ英蘭銀行ノ紙幣兌換ヲ停止セルニ  
 原因スルナキヲ保セスト而テ氏更ニ論シテ曰  
 一千七百七十二三年ノ頃ハ我國ニ巨額ノ惡貨幣行ハル、ニ  
 當テハ外國爲替我國ニ不利ナリキ然レモ此惡貨幣ニ代ユル  
 眞貨幣ヲ以テスルニ及ビ外國爲替ハ殆ト忽チニ我國ノ利  
 トナレリ我國ノ貨幣惡貨幣ヨリ成リシ間ハ外國爲替ハ我國  
 ニ不利ナリキ而テ今日ノ狀亦是ナリ何トナレバ紙幣ハ惡金

貨〇優〇ル〇ア〇ラ〇ザ〇レ〇バ〇ナ〇リ〇惡金貨ト同様ノ不便紙幣ニ附着  
 スレバナリ故ニ曩時我貨幣ヲ改良セシメ及ヒ外國爲替我國  
 ノ利トナリシガ如ク今日ニ於テモ若シ英國銀行ガ其紙幣兌  
 換ヲ再始セハ爲メニ同様ノ眞結果ヲ生スルアルヲ期ス可カ  
 ラザル乎」ト

氏ガ偶々陳示セル此眞理ハ遂ニ採用セラル、所トナラズシテ  
 英國銀行取締役ガ十分ニ紙幣兌換ヲ再始シ得ルヲ確言セシ  
 〇拘ラズ宰相ハ政治上ノ理由ヨリシテ次回ノ議院開會後六週  
 期マデ強ヒテ兌換停止ヲ繼續セシメタリ上院ニ於テハベルハ  
 〇公ハ論シテ曰今日ニ於テ更ニ兌換停止ヲ繼續スル如キ意見  
 ハ此事ニ關シテ英國銀行ト商議ヲ爲サザリシ所ノ政府ニ於テ  
 ノミ起リ」ト而テフックス氏ガ疑ヲ含ンテ陳示シタル大眞理  
 ハ上院ニ於テハキング公及モイラ公一層強ク且明ニ之ヲ陳示

セリ宰相ハ地金輸入ノ起ラザルヲ歎セリ蓋其輸入ノ起ラザル  
 ハ紙幣過多ナルガ爲メニ我國ニ於テ地金ノ價值下落セルニ因  
 ルニ非ズヤ故ニ地金ヲ吸引ス可キ眞正ノ方法ハ紙幣ノ額ヲ減  
 少シテ以テ地金ノ價值ヲ騰貴セシムルニ在リ然ルニ夫ノ兌換  
 停止繼續ノ議案ハ可否ノ起立ヲ取ルニ及ハズシテ可決セラレ  
 ン

若シ夫レ一千八百三年前ノ事情ニ於テスラ尙ホ且紙幣兌換ヲ  
 再始スルヲ不得策ナリトセシ以上ハ一時ニシテ且不定ナル平  
 和ノ途ニ同年ニ於テ再ヒ破レシ後ハ愈此事ヲ行ヒ難カラシメ  
 ザルヲ得ズ左レハ國會ノ開會スルヤ兌換停止ヲ繼續スルノ議  
 案直ニ提出セテラレタリ吾人ハ其議案中左ノ如キ事ヲ記セルヲ  
 見ル曰金貨ヲ匿藏スルヲ甚シク行ハレ世用ノ爲メニ之ヲ得ル  
 〇極メテ難シ」ト而テ出納局長ハ斯ク金貨ヲ匿藏スルガ如キハ

愛國心ニ反シ善良市民タルノ義務ニ背ケル甚非ナル處置タル  
 一ヲ述ベクテ佛國革命ノ時革命黨ノ領袖ガ其紙幣ニ關シテ述  
 ヘタル語モ正サニ之ニ同シカリシナリ而テ上院ニ於テハ此議  
 案ニ關スル討論中或ル卓絶ナル演說ヲ出ダセリグレンツル公  
 ハ初メテ兌換停止ノ議案ヲ出タセシ内閣ノ一員タリシガ今ヤ  
 其說ノ大ニ變セシ一ノ明證ヲ示シ出納局長ガ金貨ヲ匿藏スル  
 者ヲ攻撃セシ一ヲ痛ク非難セリ又キング公ハ以前ニハ寧ロ微  
 カニ陳示セラレタル紙幣ニ關スル原理ヲ今ヤ最モ明瞭ニ陳示  
 セリ氏曰

紙幣ノ唯一ノ正當ナル制限ハ所持人ノ望ニ應シテ正貨ヲ以  
 テ之ヲ兌換セサルヲ得サシムル一是レナリ正貨ニ兌換シ  
 得可カラザル紙幣ニ至テハ其發行者ノ意志ヲ除クノ外ハ據  
 テ以テ之ヲ序理ス可キ定規標準ノ存スルアルナシ流通ノ爲

メニ要スル貨幣ノ額ヲ定ムルガ如キハ常ニ至難ノ疑問タリ  
 唯最モ密ニ地金ノ相場及外國爲替ノ有様ニ注意スルハ以  
 テ紙幣ノ過不足ヲ判定ス可キ正當ナル標準ヲ知ルヲ得可シ  
 而テ絶ヘズ此標準ニ照ラシテ序理スル所アルニ非ズンバ決  
 シテ紙幣ノ價值ヲ十分ニ維持スルヲ能ハザルナリ英國銀行  
 取締役ガ此義務ヲ盡ス能ハザリシ一明ナリ何トナレバ兌換  
 停止後其紙幣大ニ増加シ銀相場及外國爲替相場ニ於テ非常  
 ノ動搖ヲ起シタルバナリ蓋英國銀行紙幣ノ過多ナルヲハ爲  
 メニ銀ノ市價ヲ其造幣價ノ上ニ騰貴セシメシ者ニシテ是レ  
 今日銀ノ缺乏ヲ起セシ原因ノ一ナリト  
 英國銀行ノ正貨仕拂ヲ禁シタルト同一ノ條例ニ於テ地方銀行  
 ハ英國銀行紙幣ヲ以テ己レノ紙幣ヲ兌換セザル可カラザルコ  
 ト定メタリ故ニ地方銀行紙幣ノ制ハ以前ノ英國銀行紙幣ノ制

ニ同シキナリ何トナレバ地方銀行が英蘭銀行紙幣ヲ以テ己レノ紙幣ヲ兌換セザル可カラザルハ英蘭銀行が正貨ヲ以テ己レノ紙幣ヲ兌換セザル可カラザリシニ異ナラザレバナリ地方銀行紙幣が英蘭銀行紙幣ヲ基礎トシテ立ツハ英蘭銀行紙幣が正貨ヲ基礎トシテ立ツニ異ナラザレバナリ故ニ英蘭銀行取締役ハ單ニ自行ノ紙幣發行ヲ管理スル耳ナラズ又國內各銀行ノ紙幣發行ヲモ管理スル者ニシテ荷モ英蘭銀行ノ紙幣過度ニ増加セバ全國各銀行ノ紙幣亦隨テ増加シテ更ニ其勢ヲ助長セザルヲ得ザルナリ

蓋當時ヲ以テ今日ニ比スレバ吾人ハ運輸ノ便尙ホ大ニ開ケザリシヲ思惟スト雖而カモ之ヲ往昔ニ比スレバ其便大ニ開ケシ者アルヲ以テ大英國中ニテ特ニ一地方ノ通貨下落スル如キ事アルヲ妨クルニ足リシナリ尤モ一千七百六十五年ニ於テ蘇格

蘭ノ紙幣ハ特別ノ事情ヨリ需要ニ應シ金ヲ以テ之ヲ兌換スル能ハザリシガ爲メニ下落セシトアリト雖爾後ハ復ク斯ノ如キトナカリシナリ然レモ獨リ愛爾蘭ニ至テハ海路ヲ隔テ、往來ニ不便ナルガ故ニ之ヲ別國ト見做スモ敢テ不可ナシ況ンヤ愛爾蘭ハ別ニ大英國ノ貨幣ニ異ナルノ貨幣ヲ有セルヲヤ蓋當時愛爾蘭ノ一志ハ十三片ヲ含ミ而テ二百四十片ヲ以テ一磅ト爲スハ英國モ愛爾蘭モ相同シカリケレバ英國ノ百磅ハ愛爾蘭ノ百零八磅六志八片ニ當ルトハ一算ノ下ニ明ナリ故ニ英國ト愛爾蘭トノ爲替ノ平均點ヲ八<sup>三</sup>/<sub>三</sub>ト稱セリ

愛爾蘭銀行ハ金貨ノ取付ケヲ受ルコトナク英國ニ對スル爲替ハ愛爾蘭ニ利アリテ金貨流入セシニ拘ラズ尙ホ該銀行ハ英國銀行ト同時ニ正貨仕拂ヲ停止ス可キ旨ヲ議院ヨリ命セラレタリ而テ愛爾蘭ノ議院ハ英國ノ條例ト同様ノ箇條ヲ有スル一條

例ヲ可決セリ  
 一千七百九十四年後ハ倫敦ニ對スルグブリンノ爲替ハ常ニ同  
 地ニ利アリテ通常七磅十志ノ相場ニ立テリ而テ一千七百九十  
 七年ノ最初三月間ニ於テハ六磅十四志九片ニマテ騰貴シ之ニ  
 續クノ三月間ニ於テハ六磅七志二片ニマテ騰貴シ更ニ之ニ續  
 クノ三月間ニ於テハ五磅十八志十片ノ高點ニマテ騰貴セリ而  
 テ此際曾テ達セシ最高點ハ五磅十志ナリキ然レモ此時以來次  
 第ニ下落シ遂ニ一千八百四年一月ニ於テ十八磅ノ非常ノ低點  
 ニ達セシマデハ毎年益下落セリ左レバ二志四片乃至二志六片  
 ノ増打チ出スニ非ザレバ愛爾蘭銀行紙幣ニ代ヘテ金貨ヲ得ル  
 能ハザリキ而テ斯ク爲替ノ痛ク下落セシコトハ一千八百四年  
 二月十三日愛爾蘭銀行兌換停止條例ニ關シテ討論ノアリシ際  
 アーチバード、ハミルトン公ノ注目スル所トナレリ氏曰兌換停

止條例ノ可決セラレシ時ニ當テハ愛爾蘭銀行ノ紙幣高ハ六十  
 萬磅ナリシニ今ヤ二百七十萬磅トナレリト氏又曰ダブリント  
 ベルフレストトノ距離ハ僅ニ百英里ニ超ヘズト雖尙ホ二地間ノ  
 爲替ニ於テ一割ノ差ヲ生セリ而テ倫敦ニ對スル爲替ハダブリ  
 ンニ不利ナルコト時トシテハ二割ノ甚シキニ及ベリト又曰紙幣  
 ノ下落スルト同一ノ度ニ應シテ金貨騰貴セリト  
 二國間貨幣上取引ノ混亂セルコト斯ノ如クナリシカバ此事ヲ遂  
 ニ議院ノ深ク意ヲ注ク所トナレリ故ニフォスター氏ノ動議ヲ採  
 用シ大英國及愛爾蘭間ノ爲替ノ現時下落セル原因及愛爾蘭ノ  
 貨幣ノ有様ヲ調査セシメンガ爲メニ調査委員ヲ任シタリ而テ  
 此委員ハフォスター氏、エー、ハミルトン公、ヘンリー、ベッチー公、ラ  
 クストーン公、ピット氏、フォックス氏、グレイ氏、ロース氏、ケン  
 ン  
 グ氏、タブルユー、アルトチー氏、ジェー、ニウボルト氏、ジェー、シー、ベル

スフルド氏、シエリダン氏、ブログゲン氏ヨリ成レリ  
抑斯ク委員ヲ任シ之ヲシテ報告ヲ爲サシムルニ至リシ所以ノ  
事情ハ大ニ注意セザル可カラザル所タリ何トナレバ議院ガ嚴  
正ニ委員ヲ任シテ紙幣ノ理ヲ調査セシメタルハ之ヲ以テ嚆矢  
トスル所ニシテ實ニ此時ノ事情ハ爾後英國ニ於テ起リ夫ノ地  
金調査委員ヲ任セシムルニ至リタル事情ノ先例タレバナリ  
愛爾蘭銀行ハ委員ノ諮問ニ應セシメンガ爲メニ二名ノ取締役  
即コルヅイル及ドリイルノ二氏ヲ送レリコルヅイル氏ハ曰兌換停  
止ノ時ニ於テ愛爾蘭銀行ノ紙幣發行高ハ六十萬磅乃至七十萬  
磅ナリシニ今ヤ約ソ三百萬磅トナレリト而テ斯ノ如ク非常ノ  
増發ヲ爲セシハ何故ナルヤトノ問ニ答テ曰兌換停止後約ソ二  
年ニメ爲替非常ニ不利トナリ貿易差額ヲ拂ソガ爲メニ愛爾蘭  
ノ貨幣流出セリ故ニ金ノ愈減少スルニ從ヒ其缺ヲ補ハソガ爲

メニ紙幣ヲ増發スルヲ必要トナレリト又曰兌換停止後ハ若シ  
然ラザレバ金貨ヲ以テセシナル可キ仕拂ニ充テソガ爲メニ紙  
幣ヲ増發スルヲ必要トシ斯クテ増發セル高一百二十萬磅ニ及  
ヘリト然レニ兌換停止前ニ在テハ尙モ愛爾蘭銀行ガ金ノ取付  
ケヲ受クルルハ其取付ケヲ妨ケテ自カラ衛ラソガ爲メニ常ニ  
紙幣ヲ減縮スルヲ例トセシヲハ氏之ヲ許セリ即爲替相場ノ不  
利ナルニ當テハ自衛ノ爲メニ紙幣ヲ減縮セザルヲ得ズシテ斯  
ク紙幣ヲ減縮スルハ金貨ノ輸出ヲ妨ケンガ爲メクリシヲハ氏  
之ヲ許セリ然ルニ氏尙ホ言テ曰世人一般ニ愛爾蘭ニ於テ紙幣  
ノ増加セシヲ以テ爲替相場下落ノ原因ナリトセリ然レニ余  
ノ見ル所ヲ以テスレバ全ク之ニ反シ紙幣出テ、流通媒介物ノ  
用ヲ爲セシガ爲メニ從來流通媒介物ノ用ヲ爲セシ金ヲ外國ニ  
流出スルヲ得セシメ斯クシテ爲替相場ノ一層下落スルヲ妨ケ

タリト又曰余ノ説ハ愛爾蘭ニ銀行紙幣ノ増加セシトハ決シテ  
 爲替相場下落ノ原因ニ非ズト云フニ在ルヲ明ナラザル可カラ  
 ズト又曰余ハ爲替相場下落ノ唯一ノ原因ハ愛爾蘭ガ其能ク仕  
 拂フ可キノ度ヲ越ヘテ外國ニ負債ヲ擔ヒシニ在リト確信セリ  
 ト蓋氏以爲ヘラク負債ノ權衡何レニ傾ケル乎ヲ徵ス可キ真正  
 ノ標準ハ倫敦及ダブリン間ノ爲替相場ノ如何ニ在リテ若シ其  
 相場著シク平均點ノ下ニ下落スルハ此有様ヲ稱シテ外國爲  
 替愛爾蘭ニ不利ナリト云ヒ而テ斯カル場合ニ於テハ愛爾蘭ハ  
 其能ク仕拂フ可キノ度ヲ越ヘテ外國ニ負債ヲ擔ヘル者ナリト  
 コルゾイル氏ハ以上ノ意見ヲ反覆再陳シタリト雖茲ニ一々之ヲ  
 引證スルヲ要セザルナリ而テ外國爲替相場ハ國際間負債ノ仕  
 拂ニ充ツ可キ流通媒介物價值ノ多少ニ因テ影響セラル、トナ  
 キヤ例セハ國債間ノ負債ヲ仕拂フニ劣惡ナル正貨ヲ以テセバ

爲メニ外國爲替相場ヲ動かスコトナキヤトノ問ヲ受クルニ當リ  
 氏ハ正貨ニ關シテハ此事アル可キヲ許シタリト雖モ愛爾蘭銀  
 行紙幣ニ關シテハ決シテ此事ナキ旨ヲ答ヘタリ又ゾリイル氏ノ  
 意見モコルゾイル氏ニ同クノ爲替相場ノ下落ヲ同一ノ原因ニ歸  
 シタリ而テ不換紙幣ヲ増加セバ假令世人其紙幣ノ早晚兌換セ  
 ラル可キヲ信スルアルモ尙ホ其増加ノ爲メニ物品ニ對シテ紙  
 幣ノ價值ヲ下落セシムル如キ事起リ得可キヤトノ問ヲ受クル  
 ニ當リ氏ハ斯カル事起リ得ザルニ非ズト雖多分ハ起ルマシキ  
 旨ヲ答ヘタリ氏曰余ハ世人ガ動モスレバ金貨増打ヲ生シタル  
 ガ故ニ隨テ愛爾蘭銀行紙幣下落セル者ニシテ紙幣ハ金貨ノ増  
 打ト同額ノ割引ヲ生シタリト云フヲ聞ク然レモ斯ノ如キハ此  
 疑問ヲ觀察スル正當ノ方法ニ非ザルナリ蓋紙幣ノ下落セルヲ  
 云ハント欲セハ先ツ此紙幣ガ所持人ニ不便トナリ所持人ハ之

夫避ケンガ爲メニ不用ノ買物ヲ爲スニ至リシコトヲ證セザル可  
 カラズ夫ノ紙幣ニ對スル金ノ市價ガ其造幣價ノ上ニ騰貴セル  
 ガ如キハ是レ唯爲替相場下落ノ結果ナルノミ決シテ之ガ原因  
 ニ非ザルナリ故ニ又紙幣ノ下落ヲ證スル者ニ非ザルナリト  
 以上二人ノ證報者ハ外國ニ負債ヲ擔フノ一原因ヨリシテ外國  
 爲替ハ如何ナル度マデモ下落スル者ナリトソ説ヲ爲セル者十  
 レバ委員ハ之ニ向テ外國爲替相場ハ正金現送ノ費用ヲ越ヘテ  
 下落シ得ル者ト思惟スルヤ若シ之ヲ然リトセハ如何ニシテ此  
 事ノ起リ得可キヤヤト問ヘバ可ナリシナラシム其之ヲ問ハザリ  
 シハ惜ム可シト云フ可シ  
 證報者ガ貨幣ノ有様ニ關シテ陳示シタル事實ハ最モ驚ク可キ  
 者アリドリイル氏ハ或ル貨幣ヲ秤量セシメタルニ私鑄ノ惡貨  
 幣ハ約シテ一百二十六志ヲ合スルニ非ザレバ一封度ノ量目ヲ爲

サバリシト云フ又造幣局銀貨ハ初メ同局ヨリ之ヲ出セシニ當  
 テハ六十二志ニシテ一封印ノ量目ヲ成セシニ當時ハ其世ニ流通  
 スル者極メテ匱乏トナリ且甚シク磨滅セシテ以テ九十四志六  
 片ヲ合スルニ非ザレハ一封印ノ量目ヲ成サバリシト云フ而テ  
 夫ノ惡貨幣中ニテ最良ナル者ト雖實價六片ニ過ギズシテ最惡  
 ナル者ニ至テハ實價約シテ三片ナリシト云フ而テ私カニ此等ノ  
 惡貨幣ヲ鑄造シ之ヲ流通セシムルノ方便ヲ有スル人ニ「ギニ  
 一」ニ付二十八志乃至三十五志ノ相場ヲ以テ賣ラレシト云フダ  
 ヲリシニ於テ正貨ノ有様既ニ此ノ如キ者アリキ然ルニ南部諸  
 地方ニ於テハ更ニ之ヨリ甚シキ者アリ一人ノ證報者ノ説ニ曰  
 銀貨ハ全ク南部諸地方ヨリ去リ其缺ヲ補ハンガ爲メニ銀券發  
 行セラレタリ曰此等ノ銀券ハ悉ク銀貨ヲ驅逐シ且此等ノ銀券  
 及其他各種ノ私立銀行ノ手形増發セラレシガ爲メニ物價大ニ



騰貴セリ曰過クル十二月間劣悪ナル通貨増加セラレシヲ以テ非常ノ大害ヲ爲セリ曰南部諸地方ニ於テ尙ホ善良ナル銀貨ノ供給ナキニ非ズト雖此等ノ銀券行ハル、ノ故ヲ以テ世人之ヲ匿藏シテ出サバルナリ故ニ若シ銀券ヲ壓滅セハ此等ノ銀貨再ヒ世ニ流通スルニ至ル可シト此證報者又曰銀行者並ニ各種商人ハ三志九片半及六志ノ日附後二十一日目拂ノ手形ヲ發行セリト而テ彼レ以爲ヘラク紙幣増加ノ爲メニ外國爲替相場ヲ益ダブリシニ不利ナラシメタルナリト即彼レ曰金貨ノ増打ヲ生シタルハ銀行紙幣ノ下落セルヲ證ニシテ外國爲替相場ノ下落スルニ從テ紙幣ノ下落續ケリト又曰當時金貨ノ増打ハ七分乃至八分ナリシト蓋彼レハ自カラ一箇ニ付二志六片ノ増打ヲ出シテ巨額ノ「ギニー」金貨ヲ買ヒシナリ然レモ愛爾蘭ノ北部諸地方ニ於テハ凡テ手形ハ金ト兌換シ得ベクシテ紙幣行ハ

レサリシヲ以テダブリシニ對スル爲替ハ十六(即平均點ノ下七分)ナリナリシニ拘ラズベルフストニ對スル爲替ハ七分若クハ八分(即平均點ノ上七分)ナリキ故ニ此證報者論シテ曰金ヲ以テ仕拂フ爲替ハ愛爾蘭ニ利ナルガ故ニ真正ノ爲替ハ該國ニ利ナラザル可カラズ若シ巨額ノ金貨流通スルニ至ラハ爲メニ金貨ノ増打ヲ減シ爲替相場ヲ回復ス可シト然レモ尙ホ以爲ラク爲替相場ノ不利ナルハ年々愛爾蘭ガ外國ニ負債ヲ擔ヘルノ證ナリト而テ愛爾蘭銀行紙幣及該國私立銀行ノ紙幣ハ一箇ニ付二志六片ノ増打ヲ出スニ非ザレバ決シテ之ヲ「ギニー」金貨ト交換スルヲ能ハザリシト雖英國銀行紙幣ニ至テハ金貨ト同一ノ増打ヲ生シ一切ノ取引ニ於テ金貨ニ同一ナリトシテ受取ラレタリ然ルニ事實此ノ如クナルニ拘ラズ愛爾蘭銀行取締役ガ其紙幣ノ下落セザリシヲ主張セシハ豈驚ク可キニ非ズヤ

愛爾蘭ノ北部ニ於テハ獨リ金貨ノミ行ハレ紙幣ハ禁止セラレ  
 シテ以テ倫敦ニ對スルベルフストノ爲替ハ常ニベルフストニ  
 利ナリキ而テダブリントンノ爲替ノ益下落セル際ニ在テモベルフ  
 ストノ爲替ハ益騰貴セリ即一千八百三年及四年ノ二地ノ爲替  
 相場左ノ如シ

一千八百三年	ダブリントン	ベルフスト
第一三月間平均	一、一、九	七、一、六
第二三月間平均	一、三、八	八、八、八
第三三月間平均	二、五、一	七、一、二
第四三月間平均	一、五、八	五、一、二
一千八百四年		
一月二十四日	一、八、〇	六、〇、〇

故ニ調査委員ノ任セラレシ時ニ當テダブリントンノ爲替トベルフ

ストノ爲替トノ間ニ一割二分ノ差アリシナリ左レバ若シ愛爾  
 蘭銀行取締役ノ説チシテ正シカラシメハダブリントンヨリ倫敦ニ  
 巨額ノ貨幣ヲ仕拂フト同時ニ又倫敦ヨリベルフストニ巨額ノ  
 貨幣ヲ仕拂ヒシ者ト云ハザル可カラズ然レモベルフストノ輸  
 出入監察總官マシーナル氏ハ愛爾蘭銀行紙幣ニ關シテ全ク之ト  
 異ナル意見ヲ懷ケリ蓋氏ハ自カラ調製セル爲替相場表ニ左ノ  
 註ヲ附シタリ曰

貿易ノ差額大ニ外國爲替相場ニ影響ストハ今日マデ商業上  
 ノ格則チリト認メラレシ所ナリ而テ若シ英國及愛爾蘭ニ於  
 テ齊シク正貨ノ流通スルヲ往日ノ如クナラシムルハ今日ト雖  
 尙ホ此格則ハ實地ニ適スルナル可シ然レモ今日英國ニ於テ  
 ハ紙幣毫モ下落セズシテ流通スルニ拘ラズ愛爾蘭ニ於テハ  
 其發行ノ過多ナリシカ爲メニ大ニ下落セリ而テ余ハ信ス此

二國間爲替ノ相場ハ大ニ愛爾蘭銀行紙幣下落ノ爲メニ影響セラル、トナリト

愛爾蘭銀行取締役ノ説ニ據レバダブリンニ於テ倫敦ニ對スル爲替ノ彼レノ如キ狀ヲ呈セル者ハ全ク愛爾蘭ガ英蘭ニ對シテ巨額ノ負債ヲ擔ヘルコ因ルト爲ス者ニシテ若シ此説ヲシテ正シカラシメバダブリン府ノ商人ハベルファストニ於テ一割乃至一割二分ノ廉價ヲ以テ倫敦宛ノ爲替ヲ買ヒ得ルニ拘ラズ尙ホ故ラユダブリンニ於テ高價ヲ以テ之ヲ買フノ愚ヲ爲セシ者ト云ハザル可カラザルヤ明ナリ然レドダブリンニ於テハ正貨一割乃至一割二分ノ増打ヲ生セシヲ見ルホハ若シダブリンニ於テ爲替ヲ買フニ正貨ヲ以テシタラシムニ其相場ベルファストニ同シカリシヤ疑フ可カラザルナリ且又此時ノ爲替ノ下落ハ愛爾蘭ガ外國ニ負債ヲ擔ヘルニ因ル

トノ説ヲ事實上ヨリ觀察スルニ調査委員ニ供セラレタル事實中以テ之ヲ徹ス可キ者アリ蓋此等ノ事實ニ據ルニ當時愛爾蘭ハ貿易ノ差額ヲ外國ニ借ラザル耳ナラズ反テ大ニ貸ス所アリシト最モ明ナリ其額ノ幾何ナルヤニ關シテハ諸證報者ノ説一ナラザリシト雖兎ニ角ニ愛爾蘭ハ大ニ貿易ノ差額ヲ外國ニ貸ス所アリシヲ以テ理ニ於テ爲替相場該國ニ利ナラザル可カラズト云フニ至テハ其説一ニ歸シタリ而テ仕拂ヲ爲スニ正貨ヲ以テセルベルファストニ於テハ現ニ爲替相場該地ニ利アリシナリ左レハ調査委員ハ斯ノ如キ争フ可カラザルノ事實ヲ目前ニ供セラレタルヲ以テ狐疑スル所ナク其意見ヲ開示シテ曰金錢上ノ取引ニ於テ實ハ愛爾蘭ヨリ大ニ貸ス所アリ故ニ真正ノ爲替ハ愛爾蘭ニ利アルニシテ又理ニ於テ然ラザル可カラズ而テ三國間ノ爲替ノ愛爾蘭ニ不利ナルノ理由ヲ解釋セシト欲セ

ハ貿易差額ノ外ニ其原因ヲ求メザルヲ得ズト思惟ス  
 一千六百九十六年銀貨改鑄ニ着手セルニ當リ英蘭銀行紙幣ト  
 正貨トノ間ニ二割ノ價差起リ出納局割符證ト正貨トノ間ニ四  
 割ノ價差起リテ世人一般ニ此有様ヲ稱シテ紙幣及割符證ガ二  
 割及四割ノ割引ヲ生ゼリト云ヒシコトハ余既ニ之ヲ示セシ所ニ  
 シテ當時此有様ヲ稱スルニ決シテ他ノ語ヲ以テセシコト跡ヲ  
 見ザルナリ而テ一千八百四年ニ於テ愛爾蘭銀行紙幣ハ一割ノ  
 價差ヲ以テ正貨ト交換セラレシコト即何人ト雖ニ「ギニー」ノ  
 金貨ヲ以テ「キニー」ノ紙幣ト二志若クハ其以上ノ銀貨トヲ買  
 フヲ得シ也然ルニ一千六百九十六年ノ商人ハ斯カル有様ヲ稱  
 シテ紙幣一割ノ割引ヲ生ゼリト云ヒシコト一千八百四年ニ於テ  
 ハ斯カル有様ヲ稱スルニ一種ノ新語ヲ以テスルニ至レリ即紙  
 幣ノ價值下落セルニ非ズシテ正貨ノ價值騰貴セルナリトノ説

強ク主張セララル、ニ至レリ斯クテ一人ノ證報者ハ「汝ハ愛爾蘭  
 銀行紙幣ノ下落セルヲ知ルヤ」トノ問ヲ受クルニ當リ之ニ答テ  
 曰余之ヲ知ラズ何トナレバ余ハ強迫ヲ以テ紙幣ヲ發行シ一切  
 ノ場合ニ於テ割引ヲ以テ之ヲ拂渡スニ非ザルヨリハ紙幣下落  
 セリト稱ス可カラズト思惟スレバナリ余ハ今日ニ於テハ紙幣  
 下落セルニ非ズシテ寧ろ金貨ノ價值騰貴セルナリト云ハザル  
 ヲ得ズト又「汝ハ一國各種ノ財産ニ對スル紙幣價值ノ變動ト  
 一種ノ物品即金貨ニ對スル紙幣價值ノ變動トノ二者中何レヲ  
 以テ紙幣ノ下落ヲ量ル可キ最良ノ標準ナリト思惟スルヤ」トノ  
 問ニ答テ曰余ハ第一者ヲ以テ最良ノ標準ナリト思惟ス何トナ  
 レバ金貨ハ今日ニ於ケルガ如ク特別ノ目的ノ爲メニ需要セラ  
 ルコトスレバナリト蓋銀行紙幣ハ正貨ヲ仕拂フ可キノ約束ニ  
 對テ決シテ他ノ財産ヲ仕拂フ可キノ約束ニ非ズルナルニ此證

報者が之ヲ記應セザリシハ驚ク可キナリ又「英國銀行紙幣ハ愛爾蘭ニ於テ増打ヲ生シ高價ヲ以テ愛爾蘭銀行紙幣ト交換セラレ、ナリ左レハ此事實ハ金貨ノ一地方ニ限テ騰貴セルニ非スレテ愛爾蘭銀行紙幣ノ下落セシヲ證スル者ト汝ハ思惟セザルヤ」トノ問ニ答テ曰余ハ爾カク思惟セズ」ト而テ他ノ證報者モ此等ノ意見ニ同ゼリ蓋苟モ外國爲替ノ何物タルヲ尋思シ當時愛爾蘭貨幣ノ有様ニ關スル事實ヲ觀察スルキハ吾人ハ斯カル意見ヲ聞キテ笑ハザルヲ得ザル可シ斯カル意見ノ如キハ時トシテセイイント、ジョーシ映以西ニ行ハル、一種奇怪ナル思想ヨリ出デシ者ト爲サルヲ得ザル可シ然ルニ何ソ圖ラシ外國爲替ニ關シテ之ト同一ノ事情英國ニ起ルニ及ヒ我國數多ノ人々ガ之ト同一ノ主義ヲ固執セルヲ見ントハ而テ爾後ト雖同一ノ事情起ルニ會セハ恐ラクハ同一ノ主義再ヒ行ハル、ナル可シ

然レハ證報者中大ニ其説ヲ異ニセル者一人アリキ輸出、入監察總官マールシム氏は是ナリ氏曰ダブリノ重モナル市街ニ於テハ正貨ヲ賣買スルノ店舗アリテ當時「ギニー」金貨ノ小賣相場ハ紙幣「ギニー」ト銀貨ニ志ニ片トナリキ」ト氏又曰一千八百三年十二月ノ末ニ當リダブリニ於テ倫敦宛爲替ノ相場ハ若シ愛爾蘭銀行紙幣ヲ以テ仕拂フキハ英金百磅ニ付百十六磅十志ナリシト雖若シ正貨ヲ以テ仕拂フキハ僅ニ百零六磅十志ナリキ又凡テ内地ノ取引ニ於テモ同様ノ事實ヲ示セリ蓋「ギニー」金貨ヲ懷ニセル人ハ「ギニー」紙幣ヲ有セル人ニ比スレバ市場ニ於テ多額ヲ買ヒ得シナリ故ニ彼レ金銀賣買ノ店舗ニ行キ其「ギニー」金貨ヲ以テ「ギニー」紙幣ト増打ト買ヒ得クシ彼レハ他人ノ有スル者ト同一ノ價值アル「ギニー」紙幣ヲ得ルノ外ニ更ニ増打ヲ得ルナリ而テ英國銀行紙幣ハ其價值全ク「ギニー」金貨ニ同

シガリシナリ左レバ此等ノ事實ニ徴シテ之ヲ考フルニ愛爾蘭  
 銀行紙幣ハ正貨ニ比シテ其價值ノ一割乃至一割二分ヲ失ヘル  
 ナ知ル可シ或ハ是レ正貨價值ノ騰貴ニシテ紙幣ノ下落ニ非ス  
 ト論スル者アリト雖若シ果シテ正貨一割乃至一割二分ノ大騰  
 貴ヲ爲スアラハ斯ハ即更言スレバ物品一割乃至一割二分ノ大下落  
 ナ爲スアラハ斯カル有様ハ決シテ久シキニ續ク能ハザル者ヲ  
 リ何トナレバ斯ノ如クニ甚シク物品下落セバ爲メニ正貨ノ騰  
 貴セザリシ英蘭ヨリ正貨ヲ吸引セザルヲ得ザレバナリ且正貨  
 ノ通用價ノ何タルニ拘ラズ原ト銀行紙幣ハ之ト平價ニテ發行  
 セラレタル者ナレバ紙幣ハ正貨ト共ニ騰貴シ二者相交換シ得  
 ザル可カラズ故ニ若シ紙幣ニシテ正貨ト交換シ得ザルニ於テ  
 ハ是レ紙幣ガ其當初ノ價值ヲ失ヒシ者ニシテ其割合ダケ下落  
 セル者ト思惟セザル可カラズ」ト左シルマール氏ハ明カニ愛

爾蘭銀行紙幣下落セリトノ説ヲ唱ヘタリ  
 氏ハ愛爾蘭ガ多年間貿易ノ差額ヲ外國ニ貸セシニ拘ラズ尙  
 爲替相場ノ大ニ下落シテ止マザリシヲ示セシ後チ左ノ問ヲ  
 受ケテ曰  
 汝ハ愛爾蘭ニ於テ紙幣下落シ爲替相場ノ彼レノ如ク大ニ下  
 落セルハ紙幣ノ下落ニ原因セリトノ説ヲ汝ノ確信セル意見  
 下シテ茲ニ證據セント欲スル乎」ト  
 氏之ニ答テ曰  
 然レ余之ヲ證據セント欲スルナリ抑ダブリニ於テ爲替ノ  
 下落セシハ今日ニ於テ既ニ數年間續キシ所ニシテ古來爲替  
 ノ久シキニ續キテ下落セルハ常ニ爲替手形ノ購買ニ充ツ可  
 キ貨幣ノ下落ニ原因セザルハナキト同シク此回ノ下落ノ如  
 キモ亦貨幣ノ下落ニ原因セザル可カラズ而テ往時ヲ試ミテ

曾ア其功ヲ奏セザルコトナカリシ救治策ヲ今回ニ試ミハ又必  
ス其功ヲ奏ス可シ即其救治策トハ貨幣ノ下落ヲ除クコト是ナ  
リト

此等ノ意見ハ則一千六百九十六年ノ人ノ懐キシ意見ニ同シク  
シテ吾人ハ其眞理タルコト再ヒ我國ニ於テ承認セラルハニ至  
リシマアゴ久シキ幽鬱ナル歲月ヲ經過セシコト見ル可シ蓋單  
ニ貿易ノ差額ヲ外國ニ借ルノ故ヲ以テ爲替相場ノ下落百十八  
磅ヲ甚シキニ至ルヲ得ルト想像スルガ如キハ愚ノ最ナル者  
ルコトハ容易ニ之ヲ證シ得可シ吾人ハダブリソヨリ倫敦ヘ正貨  
ヲ回送スルノ費用ハ多クモ二磅ニ超ユ可シト想像スル能ハズ  
左シハ百零八磅六志八片ヲ以テ爲替相場ノ平均點トスルガ故  
ニ若シ其相場百十磅六志八片ノ點ヲ超ユルキハ以テ直ニ正貨  
ヲ回送スルヲ以テ利アリト不可シ愛爾蘭人ハ百十磅六志八片

ヲ以テ正貨ヲ倫敦ニ回送シ得ルニ拘ラズ故ラニダブリソニ於  
テ倫敦宛ノ百磅手形ヲ買ハンガ爲メニ百十八磅ヲ仕拂フノ愚  
ヲ爲ス者ニ非ザルヤ必セリ  
紙幣兌換停止前ニ在テハ金貨ノ相場ト倫敦ニ對スル爲替ノ有  
様トニ徴シテ紙幣發行ヲ序理セザルヲ得ザリシコトハ愛爾蘭銀  
行取締役ノ之ヲ許セシ所ナリ金貨ノ非常ノ取付ケヲ受ケ外國  
爲替不利ナレニ當テハ取締役ハ金貨ノ取付ケヲ妨ケンガ爲メ  
ニ紙幣發行ヲ減縮セザルヲ得ザリシナリ然ルニ一トタヒ正貨  
仕拂ヲ免ルハニ及ンデハ彼輩ハ最早同一ノ規則ヲ遵守スルノ  
義務カキ者ト思惟シ而テ彼輩ガ如何ニ驚ク可ク紙幣ヲ増發セ  
シ乎ハ余輩ノ既ニ見シ所ナリ然レモ紙幣ノ發行多キニ過クル  
如キ場合成ハ之ナキニ非ザルコトハ彼輩之ヲ許セリ而テ今ヤ一  
種ノ新主義出ズルコト此新主義ニ關シテハ余後章ニ於テ稍十分

之論論ヒザルヲ得スト雖茲ニ之ヲ一言シ置ク可ク何トナレ  
 商人ガ此主義ヲ唱ヘタルハ此時ヲ以テ嚆矢トスレバナリイ  
 ルツレク氏ハ「汝ハ愛爾蘭銀行紙幣下落セリト思惟スルヤ」トノ  
 問ニ答テ曰余ハ假令金貨増打ヲ以テ賣買セラルバト雖銀行紙  
 幣下落セリトハ思惟セスト

(問)汝ノ理由ヲ説明セヨ

(答)遠謀深慮ヲ以テ管理セラレタル一銀行ハ唯其需要ノ多少  
 ニ應シ物品及容易ニ取立テ得可キ證券類ニ代ヘテ其紙幣ヲ  
 發行スルニ過ギズト余ハ思惟スルナリ即一定ノ期限ニ仕拂  
 ハル可キ真正ノ取引ヨリ起リタル確實ナル爲替手形ヲ買ヒ  
 又ハ出納局手形ノ如キ政府ノ證券ヲ買ヒ又ハ西班牙弗銀貨  
 若クハ其他ノ地金銀ヲ買ハンガ爲メニ其紙幣ヲ發行スルニ  
 過ギズ而テ愛爾蘭銀行紙幣ガ斯カル物品及證券類ニ代ヘテ

需要セラレ、ノ事實ハ其紙幣多キニ過ギズ又下落セザル  
 ノ證據ナリト余ハ思惟スルナリト

此主義ハ後日英蘭銀行取締役ノ採用スル所トナリシトハ余輩  
 後章ニ至テ之ヲ見ル可シ此主義ヤ愛爾蘭銀行取締役ガ金貨ヲ  
 以テ紙幣ヲ兌換セシ日ニ於テ遵守セザル可カラズト思惟セシ  
 主義ト全ク相反スル者ナリ故ニ若シ此主義ヲシテ正シカラシ  
 メバ不換紙幣ト兌換紙幣トハ全ク相異ナルノ主義ニ從テ序理  
 セラレザル可カラズト云ハザルヲ得ザルナリ  
 調査委員ハ此問題ニ關シテ數多ノ事實ヲ蒐集シ意見ト職業ト  
 ナ異ニセル數多ノ證報者ニ諮問セシ後テ遂ニ報告シテ曰ク眞  
 正ノ爲替ハ愛爾蘭ニ利アリ眞正ク爲替ト名目上ノ爲替トノ差  
 額ハ愛爾蘭銀行紙幣ノ下落ヨリ起レリト而テ調査委員ハ紙幣  
 ノ下落セシニ非スシテ金貨ノ價值騰貴セルナリトノ説ノ極メ



テ誤レルコト示セリ曰爲替相場ノ差額ハ決シテ一地ヨリ一地  
 へ正金ヲ回送スル費用ノ上ニ昇ル能ハザル者ナリ而テ若シ此  
 上ニ昇ルアレバ是レ必ス他ノ原因ニ基カザル可カラズト次キ  
 ニ委員ハ紙幣ノ過發ヲ抑ユル唯一ノ制限ハ所持人ノ請求ニ從  
 テ金貨ト兌換スルニ在リテ此制限ノ除カレシ以來ハ紙幣ノ甚  
 シク増加セラレシコト示シ又巨額ノ劣惡ナル貨幣價造セラレ  
 テ流通上ニ放注セラレシコト示シ又從來外國爲替ノ不利ナル  
 ニ當テハ常ニ紙幣ヲ減縮シタリシコト示セリ即委員ノ説ハ曰  
 假令遠謀ヨリシテ紙幣減縮ノ處置ニ出デザルモ正貨ノ在高  
 益減少シ之ヲ補充セシムルハ爲替相場下落ノ度ニ應シテ損失  
 ナリ買サザル可カラザルガ故ニ勢ヒ必要ヨリシテ紙幣減縮ノ  
 此處置ニ出テサルヲ得ザル可シ而テ委員ハ斯カル處置ノ結  
 果ハ常ニ爲替相場ヲ回復スルニ在ルコトハ理論及事實ニ徹シ

ナ明ナルコト信ズ然ルニ兌換停止條例ノ出デシ以來ハ取締  
 役全ク之ト反スルノ主義ヲ執リ爲替ノ不利ナルニ當テ著シ  
 ク其紙幣ヲ増加セリ而テ紙幣ノ過發セラレハ從ヒ之ト度  
 ナ同フシテ爲替相場不利トナレリ何トナレバ爲替ノ仕拂ニ  
 充ツ可キ流通媒介物ノ價值ノ多少ハ爲替相場ニ影響セザル  
 可カラザルコト明ナレバナリ一定ノ仕拂ヲ爲スニ要スル流通  
 媒介物ノ數額ハ其價值ノ下落スルニ從テ増加セサルヲ得ズ  
 シテ仕拂ヲ爲スニ劣惡ナル價造正貨ヲ以テスルモ將テ下落  
 セル紙幣ヲ以テスルモ其理一ナレバナリ若シ紙幣下落シテ  
 其實際ノ價值其表面ニ記載セル價值ヨリモ減少スルハ此  
 下落紙幣ヲ以テ仕拂ヲ爲替ハ不利ナルガ如キ外觀ヲ呈セザ  
 ル可カラザルコト猶ホ十分ノ金ヲ含マザル劣惡正貨ヲ以テ仕  
 拂ヲ爲替ノ然ラザル可カラザルガ如クナレバナリ故ニ正貨

ノ場合ニ於テハ其劣悪ヲ醫シ紙幣ノ場合ニ於テハ其下落ヲ醫セバ齊シク爲替ヲ平均點ニ回復シ若クハ其時ノ真正ノ有様ニ回復スルノ結果ヲ生ス可シト

委員ハ種々ノ小救治策ヲ勸告セシ後チ言フテ曰

然レモ若シ之ト同時ニ紙幣ノ過發ヲ節減シ以テ愛爾蘭ニ於テ紙幣ノ下落ヲ除クニ非ズンハ以上ノ救治策ヨリ生ズル利益ハ微ニシテ久シキニ續カサル可シ(中略)而テ委員ハ紙幣兌換停止ノ際ト雖停止ノ行ハレサルモ同一ノ主義ニ從ヒ爲替ノ不利トナル毎ドニ紙幣ヲ減縮スルハ愛爾蘭銀行取締役ガ遵守ス可キ避ク可カラザル義務ニシテ若シ取締役此義務ヲ盡サザルニ於テハ爲替ノ不利トナリ且動搖スルノ弊害ハ之ヲ彼輩ノ罪ニ歸セザル可カラサルヲ委員ノ確説トシテ茲ニ明言ス

次キニ委員ハ劣悪銀貨及之ニ代川センガ爲メニ發行セラレタル紙幣並ニ手形ノ極メテ悲ム可キ有様タルヲ示シ斯ノ如キハ明ニ爲替ノ不利ナルニ原因スト云ヘリ爲替ノ不利ナル有様ニテ續ク間ハ善良ナル銀貨ハ悉ク英國ニ流出シ去リ其缺ヲ補ハンガ爲メニ地方ニ於テハ小額ナル銀券ヲ發行シダブリニ於テハ非常ニ劣悪ナル銀貨ヲ大ニ私鑄セリ而テ此等ノ弊害ハ爲替ヲ其真正ノ有様ニ回復シ善良ナル銀貨ヲ發行スルニ非サレバ決シテ救治スル能ハズト云ヘリ

委員ハ愛爾蘭銀行ガ外國爲替ノ有様如何ニ徴シテ其紙幣發行ヲ序理セザル可カラズトノ説ヲ痛論切言シテリト雖此一事ヲ以テ足レリト爲シ夫ノ紙幣發行ハ割引ヲ求ムル爲替手形ノ多少ニ因テ序理セラレサル可カラズト云フ新主義ノ常否ヲ觀察スルヲ爲サザリキ蓋此問題ニ關スル原理ヲ講究シ委員ニ供ヒ

ラレタル事實ヲ熱慮セル者ハ何人ト雖委員ノ意見ニ同セザル  
 事得サル可シ而テ余ハ銀行ヲ專業トセル證報者即愛爾蘭銀行  
 取締役及其他委員ノ諮問ヲ受ケタル銀行者ガ己レノ事業ヲ支  
 配シ己レノ遵守シテ以テ其政略ヲ定メザル可カラザル所ノ原  
 理ヲ毫モ會得セザリシコニ注目セザルヲ得ズ反テ真正ノ原理  
 ハ銀行者以外ノ證報者ノミ明ニ之ヲ會得シテ委員ニ陳示シ而  
 テ委員ヲ組成セル政治家ノ採テ以テ確立スル所トナレリ左レ  
 ハ余輩ハ銀行者ガ得意者ノ憤怒ヲ招キ己レノ職業及利潤ヲ失  
 ハンコトヲ恐レテ爲メニ幾分カ其思想ヲ感亂セラレタル者ト想  
 像シテ可ナラン  
 抑各國互ニ貨幣ヲ異ニスル間ハ仕拂ヲ爲ス可キ共同普通ノ媒  
 介物ナクシテ勢ヒ爲替ノ方便ニ依ラザル可カラザルコト明ナル  
 ガ故ニ委員ハ強ク左ノ策ヲ主張セリ曰現川貨幣ト勘定上ノ名

稱トハ之ヲ一ニセザル可カラズ而テ愛爾蘭銀行紙幣ハ英國銀  
 行紙幣ヲ以テ兌換ス可キ者ト爲サザル可カラズ又愛爾蘭銀行  
 ハ此目的ノ爲メニ倫敦ニ資金ヲ設ケ置キ凡テ其手形ハ期日拂  
 ノ者ト爲サザル可カラズ此策ハ曩キニ蘇格蘭ニ關シテ施セシ  
 ニ爲メニ蘇格蘭ノ爲替ヲ平均點ニ回復シ一千七百六十三年後  
 ハ政治上及商業上ノ激騷凶愾アルニ拘ラズ常ニ之ヲ平均點ニ  
 維持スルノ結果ヲ生シタリト  
 委員ノ此報告書出テタリト雖多年後ニ至ルマデハ爲メニ議院  
 ニ於テ討論ヲ起サザリシニ似タリ一千八百九年ニ至リバルチ  
 氏ハ委員ノ勸告ニ從ヒ英國及愛爾蘭ノ貨幣ヲ一ニス可シト  
 ノ議ヲ出セシニ此議ハ起立ヲ取ルニ及ハズシテ否決セラレタ  
 リ又報告書ハ一千八百二十六年マデハ公衆ノ爲メニ出版セラ  
 レザリシト雖愛爾蘭銀行ニハ回附セラレ爲メニ該銀行ノ政略

多少ノ影響ヲ生ゼシ者ノ如シ蓋フラスター氏ハ議院ニ於テ言  
 フテ曰一千八百四年五月六月七月ニ於テ取締役ハ其紙幣ヲ三  
 百萬磅ヨリ二百五十萬磅ニ減少シ而テ爲替相場騰貴セリ然ル  
 ニ八月ニ至リ再ヒ其紙幣ヲ増加シ而テ爲替相場亦再ヒ下落セ  
 リト出納局長アッディングトン氏ハ紙幣下落ノ爲メニ爲替相場ノ  
 上ニ實ノ影響ヲ及ホス者ト論スルガ如キハ言語ノ誤用ニ出ル  
 者ナリト公言セリ氏謂ヘラク紙幣ノ過發ハ其下落ヲ起スニア  
 ラント雖各國互ニ異ナルノ流通媒介物ヲ有スルガ故ニ其何レ  
 ガ下落スルモ唯爲替相場ノ上ニ名ノミノ影響ヲ及ブスニ過キ  
 ズト然レモアッディングトン氏ハ仕拂ヲ爲スニ愛爾蘭銀行紙幣ヲ  
 以テシ爲替相場ハ其紙幣ヲ以テ算セラレシトテ全ク忘却セル  
 者ナリ若シ夫レ仕拂ヲ爲スニ十分ノ量目アル銀貨ヲ以テセシ  
 ナラントハ爲替ハ紙幣下落ノ爲メニ攪擾セラレザル一實ニ然

リシナラシ然レモ爲替相場ナル者ハ現ニ爲替ノ仕拂ニ充ツ可  
 キ媒介物ノ如何ニ因ル者ニシテ此媒介物ダニ下落セハ爲替ノ  
 仕拂ニ用ヒラレサル他ノ貨幣ハ假令如何ナル有様ナルニ拘ラ  
 ズ爲替相場ハ必ス不利ナラザルヲ得ザルナリ夫ノ一千六百九  
 十六年ニ於テ銀貨ノ改良セラル、ニ及ビ假令英國銀行紙幣ハ  
 爾後尙ホ久シク下落セシト雖爲替相場ハ直チニ回復セシヲ見  
 ルモハ吾人此事ノ最モ明ナル實例ヲ有スルナリフツクス氏ハ  
 大ニ満足ノ狀ヲ表シ言テ曰余ハ出納局長ガ紙幣ノ過發ハ其下  
 落ヲ起スアアル可キヲ許セシヲ聽キ大ニ喜ブナリ本院ハ夫ノ  
 紙幣ノ下落ニ非スシテ金貨ノ騰貴ナリト云フ如キ妄説ヲ決シ  
 テ再ヒ聞クアアラザル可シト蓋氏ノ斯ク喜ヘルハ早キニ失セ  
 ル者ナリ何トナレバ氏ニシテ僅ニ六年後ノ將來ヲ前見シ得  
 ラントハ此妄説ノ單ニ再發スル耳ナラス從前ヨリモ一層ノ頑

固執拗ヲ以テ主張セラル、イテ悟リシナル可ケレバナリ  
 議院ノ委員ガ銀行紙幣ノ發行ハ外國爲替ノ有様ニ徴シテ序理  
 セラレザル可カラズトノ主義ヲ初メテ唱ヘシ時ノ景況ハ以上  
 述ブル所ノ如シ此時ノ委員ハ説ヲ異ニシ黨ヲ異ニセル諸大政  
 治家ヲ殆ド凡テ網羅セル者ナリ蓋當時ニ在テハ委員會ノ決議  
 ニ於テ賛成者及反對者ノ名簿ヲ公刊セザルノ習慣ナリシヲ以  
 テ余輩ハ委員ガ悉ク其意見ヲ同フセシヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ  
 ト雖其報告書ノ語氣強クシテ斷平タルヲ見レバ委員ノ意見モ  
 亦強クシテ斷平カリシイテ推決シテ可ナル可ク又假令少數黨  
 ノ多數黨ノ決議ニ反對セル者アリシトスルモ其甚微弱ナリシ  
 トテ推決シテ可ナル可シ  
 余輩ハ之ニ次ク數年間ニ於テハ多ク論ス可キ者ナシ一千八百  
 四年ニ於テ銀貨ノ匱乏極メテ甚シカリシヲ以テ英蘭銀行ハ其

缺ヲ補ハンガ爲メニ五志ノ弗銀貨ヲ發行シ其流通セシメタル  
 額一百四十一萬九千四百八十一枚ニ及ベリ一千八百六年ニ於  
 テ英蘭銀行ガ一千八百年ノ條例繼續ヲ得ルノ代價トシテ政府  
 ニ貸セシ貸付金其期限ニ違セリト雖該銀行ハ年三分ノ利息ヲ  
 以テ平和條約ノ批准後六ヶ月マテ其償還ヲ延期スルヲ諾セリ  
 一千八百七年ニ於テ議院ハ政費ノ各科目就中英蘭銀行ニ爲シ  
 タル仕拂ヲ調査セシメンガ爲メニ委員ヲ任シタリ而シテ委員  
 ノ第二報告書中ニ英蘭銀行ト政府トノ關係ニ就テ興味アル事  
 實ヲ記セルヲ見ルナリ  
 此時ニ當リ英國ノ貨幣ニ大擾擾ヲ生ズ可キ政治上ノ事情起レ  
 リ余請フ簡短ニ其要ヲ摘載セシ一千八百五年前十年間普國ハ  
 獨リ自カラ信シテ以爲ヘラク昂然局外ニ立ツキハ暴風ヲ避ケ  
 得可ク而テ佛國及奧國ガ互ニ無謀必死ノ戰爭ニ從事スルニ乘

シテ己レハ靜カニ日耳曼ノ北部ニ其領地ヲ廣メ其權勢ヲ加ヘ以テ利スルヲ得可シト而テ此時ニ至ルマデハ普國ノ政略ハ驚ク可キ功ヲ奏シタリキ然ルニ忽焉此期望ハ消滅シ去リ斯カル曖昧タル政略ハ既ニ不而目トナリシ耳ナラズ又到底大ニ危險アルコトハ普國ノ宰相ト雖又之ヲ悟ルニ至レリ普國ハ各國ノ爲メニ賤蔑セララル、所トナリシト曩キニクリミヤ戰爭ノ時ニ該國ガ同一ノ政略ヲ執リシガ爲メニ賤蔑セラレタルガ如クナリケレバ最早該國ト雖流石ニ之ニ堪ユル能ハサルニ至レリ而テ此時恰モ露帝アレキヤンドルノベルリンニ着スルニ會シ帝ノ力ニ因リ歐州ニ於ケル佛國ノ權勢ヲ挫折センガ爲メニ露普二國ノ間ニ秘密條約成リ十一月三日ヲ以テ調印セラレタリ此條約ニ於テ普國ハ先ツナポレチンニ向テ或ル要求ヲ爲シ若シ彼レノ之ヲ諾セザルニ於テハ十二月十五日ヲ以テ彼レニ對シテ

開戰ヲ宣告ス可キ旨ヲ約シ而テ普王ハ假モ嚴正ナル誓ヲ行ヒ此ノ約ヲ履行ス可キ旨ヲ證セリ是ニ於テ乎普國宰相ハ大ニ躊躇セシ後チ遂ニ二十八日ヲ以テ佛帝ノ本陣ニ赴ケリ此時ナポレチンハオーステアルライツノ戰爭ノ準備ヲ爲シ練兵ヲ行ヒ居シト雖普相ホーグウツツノ來リシ理由ヲ能ク察セシヲ以テ暫ク之ニ接見スルヲ避ケンガ爲メニ彼レヲシテウインナニ赴カシメタリ而テ十二月二日ナポレチンハオーステアルライツノ大戰爭ヲ以テ露帝及煥帝ノ目前ニ於テ大ニ露煥ノ兵ヲ破リシニ驚ク可キ哉普相ハ直ニナポレチンノ許ニ馳セテ此勝利ヲ祝賀シ且ナポレチント同盟ノ條約ヲ結ヒ此條約ニ因テ普國ハ其同盟者タル英王ガ歐州大陸ニ有スル領地ヲ攻取センコトヲ申出ダセリ而テ遂ニナポレチントノ此條約ハ十二月十五日ヲ以テ調印セラレタリ蓋此日ヤ曩キニ普國ガ露帝ト結ビタル條約ニ從ヘ

ハナボレテンニ對シテ開戦ヲ宣告セザル可カラザルノ日タル  
ナリ翌年三月ニ至リ普國ハナボレテンノ強迫ヲ受ケ英國商品  
ノ普領各港ニ入ルヲ禁スル令ヲ發シ斯クシテ英國ニ穀物ノ  
供給ヲ得ル重モナル泉源ヲ遮斷セリ  
普國ハ一千八百五年ニ於テ此ノ如ク不廉恥及不信實ヲ極メタ  
ル處置ニ出テシカバ速ニ其復讐ヲ蒙ラザルヲ得ザリキナボレ  
テンハホーグウツツノ來リシ理由ヲ十分ニ能ク知レリナボレ  
テン曰汝ハ汝ノ君主ヨリ托セラレタル勝利ノ賀狀ヲ示サンガ  
爲メニ來レリ然レモ機運變ヒシガ爲メニ其賀狀ノ宛名ヲ變ゼ  
リ下而テナボレテンハ普國ノ爲メニ世ノ賤蔑ヲ買フノ結果ア  
ル一政略ヲ施シ英國ト普國トノ間ニ不和ヲ煽起スルヲニ熱心  
セシト雖而カモ此時ヨリシテ荷モ機來ラハ乘シテ以テ普國ヲ  
破ラントノ決心ハ瞬時モ墮スルナカリシ也普國トノ條約調印

セラレシ以來ハ彼レ常ニ普國ヲ憎ミシ耳ナラズ最モ強ク之ヲ  
賤蔑セリ左レバ彼レハ無限ノ驕傲ヲ以テ之ヲ遇シ而テ不信實  
ナル普國ハ屢非常ノ凌辱ヲ受ケテ後チナボレテンガハノ一ツ  
ルヲ其正當ナル君主ニ復センヲ竊カニ英國ト商議セルヲ發  
見シテ大ニ驚ケリ此時ニ當リ佛國、英國、露國ノ間ニ平和ノ商議  
久シク行ハレシト雖モ其功ヲ奏セザリキ而テ普國ノ醜名  
日一日ト愈著シキヲ加ヘケレバ人民ノ沸騰亦愈甚シキヲ加ヘ  
遂ニ政府ハ輕躁、急劇、無謀ヲ極ハメ前回ノ不信實ナル處置ノ外  
ハ其愚之ニ超ユルナキノ一處置ニ出テタリ即日耳曼ヲ立去ル  
可シトノ驕傲ナル命令ヲ突然ナボレテンニ送レリ而テ此狂妄  
不禮ナル命令ハ十月一日ヲ以テ巴里ニ達セシガ此時ナボレテ  
ンハスプリンニ赴カントシテ既ニ其途ニアリキ而テ十四日ニ  
至リ普國ハジナ及オーニステッドノ二戦争ニ於テナボレテン

ノ爲メニ破ラレタリ蓋該國ノ玆ニ至ルハ然ル可キノ理アリト云フ可シ戰爭後ナポレオンハフレデリッキ、ゼ、グレイトノ墳墓ニ參拜セシガ此日ヤ恰モ前年普王ガ此場所ニ於テ最モ嚴正ナル誓ヲ行ヒ條約ヲ履行ス可キ旨ヲ露帝アレキサンドルニ證シタル日ノ一週年期ナリキ

ナポレオンガベルリンニ着スルヤ直ニ十一月廿一日ヲ以テベルリン布告ヲ發シ以テ英國ノ商業ヲ禁シタリ是ニ於テ平英國樞密院ニ於テモ直ニ佛國ノ商業ヲ禁スル令ヲ出シテ以テ復讐ノ處置ニ出デタリ而テ一千八百七年間ハ英佛二國互ニ租界、殘忍、愚妄、不法ヲ以テ他ニ先ンゼラレザラシテ是レ競ヒ租々ノ令ヲ出ダセリ然レ此事ノ結果タルヤ獨リ瑞典ヲ除クノ外ハ悉ク歐洲大陸ノ各港ヨリ英國を旗ヲ逐除スルコアリキ抑此等ノ軍略タルヤ公然英國ノ商業ヲ破壞スルヲ以テ其目的トスル所ニ

シテ之ガ爲メニ英國ニ於テハ商品ノ供給乏シキヲ告ゲ世人ハ我製造ノ材料ニ充ツ可キ歐洲産ノ各物品ハ其供給ナキニ至ラシテ恐レタリ左レハ此等ノ物品ニ關シテ無限ノ投機取引行ハレタルハ自然ノ勢ニシテ此投機取引ノ爲メニ露國及歐洲東方ノ物品ノ直段大ニ騰貴シ通常ニ一倍若クハ二倍スルニ至レリ而テ此時西班牙ハ佛國ノ爲メニ占領セラレ、所トナリシヲ以テ西班牙ノ羊毛ニ關シテモ同様ノ投機取引行ハレ其直段二倍若クハ三倍ノ騰貴ヲ呈セリ又佛國ハ伊太利ニ於テモ最上權ヲ有セルガ故ニ伊太利ノ諸物品就中生糸ノ如キモ同様ニ騰貴セリ又我政略ハ他ノ點ニ於テモ之ニ讓ラザル有害ノ結果ヲ生シタリ蓋我樞密院ガ復讐ノ爲メニ出ダシタル諸令ハ大ニ中立國ノ權利ヲ侵スノ効アリシカバ爲メニ米國トノ戰爭目前ニ迫リ煙草綿花ノ如キ同國ノ産物ニ關シテモ投機取引行ハレテ其



直段大ニ騰貴セリ  
 供給減少ス可シトノ豫期ヨリシテ此等ノ物品ニ關シ投機取引  
 ナ起シタルニ際シ更ニ性質之ニ反スル事情起リテ商業通常ノ  
 順路ヲ一層攪擾セリ蓋佛軍ノ西班牙及葡萄牙ニ侵入セシガ爲  
 メニ此二國ガ其殖民地ニ對スル權力地ニ墜チ南米大陸ハ此時  
 ヨリシテ實際獨立トナレリ從前ニ在テハ此等殖民地ハ英國ノ  
 商業ニ對シテ嚴ニ閉鎖セラレシナリ然ルニ一千八百七年十一  
 月十三日ナポレタンハ「ブラガンズ」家ヲ葡萄牙ノ王位ヨリ廢  
 止タルノ令ヲ出ダシズ「ノ」ハリスボンヲ攻取シ王族ハ直ニ  
 ブラズルニ逃レンガ爲メニ乗船セリ即此等ノ事件ノ爲メニ南  
 米大陸ノ商業英國ニ對シテ開カレ而テ英國ハ新タニ斯カル廣  
 大無邊ノ市場ヲ得タルガ爲メニ商人ノ投機商業ヲ行フニ甚シ  
 ク澎漲セリ是ニ於テ平投機ノ狂亂全國人民ノ心ヲ奪テ商業上

ヨリ更ニ進ンデ合本會社ニ及ボシ一千七百二十年ノ狂亂茲ニ  
 再演セラレタリ堀割、橋梁、保險、酒造其他種々ノ事ニ關シテ數多  
 ノ合本會社勃然トシテ起リ之ト同時ニ英國銀行ハ遙ニ尋常租  
 界ノ境域ヲ越ヘテ投機ノ氣焰ヲ獎勵セリ地金調査委員ノ諮問  
 ニ應シテ陳示セルフランシス、ペーリリング氏ノ說ニ據レバ兌換  
 停止以來百磅ノ資産ヲモ有セザル書記吏ガ商人トシテ起リ五  
 千磅乃至一萬磅ノ割引ヲ許サレタル者甚多シト云フ而テ此割  
 引ノ需要ハ英國銀行之ヲ起セシ者ニシテ正當ノ商業ニ因テ起  
 リシ者ニ非ザレバ若シ兌換停止ニシテ除カル、キハ決シテ起  
 ル能ハザリシ所ナリト云フ左レハ英國銀行ノ割引セル手形ハ  
 一千七百九十五年ニハ二百九十四萬六千五百磅ナリシニ一千  
 八百九年ニハ一千五百四十七萬五千七百磅トナリ一千八百十  
 年ニハ二千零々七萬零六百磅トナレリ

此過度ノ投機取引行ハル、ト同時ニ各地方ニ於テ無數ノ地方銀行起リ恰モ一千七百九十三年前ノ狀ニ同シク其紙幣ヲ以テ國內ニ充溢セシメタリ是レ蓋一部ハ投機取引ノ結果タリ一部ハ之ガ原因タル者ナリ左レバ地方銀行ノ數ハ一千七百九十七年ニハ二百七十ニ減セラレタリト雖一千八百八年ニハ六百トナリ一千八百十年地金調査委員ノ任セラレシキニハ七百二十一ニマデ増加セリ此等銀行ガ流通セシメクル紙幣ノ額ハ三千萬磅ナリト算セラレタリ之ト同時ニ英國銀行ハ其紙幣發行ヲ二千一百万磅ニ増加セリ而テ最モ敬重ス可キ諸證報者ノ説ニ據レバ此類ハ遙ニ國內正統ノ需要ニ超ユル者ナリト云ヘリ此非常ノ投機取引及紙幣増發ト共ニ地金直段速ニ騰貴シ爲替相場速ニ下落シ一千八百四年ニ愛爾蘭ニ起リタルト同一ノ兆候ヲ現ハセリ左ノ一表以テ地金ノ騰貴及外國爲替ノ下落ヲ示

スニ足ル可シ

造幣金直段

銀直段

ハムボルクニ對スル爲替

年	造幣金直段 (磅志片)	銀直段 (志片)	ハムボルクニ對スル爲替 (志片)
一八〇五年一月	四、〇、〇	五、四	三五、六
一八〇五年十月	四、〇、〇	五、五	三三、九
一八〇八年七月		五、三	三四、九
一八〇九年二月	四、二〇、〇	五、三	三一、〇
一八〇九年五月	四、二一、〇	五、五	二九、六
一八〇十年一月		五、七	二八、六

事情此ノ如クナルニ當リ一千八百十年二月一日ヲ以テホルチル氏ハ貨幣及爲替ニ關スル種々ノ事實ヲ調査セシムルノ議ヲ起セリペーリソンズ氏ノ説ニ據レバ當時「ギニー」金貨ノ相場ハ二十六志乃至二十七志ナリシト云フ而テ此時夫ノ地金調査委員任セラレタリ

此有名ナル地金調査委員ノ報告書及委員ニ供セラレタル證報ヲ觀察スルニ先チ余輩ハ一言ス可キ者アリ即二若クハ二以上ノ人若クハ事件相合シテ一結果ヲ生シ其中一人若クハ一事件ノ就中著明ナル者アルモ他ノ人若クハ事件ハ歲月ヲ經ルニ從ヒ忘却セラレ其事ノ褒貶毀譽ハ最モ世人ノ眼ヲ引キタル一人若クハ一事件ニ全ク歸セラレ、ニ至ルコト是レニシテ此事ヤ實ニ屢起ル所ナリ而テ今論スル場合ニ於テモ亦此事起レリ蓋一千八百十年ノ地金報告書ハ種々ノ事情ヨリシテ最モ世人ノ注意ヲ引ク所トナリ之ガ爲メニ一千八百四年ノ愛爾蘭貨幣ニ關スル報告書ハ全ク覆ハレテ其影後ニ没セリ而テ該報告書ハ最モ速ニ世ノ忘ル、所トナリシト見ヘ一千八百十年ニ於テ英國銀行ノ取締役ハ殆ト毫モ之ヲ知ラザリシ程ナリキ然レモ一千八百四年ノ委員ガ調査セシ愛爾蘭貨幣混亂ノ狀ハ一千八百

十年ニ於テ地金調査委員ヲ任セシムルニ至リタル英國貨幣混亂ノ狀ト精密ニ同シカリシナリ而テ銀行ヲ專業トセル證報者ハ此二ノ場合ニ於テ同一ノ説ヲ陳示シ固執セリ又委員報告書ノ趣意ハ此二ノ場合ニ於テ全ク相同シカリキ即何レノ場合ニ於テモ最モ痛ク銀行取締役ノ主義政略ヲ非難セリ一千八百十年ノ委員ノ報告書ハ論体一層能ク整ヒ學理上ノ法則ニ合ヘリ故ニ文學上ヨリ之ヲ觀察スレバ優レル者アリト雖而カモ其採リテ以テ主張セシ所ノ原理ニ至テハ一千八百四年ノ委員ノ採リシ原理ニ全ク同シカリシナリ

此二委員ハ紙幣兌換停止ノ際ニ在テ銀行紙幣ノ發行ヲ支配ス可キ原理如何ノ問題ニ關シ時代ヲ異ニシテ同一ノ決論ニ達セシ者タルバ此二委員ヲ組成セル政治家ノ名ヲ比較スルハ興味スルコト可シ即一千八百十年ノ委員ハホルチル氏、スペンセ

ル、ベルンツル氏、トールキー氏、テムプル公、ブランド氏、バルチル氏、マゼンス氏、シロンストーン氏、ギッデー氏、ドゥッキンソン氏、ソルントン氏、シユリダン氏、ベリリング氏、マンコング氏、シャープ氏、グレンフォール氏、フオスタト氏、タムソン氏、イルヴィング氏、ハスキンソン氏、アベルクロムビー氏ヨリ成レリ而テ之チ一千八百四年ノ委員ニ比較スルニ共ニ此二委員中ニ入リシ者ハシユリダン氏及フオスタト氏ノ二人アルノミ

又委員ノ諮問ヲ受ケタル證報者ノ種類モ相同シカリキ第一銀行取締役、第二私立銀行者、第三普通商人、第四局外證報者即是ナリ而テ此各種證報者ノ證報ヲ讀ムニ余輩ハ英蘭銀行取締役及商人ノ説ハ愛爾蘭銀行取締役ノ説ニ全ク同シキヲ見ル也二銀行ノ取締役ハ齊シク銀行紙幣下落セリトノ説ヲ固ク拒ミ正貨騰貴セリトノ説ヲ主張セリ又正貨ヲ以テ紙幣ヲ兌換セザル

可カラザル時ニ在テハ外國爲替及地金相場ニ徴シテ紙幣發行ヲ序理セザル可カラザリシヲ許シ兌換停止後ハ復テ從來ノ此規則ヲ遵守セザリシヲ許シ又之ヲ遵守スルノ必要ヲ拒ミシガ如キモ二銀行ノ取締役全ク同一轍ニ出デタリ又二銀行取締役ハ齊シク其紙幣發行ガ爲替ノ上ニ影響ヲ及ボセシヲ拒ミ假令其紙幣發行ヲ制限スルモ爲替ヲ平均點ニ回復スル微少ノ効モナキヲ主張セリ又荷モ真正ノ取引ヨリ起リタル確實ナル手形ヲ割引センガ爲メニノミ紙幣ヲ發行スルニ於テハ決シテ紙幣ノ發行多キニ過クルヲナキヲ主張セシガ如キモ二銀行ノ取締役全ク相同シカリキ

二銀行ノ取締役ガ各點ニ於テ其意見及主義ヲ全ク相同フセシ事ノ如ク著シキハ又之アラズ然レモ余輩ハ大ニ其説ノ力ヲ減ス可キ一事情アルヲ記セザル可カラズ其一事情トハ他ナシ

取締役ハ此事ニ利害ノ關係アル證報者タルト是ナリ第一ニ彼輩ハ正貨ノ仕拂ヲ禁セラレ隨テ兌換ノ義務ヲ免レシ以來ハ大ニ其紙幣發行ヲ擴張シ其紙幣發行ノ擴張セラル、ニ從テ利益亦増加シ株主ヘノ割賦金大ニ増加セリ第二ニ彼輩ノ主義ハ大ニ攻撃セラレ彼輩ハ稍被告者タルノ地位ニ立ツ者ニシテ調査委員ハ彼輩ノ處置ヲ審問ス可キ法廷ノ如キ者アリ而テ彼輩ノ施セル主義ハ銀行ノ株主ニ取テ彼レノ如ク大利益アリシ者ニシテ彼輩ハ自カラ施セル主義ノ不正ナルヲ許ス可シトハ期ス可カラズ又普通商人ノ如キモ此事ニ利害ノ關係アル證報者タルヲ免レズ何トナレバ彼輩ハ銀行ヨリ成ル可ク大ナル融通ヲ得ルヲ利トシ若シ銀行紙幣ノ發行減縮セラル、トハ其投機取引若クハ其他ノ取引沮害セラレザルヲ得ザレバナリ故ニ彼輩ハ銀行取締役ノ執リシ主義政略ヲ以テ己レニ利アリトスルナ

リ然レド前回及今回ノ委員ハ此事ニ何等利害ノ關係ヲモ有セザル獨立ナル局外證報者ニ諮問シ而テ何レノ場合ニ於テモ此等ノ證報者ハ全ク銀行取締役ノ意見ニ反對シ其政略ヲ痛撃セリ又何レノ場合ニ於テモ委員ハ斯ク地位ヲ異ニシ意見ヲ反對ニセル諸證報者ニ諮問セル後チ銀行取締役ノ意見及處置ヲ強ク非難シ其政略ヲ改メノトテ彼輩ニ要スル報告書ヲ出ダセリ愛爾蘭ノ場合ニ於テハ其報告書ノ語氣極メテ嚴ニシテ英蘭ノ場合ニ於テハ其報告書ノ精神ハ齊シク嚴ナルモ其語氣ニ至テハ稍寛ナル所アリキ

理財上ノ此等ノ疑問ニ關シテ二黨意見ノ乖離ハ其根底甚深クシテ且永遠ニ續ク一政治上ノ疑問ニ異ナラザルガ故ニ茲ニ雙方ノ相争ヲ所ク簡且明ニ對照スルヲ便トス可シ蓋事實ニ至テハ容易ニ之ヲ確定シ得可キ所ニシテ雙方ノ互ニ一致スル所ク

リ即ノ如シ

第一地金ノ造幣價即法律公定ノ貨幣本位ハ一匁ニ付三磅十  
七志十片半ヲリ

第二當時地金ノ市場價ハ一匁ニ付四磅十志タリシナリ

第三外國爲替ハ甚シク下落シ即ハムボルグニ對スル爲替ハ  
九分下落シ巴里ニ對スル爲替ハ一割四分下落セリ

第四過クル數年間銀行紙幣ノ増加ハ甚大ニシテ當時尙ホ速  
ニ増加シツ、アリシナリ

第五正貨去リテ市場ニ跡ヲ絶テリ

此等ノ事實ハ一般ニ認知セラレシ所ニシテニ黨ノ主張スル所  
ノ反對ノ意見左ノ如シ

甲黨ハ主張シテ曰

第一(イ)銀行紙幣下落セリ

(ろ)地金ノ造幣價ト市場價トノ差額ハ紙幣ノ下落ヲ測ル  
ノ尺度ナリ

第二(イ)如何ナル場合ニ於テモ外國爲替相場下落ノ達ス可キ

極點ハ定マレル者ニシテ容易ニ知り得可キ所ナリ即  
其極點ハ貨幣回送賃、保険料其他些細ナル費用ヨリ成

レル者ニシテ之ヲ越ヘテ下落ス可キ者ニ非ス

(ろ)然ルニ當時爲替相場ハ遙ニ此極點ヲ越ヘテ下落シ此  
下落ハ以上諸原因ノ何レニモ歸ス可カラス

(は)爲替相場ノ斯ク餘分ニ下落シ地金ノ市場價ノ造幣價  
ノ上ニ騰貴セルハ銀行紙幣ノ過發ニ原因ス

第三銀行紙幣ノ數額ヲ減少セバ內國貨幣ノ價值ヲ増加シ爲  
替相場ヲ平均點ニ回復セシメ地金ノ市場價ヲ造幣價ト  
同一ナラシム可シ

第四英國銀行取締役ハ紙幣兌換停止ノ際ト雖其紙幣發行ヲ  
 増減スルニ於テ停止前ニ遵守セザルヲ得ザリシ所ト同  
 一ノ規則ヲ遵守セザル可カラズ即外國爲替ノ有様ニ徴  
 シテ之ヲ序理セザル可カラズ若シ外國爲替利トナリ地  
 金流入スルニ當テハ取締役ハ之ヲ増發シテ可ナラザ  
 シ外國爲替不利ナルニ當テハ之ヲ減縮セザル可カラザ  
 ルナリ

此等ノ主義ニ反對シ乙黨ハ主張シテ曰

第一(イ)銀行紙幣下落セルニ非ズシテ正貨ノ直段騰貴セルナ  
 (ろ)紙幣ヲ以テ仕拂フモ若クハ正貨ヲ以テ仕拂フモ地金  
 ノ直段ニ差額アルナシ

第二外國爲替ノ下落ハ決シテ之ヲ紙幣ノ下落ニ歸ス可カラ

ズシテ是レ全ク英國ガ外國ニ負債ヲ擔フ事、軍兵ニ送金  
 スル事、ナポレオンノ大陸政略、其他政治上ノ處置ニ原因  
 スルナリ

第三英國銀行ガ紙幣ヲ増加シ若クハ減少スルハ外國爲替  
 及地金ノ市場價ヲ騰貴セシメ若クハ下落セシムルニ於  
 テ何等ノ影響ヲモ及ボス者ニ非ス

第四兌換停止後ハ停止前ト同一ノ規則ヲ遵守シ外國爲替ノ  
 有様ニ徴シテ紙幣ノ増減ヲ序理スルノ必要ナクシテ唯  
 標準ト爲ス可キハ世人ノ需要ニ在ルノミ而テ取締役カ  
 世人ノ需要ヲ標準トスルノ規則ヲ遵守スル間ハ決シテ  
 紙幣ノ發行多キニ過クルノ患アルナシ

以上二黨ノ相争フ第一點ニ關シテハ余前ノ一章ニ於テ之ニ含  
 ム諸原理ヲ十分ニ詳述シタルヲ以テ又茲ニ喋々スルヲ要セズ

何トナレバ金ガ「金ヲ仕拂フ可キ約束」ニ對シテ贖費スルヲ得可  
 シト想像スルノ極メテ愚ナルコトハ既ニ論セシ所ニ徴シテ十分  
 ニ明ナレバナリ然レモ英國ノ場合ト愛爾蘭ノ場合トノ間ニ相  
 異ナル一事情ノ存スルアリ蓋愛爾蘭ノ場合ニ於テハ銀行紙幣  
 公然割引ヲ生シ各取引ニ於テ正貨直段ト紙幣直段トノ二種ノ  
 直段立テラレタリ而テ正貨賣買ノ店舗アリテ此等ノ店舗ニ於  
 テハ公然若干ノ増打ヲ取り紙幣ニ對シテ金貨ヲ賣レリ然ルニ  
 英國ニ於テハ此事然ラザリシナリ其故如何ト云フニ英國銀行  
 紙幣ハ平價ヲ以テ租稅ニ受取リシコト如キモ之ガ一原因ナリ  
 ト雖其重モナル原因ハ二十一志以上ノ相場ヲ以テ金貨ヲ賣買  
 スルコトハ罪トシテ罰セラル、ノ恐レアリシコト是ナリ左レバ地  
 金調査委員ノ任セラル、少時以前ニ方アテ、ヨングト云フ者二  
 十一志以上ノ相場ヲ以テ金貨ヲ賣リシ故ヲ以テ審問セラレ有

罪ノ判決ヲ受ケタリ此法律ハ重量金貨ノミニニ適用セラレ五、  
 ノニ、ウェイト「八」グレイン以下ノ量目ヲ有スル輕量金貨ニ至リ  
 テハ之ヲ賣買スルモ妨ゲナクシテ通常六志若クハ七志ノ増打  
 ヲ取リ紙幣ニ對シテ賣ラレタリ斯ノ如ク十分ノ量目アル金貨  
 ナ其市價ニ從テ賣買スルハ法律上有罪ナリトセラレシテ以テ  
 金貨價值ノ如何ハ公然タル疑問ニ非ザリシヤ明ナリ即贖費ス  
 可キ金貨ヲ法律抑ヘテ強ヒテ之ヲ低廉ニ保チシナリ故ニ此事  
 實ヲ以テ金紙同價ナリシコトヲ證スルノ資ト爲ス可カラザルナ  
 リ若シ夫レ此事ニシテ罪トナルニ非ザリセハ各物品ニ關シテ  
 正貨直段ト紙幣直段トノ二種ノ直段立テラレシコトナラン  
 茲ニメルリ、氏ト委員トノ問答ヲ掲ゲン

(問)地金ノ造幣價ト市場價トノ差額ハ幾割ナルヤ  
 (答)約ソ一割五分若クハ一割六分ナリ



(問) 汝金ヲ買フニ當リ銀行紙幣ヲ以テ之ヲ仕拂フ乎

(答) 然リ

(問) 銀行紙幣ヲ以テ仕拂ヲ爲スルハ其直段ハ一匁ニ付四磅十志ナル乎

(答) 余内地ノ取引ニ於テ金ヲ賣リシト唯四磅八志ヲ受取リタリ

(問) 若シ汝金貨ヲ以テ仕拂ニ充ツルキハ更ニ低廉ナル直段ヲ以テ金ヲ買ヒ得ザル乎

(答) 余ハ金貨ヲ以テ仕拂ニ充ツル能ハズ余ハ金貨ヲ得ル能ハズ

(問) 姑ク仕拂ニ充ツ可キ金貨ヲ有スルト假定スルキハ汝ハ一匁ニ付四磅十志ヨリモ低廉ナル直段ヲ以テ金ヲ買ヒ得ザル可キ乎

(答) 否ナ余ハ決シテ低廉ナル直段ヲ申出サバ爾可シ余若シ若干ノ金ヲ買ヒ金貨ヲ以テ直段ヲ仕拂フコトアレバ余ハ銀行紙幣ヲ以テ其仕拂ニ充ツルキト同様ノ直段ヲ申出ス可シ

(問) 汝ハ地金ノ造幣價ハ一匁ニ付三磅十七志十片半ナリト云フキ金貨ニテ之ヲ算スル乎將テ銀行紙幣ニテ之ヲ算スル乎

(答) 余輩ハ二者ノ間ニ差ヲ立テズ余ハ金貨ヲ以テ仕拂フモ銀行紙幣ヲ以テ仕拂フモ其間ニ何等ノ差アリシヲ信セズ

(問) 一匁ノ金ガ三磅十七志十片半ノ價值ヲ有スル者ハ量目一匁ニ當ル丈ケノ金貨ガ恰モ此價值ヲ成スガ故ニ非ズヤ

(答) 然リ若シ一紳士來リテ余ニ金ヲ出ダスアラハ余ハ金貨ヲ以テスルモ銀行紙幣ヲ以テスルモ精密ニ同額ノ直段ヲ彼レニ仕拂フ可シ

(問) 金ノ造幣價トハ金貨ヲ以テ算セル地金ノ直段ナル乎

(答)然リ

(問)而テ今日ニ於テハ金ノ市場價ハ紙幣ヲ以テ算セラレ、平  
(答)然リ凡テ紙幣ヲ以テ仕拂ハル

左レハ吾人ハ市價ニ從テ地金ヲ買フニ何人モ金貨ヲ以テセス  
シテ紙幣ノミヲ以テセシト見ルナリ

銀行紙幣下落セズトノ説ヲ唱ヘタル他ノ證報者中ニ就キ余ハ  
有名ナル商人チャムパー氏ノ説ヲ茲ニ引擧ス可シ氏ノ説ハ全疑  
問ナ一點ニ歸着セシメタル者ナリ

(問)汝ハ何レカノ國ニ於テ過發紙幣若クハ強行紙幣ガ外國ニ  
對スル爲替相場ノ上ニ及ボシタル影響ヲ曾テ考察セシトア  
ル乎

(答)余曾テ少シク之ヲ考察セシトアリ

(問)汝ハ斯カル過發紙幣ヨリ如何ナル影響ヲ外國爲替ノ上ニ

及ボス者ト思惟スル乎

(答)余ハ強行紙幣下落スル時ハ隨テ影響ヲ爲替相場ノ上ニ及  
ボス可キヲ思フナリ

(問)汝ハ強行紙幣ニ非ザル過發紙幣ニ關シテハ如何ニ思惟ス  
ル乎

(答)余ハ此ノ如キ者アリ得可シト思惟セズ

(問)汝ハ何テ強行紙幣ト云フ乎

(答)強行紙幣トハ余ガ己レノ意ニ反シ實價ニ越ユル價ヲ以テ  
強ヒテ受取ラサルヲ得ザル者ヲ云フ人民好シテ紙幣ヲ受取  
ル間ハ是レ強行紙幣ニ非ズシテ紙幣下落セサル以上ハ人民  
固ヨリ好シテ之ヲ受取ル可シ

(問)鐵山ノ産出増加セルガ爲メニ金屬貨幣ノ數額仕拂上ニ要  
スル割合ヲ越ヘテ増加シ隨テ各商品ノ直段ヲ騰貴セシムル

が如キトナル可キ乎

(答)余ハ金若クハ銀ノ増加シ若クハ豊多ナルモ他ノ商品ノ過産ガ其商品市場ニ及ボスト同一ノ結果ヲ金銀市場ニ及ボス可キヲ思惟ス

(問)然ラバ之ト同様ノ理ニテ能ク其信憑ヲ維持シ人民ガ好シク受取ル所ノ紙幣ト雖一地方商品ノ直段ヲ騰貴セシムルガ如クニ其數額ノ増加セラレ、トアラザル可キ歟

(答)余ハ之ニ對シテ有價ナル物品ヲ與ヘザルヲ得ザル所ノ紙片ガ其需要ヲ越ヘテ増加セラレ得可シトハ思惟セズ何人ト雖己レ需要セザル紙片ニ尙テ有價物ヲ與フルヲ爲サザル可シ

(問)汝ハ三十年前ト四十年前トノ間ニ於ケル蘇格蘭紙幣ノ歴史及一千八百四年頃ニ愛爾蘭紙幣ノ歴史ヲ曾テ考察セシ

アルヤ

(答)余ハ數年前少シク此等ノ歴史ヲ讀ミシトアリシト雖今余ノ心ニ記憶スル所寧ロ薄シ

(問)汝ノ説ニ從ヘバ法律ノ力ニ因リ若クハ輿論ノ力ニ因リ所持人ノ望ニ應シテ正貨ニ交換セラレ、トナクシテ行ハル、紙幣ヲ強行紙幣ト稱セントスル乎

(答)若シ此紙幣ニシテ割引ナク余ガ満足スル他ノ物品ト交換セラレ、アラバ余ハ之ヲ強行紙幣ナリト思惟セズ

(問)我國造幣金ノ造幣價ヨリ算スルモ一磅ノ英國銀行紙幣ハ幾何ノ金ヲ表スル者ナルヤ

(答)五「ペンニト、ウェイト」三「グレイン」ヲ表ス

(問)一「ギ」ニ付四磅十二志ノ今日造幣金ノ市場價ヨリ算スルモ一磅ノ英國銀行紙幣ニ對シテ幾何ノ金ヲ得ル乎

(答)四「ペニー、ウエイト」八「グレイン」ナリ

(問)汝ハ今日ノ事情此ノ如クナルニ際シ一磅ノ英國銀行紙幣ハ其表スルダケノ金ニ對シテ交換シ得可シト思惟スルヤ

(答)余ハ金ヲ以テ英國銀行紙幣價值ノ尺度ト爲ス可カラザルハ猶ホ洋藍若クハ大絨ヲ以テ其尺度ト爲ス可カラサルガ如シト思惟ス

(問)同上ノ問ヲ反覆ス

(答)若シ英國銀行紙幣ニシテ造幣價ニ從ヒ金ノ二十志ヲ表スル者トスレバ今日其表スルダケノ金ト交換スルヲ得ズ

(問)汝ハ今日英國ト歐洲大陸トノ爲替ノ我國ニ不利ナルハ如何ナル原因ニ出ツル乎ニ關シテ汝ノ説ヲ委員ニ示スヲ肯ンスル乎

(答)我國ガ仕拂ノ差額ヲ外國ニ借ルニ原因ス

(問)汝ハ我國ガ仕拂ノ差額ヲ外國ニ借ルコトヲ以テ其原因ナリト爲セシガ此事實ヲ説明ス可キ例證ヲ舉示シ得ルヤ

(答)英國ノ大軍兵歐洲大陸ニ在ルコト、輸出ニ對スル代價ヲ得ルノ遅キコト、輸入ニ對スル代價ヲ拂フノ速ナルコト、今日我國ニ貯フル輸入品在高ノ甚大ナルコトノ如キ是ナリ

(問)汝ハ爲替ノ今日ノ狀ヲ起セル他ノ原因尙ホ存スルアリト思惟スル乎

(答)余ハ下落セル強行紙幣ヲ外ニシテ爲替ニ影響ヲ及ボス可キ其他ノ原因アルヲ知ラズ

(問)汝ノ説ハ英國ノ紙幣下落セリト云フニ在ル乎

(答)決シテ然ラズ

此問答ニ關シテハスキントン氏記シテ曰此等ノ答辯ヲ見ルニ此一大主義ノ強ク且巧ミニ確首セラレ主張セラレタルヲ知ル可

シ而テ銀行紙幣下落セズトノ論ヲ唱フル人々ハ其言語ニ如何ナル異同アルニ拘ラズ其説ク所到底此一點ニ歸着セサルヲ得ス」ト而テ氏ノ所謂此一大主義トハ銀行紙幣ハ一切商品ノ價值ヲ測ル可キ確定セル眞正ノ尺度ニシテ金ノ如キハ他ノ物品ト同シク此不變普通ノ尺度即銀行紙幣ニ因テ其價值ヲ算セラル可キ一物品タルニ過キズト云フ」是レナリ而テ此主義ハ此等ノ人々ノ自カラ信シ且人ヲシテ信セシメント欲スル所ナリト云フニ在リ

荷モ尋常ノ智力ヲ具フル人が如何ニシテチャムバース氏ノ如キ答辯ヲ爲ス乎ヲ考ヘ且委員ノ諮問ヲ受ケタル商人ノ答辯ニ凡テ同様ノ意見行ル、ヲ見ルルハ吾人之ニ驚カザルヲ得ズ蓋此説ノ非ヲ示ス」容易ナリトス抑銀行紙幣ハ造幣局公定ノ性合ヲ具フル一定最目ノ金ヲ仕拂フ可キ約束ニシテ決シテ洋藍若

クハ大城ノ如キ物品ヲ表スル者ニ非ズ一磅ノ英國銀行紙幣ハ造幣金五「ペンニ」ウエイト「三」グレイン」ヲ表スルモノニシテ其他何物ヲモ表スル者ニ非ズ此事ヤ實ニ斯ク論決スルノ外アル可カヲザルナリ五「ペンニ」ウエイト「三」グレイン」ノ金ヲ仕拂フ可シトノ約束クル一磅ノ銀行紙幣ハ假令其實價ノ單ニ四「ペンニ」ウエイト「八」グレイン」ナルニ拘ラズ尙ホ一磅ナリト主張スル論者ハ葡萄酒一「ピント」入ノ壘ヨリ其五分ノ一ノ漏出セシニ拘ラズ尙ホ殘餘ノ葡萄酒ハ一「ピント」ナリト主張セザル可カラズ仕拂フ可キ約束若クハ一「ピント」入ノ壘ハ之ニ含まサル可カラザル金若クハ葡萄酒ノ分量ヲ表スル外部ノ記號タルニ外ナラズ而テ其實價ハ現」之ニ含ム金若クハ葡萄酒ノ分量ノ如何ニ因ル者ナリ

又「ウエイト」三世ノ時ニ於テ正貨磨減シ剝損セラレテ大ニ劣惡

トナリ六志三片七志ノ銀貨ガ現ニ含ム銀ノ分量ハ五志二片ノ銀貨ガ法律上含マザル可カラザル銀ノ分量ニ當ルニ過キザリキ故ニ五志二片ノ銀貨ハ其實價公定ノ本位貨幣ノ四志一片ニ當ルニ過キザリシナリ然ルニ夫ノ銀行紙幣下落セズトノ説ヲ唱フル論者ハ又此等ノ銀貨ハ下落セザリシトノ説ヲ唱ヘザルヲ得ザルナリ

然レモ當時紙幣ノ取引ト正貨ノ取引トノ間ニ差別ナカリシトシテ證ス可キ一論アルコトハ之ヲ許サル可ラズ何トナレバ正貨ハ悉ク市場ニ跡ヲ絶チ毫モ存在セザリケレバナリ當時我國ノ流通媒介物ハ一ニ銀行紙幣及定位貨幣ノミヨリ成リタレバナリ蓋人民ハ良好ナル金貨ヲ以テスルモ下落セル銀行紙幣ヲ以テスルニ比シテ多額ヲ買フ能ハザルヲ發見セシカバ良好ナル金貨ハ悉ク之ヲ匿藏シ或ハ空シク之ヲ貯ヘ或ハ溶解シテ之ヲ

輸出セリ而テ之ヲ輸出スルガ爲メニ得ル所ノ利ハ一考ニ付十二志ナリシナリ抑何故ニ斯カル現像ヲ呈セシヤト云フニ之ヲ解釋スルコト亦容易ナルノミ銀行紙幣ノ正貨ニ兌換ス可カラズト布告セラレシ後ハ以前貨幣ノ代理物タルニ過キザリシ銀行紙幣ハ銀貨ト同様ニ一種ノ貨幣タルノ地位ヲ占メシナリ今金銀價値ノ割合ハ其各自數額ノ多少ニ準スル者ニシテ若シ法律ヲ以テ定メタル割合ガ實際市場ノ割合ト符合セザルキハ過低ニ算セラレタル金屬ハ流通上ヨリ驅逐セラル、一ハ吾人ノ幾回トナク經驗セシ所ナリ之ト同シク若シ重量貨幣ト輕量貨幣トガ相並ニテ行ハル、片ハ重量貨幣ハ必ス流通上ヨリ驅逐セラル、ナリ何トナレバ重量貨幣ハ過低ニ算セラレタル者ニシテ五等ノ銀ヲ以テ能ク買ヒ得可キニ拘ラズ故ラニ六等ノ銀ヲ與フルガ如キハ何人ト雖爲サザル所ナレバナリ銀行紙幣ニ於

ケルモ其理又之ト一オルノミ銀行紙幣ニシテ金貨ニ對スル其  
 價值ヲ維持セシムルハ二者相對スルノ數額ヲ或ル一定ノ度ニ維  
 持スル時ニ於テ始テ之ヲ能クスキナリ故ニ銀行紙幣ノ數額  
 此度ヲ越ヘテ増加セラル、ヤ其金貨ニ對スル價值忽チニ下落  
 セリ然ルニ法律ヲ以テ銀行紙幣ト金貨トノ間ニ一定ノ割合ヲ  
 立テ居ルヲ以テ實際市場ノ相場ニ變動ヲ生ズルヤ恰モ金銀ノ  
 市場價ト法律價トノ間ニ差ヲ生セシキト同様ノ結果ヲ來クシ  
 タリ即過低ニ算セラレタル金貨ハ流通上ヨリ驅逐セラレタル  
 ナリ是レ斯カル場合ニ際シテハ常ニ然リシ所ニシテ今後ト雖  
 永遠ニ然ル可キナリ四「ペニ」ニ、「ウエー」ト「八」グレイン」ノ金ヲ以テ  
 能ク買ヒ得可キモノニ對シテ五「ペニ」ニ、「ウエー」ト「三」グレイン」ノ  
 金ヲ與ケルハ何人ト雖之ヲ爲サザルナリ左レハ強ヒテ金貨ノ  
 價值ヲ低廉ナラシメズトスル不正且愚妄ナル此法律ハ已レト

共ニ己レ業ムル所ノ罰ヲ携ヘ來レリ即此法律ハ流通媒介物ト  
 シテノ金貨ノ存在ヲ破レリ然レハ斯ク一トタヒ金貨ノ消滅シ  
 去リシ後ハ實ニ正貨ノ取引ト紙幣ノ取引トノ間ニ差別ナキニ  
 至レリ嗚呼金紙ノ間ニ有害ナル差別ヲ立ツルコト此法律ニ因テ  
 天晴レ能ク救済セラレタルナリ  
 二黨相争フ第二點ヲ觀察センニ倫敦ニ對シテ爲替取引ノ確立、  
 セラレタル重モナル場所ハ「アムステルダム、ハムボルク、巴里」ニ  
 シテ此等ノ都府ニ於テハ凡テ金屬貨幣行ハレシナリ而テ調査  
 委員ノ諮問ヲ受ケタル諸證報者ノ證セシ所ニ據レバ運賃、保險  
 戦争ノ危險、其他ノ失費ヲ合シテ貨幣回送費ノ總額ハ四分ヨリ  
 五分五厘マデノ間ニ在リト云ヘリ然ルニ當時爲替ノ下落ハ之  
 ニ越ユルコト一割二分乃至一割四分ニシテ是レ以上ノ諸原因ヲ  
 以テ全ク解釋シ得可ラザル所ナリ爲替ノ此下落ハ歐洲大陸ニ

於テ金ノ需要切ナルガ爲メニ起リタリト云ラノ説ニシテ果シ  
 テ實ナランニハ金ハ歐洲大陸ニ於テモ齊シク騰貴セザル可カ  
 ラザルノ理ナルヤ明ナリ然ルニ此説ヲ唱フル者ハ全ク之ガ證  
 テ示ス能ハサリキ之ニ反シテ外國ニ於テハ金ノ造幣價毫モ變  
 更セラル、コナク其市場價ハ決シテ英國ニ比ス可キ程ノ騰貴  
 テ呈セザリシコト證セラレタリ

英國ノ商人ガ爲替ノ下落ハ全ク英國ガ仕拂ノ差額ヲ外國ニ借  
 ルニ原因スル者ニシテ銀行紙幣下落セストノ説ヲ固執セルコ  
 其レ斯ノ如シ故ニ當時ノ事情ニ關シ之ト異ナル觀察ヲ下シタ  
 ル一外國商人ノ説ヲ擧ゲテ之ニ比較スルヲ可トス可シ蓋此商  
 人ハ倫敦トハハボルトノ爲替ノ平均點ハ一地ニハ銀貨行ハ  
 レ一地ニハ金貨行ハル、ノ故ヲ以テ精密ニ之ヲ算定スル能ハ  
 ザルコトヲ説キシ後テ當時爲替相場ハ英國ニ不利ナルコト一割五

分ナリト見做シテ可ナル可キ旨ヲ述ベタリ

(問)巨額ノ正貨流通スルコトハ爲替ヲ安定ニス可キ強キ傾向ヲ  
 生セザル可キ乎

(答)然ル正貨ハ爲替ノ平均點ヲ序整ス可キ唯一ノ基礎ヲ成ス  
 者ニシテ若シ其輸出入ノ禁制セラレザルニ於テハ必ス此ノ  
 如キ傾向ヲ生ス可シ

(問)左レハ如何ナル國ニ於テモ若シ其重モナル流通媒介物紙  
 幣ヨリ成ルキハ爲メニ外國ニ對スル爲替相場ニ大浮沈ヲ起  
 ス可シト思ハレザル乎

(答)余ノ見ル所ヲ以テスレバ若シ其紙幣ニシテ正貨ニ兌換セ  
 ラル可キ者ニ非サルキハ真正的ノ價值ヲ有セスノ輿論ニ從  
 テ定マル想像的ノ價值ヲ有スルニ過ギズ故ニ輿論ノ大變動  
 テ受クルニ從テ其紙幣モ大浮沈ヲ受ケザルヲ得ザル可シ



(問) ハムボルクニ於テハ銀行貨幣ハ世ニ流通スル貨幣ニ對シテ増打チ有セザル乎

(答) 否ナ余ノ説ニ從ヘバ之ニ反シテ世ニ流通セル諸種ノ貨幣ガ銀行貨幣ヨリモ劣レル價值ヲ有セルナリ而テハムボルクニ於テハ凡テ價值ハ銀行貨幣若クハ一定量目ノ純銀ニ因テ算セラル、者ニシテ世ニ流通セル貨幣ノ價值ハ日々昇降セリ

(問) 一定ノ價值アル正貨若クハ一定量目ノ金銀ニ兌換シ得可キ或ル物ヲ以テ爲替ノ仕拂ニ充ツル者ト假定スルキハ汝ハ今日歐洲ノ何レノ國ニ於テモ爲替ハ如何ナル點マテ下落シ得ル者ト思惟スル乎

(答) 正貨ヲ回送スル費用ト其回送ノ危険ヲ償フ可キ利潤トハ是レ即爲替相場浮沈ノ極點ナリ而シテ此種報者ハ此等ノ原因ヨリ起ル失費ヲ合スルキハ五分

五厘若クハ六分ニ達ス可キ旨ヲ述ベタリ

(問) 左記ニ過クル十五月間ニ於テ我爲替ガ金銀回送ノ費用ヲ償フニ必要ナル額ヲ越ヘテ下落シタル者ハ正貨ニ兌換シ得可カラザル紙幣ノ行ハル、ニ原因セザルヲ得ズト汝ハ思惟スル乎

(答) 然リ確カニ然リ

(問) 左レハ過クル十五月間ニ於テ我爲替ノ受ケタル二割五分乃至二割ノ下落中ニテ其一割ヨリ一割二分乃至一割三分マテハ正貨ニ兌換シ得可カラザル紙幣ノ行ハル、ニ原因スト汝ハ思惟スル乎

(答) 然リ余ハ明カニ其説ヲ懐ク者ナリ

(問) 左レバ汝ハ我紙幣ガ正貨ニ兌換シ得可カラザルガ爲メニ一割乃至一割三分ヲ下落セル者ト思惟スル乎

(答)余ハ地金ニ因テ諸物品ノ價值ヲ算スルニ英國紙幣ハ一割五分若クハ二割ヲ下落セルヲ思フナリ率口適當ニ之ヲ云ヘバ地金ノ市場價ト其造幣價トノ差額ダケ下落セルヲ思フ也  
 (問)汝ハ我國ガ歐洲大陸ニ對シテ今日貿易ノ差額ヲ貸スト思惟スル乎將ク借ルト思惟スル乎

(答)余ハ英國ガ大ニ之ヲ貸スト信スルナリ尤モ其額ハ一般ニ統計表ニ示スガ如クナラズシテ余ノ見ル所ヲ以テスレバ其實額ハ此等ノ統計表ニ示ス額ノ約シテ八割ナル可シ  
 二黨ノ相争フ第三點ヲ觀察セシニ紙幣ノ流通額ヲ減少スルハ一切ノ他ノ商品及金ニ對シテ其價值ヲ增加セサル可カラズシテ蓋此事ヨリモ明ナルハアラザルナリ抑金ノ市場價ハ銀行紙幣ヲ以テ算シタル直段ニシテ決シテ金貨ヲ以テ算シタル直段ニ非ズレバ若シ紙幣ノ數額ヲ減少スルハ紙幣ヲ以テ算シ

タル金ノ直段ヲ下落セシノ隨テ紙幣ノ實價ヲ愈其名目價ニ近邊セシメザル可カラズ而テ此ノ如クニシテ貨幣全体ノ價值ヲ騰貴セシムルガ故ニ紙幣ヲ減少スルコト十分ノ度ニ達スルハ必ズ外國爲替ヲ平均點ニ騰貴セシメ金ヲシテ再ヒ流通上ニ出テシメザルヲ得ズ  
 二黨ノ相争フ第四點ハ曩ニ愛爾蘭銀行取締役ガ唱ヘタル紙幣ニ關スル一新主義ヲ含ム者ナリ此主義ハ紙幣ニ關スル最モ有名ナル主義ノ一ト見做シテ可ナルベキガ故ニ余ハ後章ニ至リ紙幣ニ關スル諸主義ヲ併論スル時マデ之ガ觀察ヲ遷延スルヲ便トス可シ唯茲ニ於テハ地金報告書ガ特ニ此主義ヲ非難セシトテ一言シ置クヲ以テ足レリトス可シ  
 以上ハ調査委員ノ諮問ヲ受ケタル諸證報者ガ相争フ要點ニシテ我本論ニ關係アル者ノ概略ナリ而テ余ハ是ヨリ委員報告書

ノ議論ト勸告トヲ簡短ニ摘要ス可シ蓋其報告書ハ先ツ第一ニ  
 金ノ市場價ト造幣價トノ間ニ當時存セシ差額ヲ記シ其市場價  
 ハ約ソ四磅十志ニシテ即其造幣價ヨリモ貴キ一割五分五厘  
 ナルヲ述ベタリ又銀ノ直段ニモ同様ノ差額存スルヲ記シ  
 又外國爲替相場ハ一千八百八年ヨリ非常ニ英國ニ不利トナリ  
 一千八百九年ヲ通シテ益不利トナリ當時ハムボルグニ對スル  
 爲替ハ平均點ヨリ下ルヲ七分、アムステルダムニ對スル爲替ハ  
 平均點ヨリ下ルヲ七分、巴里ニ對スル爲替ハ平均點ヨリ下ルヲ  
 一割四分ナルヲ記セリ地金市場價ノ其造幣價ヨリモ騰貴セ  
 ルト此ノ如ク外國爲替ノ下落セルヲ又此ノ如クナリシヲ以テ  
 其原因ハ內國貨幣ノ有様ニ存セサル可カラサルヲハ委員ノ夙  
 トニ悟ル所トナレリ然レニ委員ハ此等ノ點ニ關シテ廣ク商人  
 ノ説ヲ蒐集センヲ勉メタリ

大抵ノ證報者ハ金ノ騰貴ヲ以テ全ク其匱乏ニ歸シ且大陸ニ於  
 テ金ノ需要非常ニ切ナルガ爲メニ此匱乏ヲ來タセル者ト爲セ  
 リ然レニ一千八百九一年間ニ在テ我英國ニ於テハ金ノ騰貴彼レ  
 ノ如ク甚シカリシニ拘ラズハムボルグニ於テハ其動搖三分若  
 クハ四分ニ越ヘザリシヲ證セラレタリ蓋ハムボルグニ於テハ  
 金ノ直段ハ他ノ諸物品ノ直段ト同シク銀ヲ以テ算セラレシ者  
 ニシテ委員ハ過クル數年間ハムボルグ及アムステルダムニ起  
 リタル金ノ市場價ト造幣價トノ差額ハ金銀ノ割合ガ全世界ヲ  
 通シテ變セシヲ證スル者ナリト爲セリ即全世界ヲ通シテ銀  
 ハ金ニ對シテ下落シ隨テ銀ヲ法貨トセル諸市場ニ於テハ金ノ  
 直段騰貴シ又金ヲ法貨トセル諸市場ニ於テハ銀ノ直段下落セ  
 リト爲セリ

委員ノ報告書ニ曰歐洲ニ於テ金ノ需要切ナルガ爲メニ其市場

價騰貴セリトノ説ニ關シテハ若シ此説果シテ是ナラバハ以前ノ戦争ノ際ニモ同一ノ結果ヲ生セシナラザル可カラズ然ルニ夫ノ七年戦争ノ際ニハ此ノ如キコナク又亞米利加戦争ノ際ニモ我國ニ於テ地金ノ匱乏セシコアラザリキ曾テ地金銀ノ市場價ガ造幣價ヨリモ騰貴シタル最モ著明ナル時期二回アリテ即ウヰルレム王ノ世トジョージ三世在位ノ初年ト是ナリ而テ右第一ノ時期ニ於テハ銀貨大ニ劣惡トナリ又第二ノ時期ニ於テハ金貨大ニ劣惡トナリ居タリキ左レバ何レノ場合ニ於テモ貨幣ヲ改良スルニ及ンデ地金銀ノ市場價下落シ其造幣價ト同一トナルニ至レリ而テ金貨ノ改良セラレタル一千七百七十三年ヨリ一千七百九十七年マデハ復テ市場價ノ著シク造幣價ノ上ニ騰貴スルコトナク一千七百九十六年及九十七年ニ於テハ地方銀行ガ金ヲ取付クニ應ゼンガ爲メニ金ヲ需要シ隨テ其匱乏ヲ起

セシト雖尙ホ此事アラザリキト且委員ハ金匱乏セリトノ事實ヲ全ク信ゼザリキ而テ或ル證報者ハ陳述シテ曰人若シ相當ノ直段ヲダニ仕拂ハバ幾何ノ金ニテモ之ヲ得ルニ於テ毫モ困難アラザリシナリト又曰近頃起リタル商業上ノ變勢ノ爲メニ巨額ノ金銀ヲ我國ニ流入セシムルニ至レリト故ニ所謂金匱乏セリトノ説ハ之ヲ證スルノ事實ナカリシ耳ナラズ事實ハ反テ其然ラザルヲ證セルナリ

又委員ノ報告書ニ曰假令金匱乏シタリトスルモ其市場價ガ其造幣價ノ上ニ騰貴スルヲ得ルトノ思想ハ全ク誤謬ヨリ出デズンバアラズ我國ニ於テハ金ハ習慣ニ因リ又法律ニ因リテ一切商品市價ノ尺度タリシナリ故ニ商品ガ多少ノ金ニ對シテ貿易セラレ、ニ從ヒ商品ノ直段或ハ貴シト稱セラレ或ハ廉ナリト稱セラレシナリ然レモ若干ノ金ガ同一性合ノ金ト貿易セラレ

〇於テ其得ル額ニ多少アルガ如キハ決シテアル可カラザ  
 〇所ナリ唯地金ヨリモ寧ロ金貨ヲ便トシ又ハ金貨ヨリモ寧ロ  
 地金ヲ便トスルノ故ヲ以テ其間ニ微差ヲ生スルコトアル可キモ  
 之ヲ除キテハ又差額ヲ生ス可キノ理ナシ左レバ三〇七志十  
 片半ノ貨幣ニ含ム所一〇ヨリモ少ナキニ非ザルヨリハ造幣金  
 一〇ノ直段ハ決シテ三〇七志十片半ノ上ニ騰貴スルコトアル  
 可カラザルナリ而テ金若シ非常ニ匱乏セバ其價值他ノ商品ニ  
 對シテ騰貴シ隨テ商品ノ直段下落ス可ク而テ金ノ市場價ニ至  
 テハ必ス變スルナクシテ從前ノ如クナラザル可カラズ然ルニ  
 今日ノ狀此ノ如クナラズシテ一切商品ノ直段騰貴シ金ノ直段  
 モ亦騰貴セリ故ニ此事實ハ貨幣ノ有様ヲ以テスルノ外ハ之ヲ  
 解釋スル能ハザルナリト  
 次ニ報告書ハ金ノ造幣價ト其市場價トノ間ニ差額ヲ起スノ事

情ヲ説明シ其事情ハ貨幣ノ劣惡トナレル事、地金ヲ貨幣ニ鑄造  
 スルニ時間ヲ要スル事、貨幣輸出ノ禁制セラル、事ノ三者ニシ  
 テ第三第三ノ原因ヨリ生ズル影響ハ五分五厘ナリト云ヘリ而  
 ナハムホルクニ於テハ銀ニ關シテ此等ノ原因一モ存スルナク  
 貨幣ハ公定ノ性合ト量目トヲ有スル銀ニシテ之ヲ輸出スルハ  
 毫モ禁制セラル、所ナクシテ最モ自由ナリシト云ヘリ而テ英  
 國ニ於テモ英國銀行ガ金ヲ以テ紙幣ヲ兌換シ且正貨ノ分ノ量  
 目ヲ有スルニ當テハ市場價ト造幣價トノ差額ハ決シテ五分五  
 厘ニ越ヘザリシト云ヘリ  
 然ルニ金貨仕拂停止後ハ或ル點ヨリ云ヘバ金貨ハ價值ノ尺度  
 タル性質ヲ失ヒ英國銀行ト地方銀行トヨリ發行スル紙幣ノ外  
 ハ他ニ直段ノ尺度タル者ナク而テ此等紙幣ノ價值ハ一ニ其數  
 額ノ多少ニ準シテ浮沈スル者ナリト云ヘリ而テ此等紙幣ノ價

値ヲシテ法律ヲ以テ定メタル其真正ノ本位即地金ノ價值ト符  
 合セシムルコトノ最モ望マシキ旨ヲ述ヘタリ  
 又報告書ニ曰若シ我國ノ金貨大ニ其量目ヲ失フカ若クハ其性  
 合劣惡トナレハ隨テ其市場價其造幣價ノ上ニ騰貴スルヤ明ナ  
 リ何トナレハ金ノ造幣價トハ或ル量目例セハ一写ノ地金ト其  
 價值ヲ同フスルダケノ金貨ヲ云フ者ニシテ若シ其金貨ノ實價  
 減少セハ其金貨ハ從前ヨリモ少量ノ地金ニ相當スルニ至ラザ  
 ル可カラザレハナリ而テ正貨ニ兌換シ得可カラザル紙幣過度  
 ニ發行セラル、トハ之ト同一ノ結果ヲ生ス可シ何トナレハ此  
 過度ノ紙幣ハ外國ニ輸出セラル、能ハズ又正貨ニ兌換セラル  
 、コトキガ故ニ常ニ流通上ニ留マリ次第ニ諸物品ノ直段ヲ騰  
 貴セシムルニ至ル可ケレバナリ而テ此場合ニ於テ諸物品直段  
 ノ騰貴スルハ資金ノ増加セルニ當テ其騰貴スルト毫モ異ナラ

ザルナリ故ニ諸物品ノ直段騰貴セザルヲ得ズシテ地金ノ如キ  
 モ亦騰貴セザルヲ得ズ而テ近隣諸國ノ貨幣價值齊シク下落セ  
 ズシテ獨リ一國ノ貨幣價值ノミ下落スルハ諸國貨幣ノ相對  
 スル割合ハ最早從前ノ如クナラズシテ隨テ外國爲替ハ此一國  
 ノ不利トナラザルヲ得ズ蓋如何ナル國ニテモ輸出スル能ハズ  
 又正貨ニ兌換スル能ハザル貨幣ヲ過度ニ發行スルハ其結果  
 此ノ如キニ至ラザル可カラズト  
 又曰貿易ノ有様及仕拂ノ差額ヨリ起ル所ノ二地間爲替ノ動搖  
 ハ一地ヨリ一地ヘ貨幣ヲ回送スル運賃及保險料ニ超ユル者ニ  
 非ズ其事ヤ極メテ明晰ニシテ商業家タルト政治家タルトナ  
 ハス凡テ實際家ノ一致スル所タレバ眞ニ争フ可カラザルノ點  
 ト云フ可シ戰爭ノ際ニ在テハ無論ニ危險増加ス可シ然レモ此  
 事情ヲ斟酌スルモ地金ヲ和蘭ニ回送スル費用ハ合計七分ニ過

ギズシテ之ヲ巴里ニ回送スル費川ハ少シク之ニ加ハ、ルノミ  
 故ニ此等ノ原因ヨリシテ七分前後マテハ爲替ヲ下落セシム可  
 シト雖決シテ此度ヲ超ヘテ下落セシムル者ニ非ズ然ルニ近時  
 爲替ノ下落ハ殆ト二割ニ達セリ故ニ以上ノ原因ヨリ起ル可キ  
 下落ノ外ニ更ニ大ナル餘分ノ下落アリテ是レ他ノ原因ヲ以テ  
 解釋セザル可カラザル所ナリ而テ此餘分ノ下落ハ内國貨幣ノ  
 下◎落◎ニ◎基◎ク◎者◎ニ◎シ◎テ◎此◎一◎事◎ヲ◎以◎テ◎シ◎テ◎始◎メ◎テ◎之◎ヲ◎解◎釋◎ス◎ル◎ヲ◎  
 得◎ル◎ナ◎リ◎ト

然ラバ則以上列舉セル原理ト事實トノ結果ハ當時ノ如ク貨幣  
 人爲ヲ以テ支配セラル、有様ニ於テハ外國爲替及地金ノ市場  
 價ニ注目スルハ最大緊要ノ點ナリト云フニ在リ而テ委員ハ英  
 蘭銀行取締役ガ此事ニ關シテ同一ノ觀察ヲ下ヌヤ否ヤ彼輩ガ  
 前年間金ノ市場價及外國爲替ニ非常ノ攪擾ヲ呈セシテ見テ紙

幣ノ發行多キニ過ギシヲ悟リシヤ否ヤヲ知ラシメテ勉メタ  
 リ然ルニ取締役ハ全ク此等ノ意見及思想ヲ排斥シ其紙幣發行  
 ハ外國爲替及金ノ市場價ニ對シテ何等ノ關係ヲモ有セザルニ  
 テ主張シ彼輩ハ其紙幣ヲ發行スルニ於テ爲替相場若クハ地金  
 相場ニ毫モ注目セザリシヲ述ベ紙幣ノ増減ハ爲替相場若ク  
 ハ地金相場ニ對シテ何等ノ影響ヲモ及ボス者ニ非ズト爲セリ  
 次ニ報告書ハ歷史上ノ事實ニ徴シテ英蘭銀行ノ意見ノ非ナル  
 ヲ示セリ即チ報告書ハ一千七百六十二年蘇格蘭貨幣ノ混亂  
 セシキノ實例及ビ一千八百四年愛爾蘭貨幣ノ混亂セシキノ實  
 例ヲ引舉セリ蓋此二實例ハ此書ニ於テ十分ニ記載セル所ナリ  
 又報告書ハ一千六百九十六年ヨリ九十七年マデノ英蘭銀行ノ  
 有様ヲ引舉セリ而テ此時ノ事情モ此書ノ前章ニ於テ詳密ニ之  
 ヲ記載シ報告書ニ云フ所ヲ摘出シテ之ヲ批評シタリキ抑地金

報告書ニ記スル所悲ム可キ誤謬多クノ余ハ之ヲ指摘セザルヲ得ザリシト雖此等ノ誤謬ヲ匡正セルガ爲メニ地金報告書ノ論趣ヲ弱ハメ若クハ擅着セシムルヲナカリシ耳ナラズ反テ報告書主張スル所ノ原理ニ一層ノ大勢力ヲ加ヘタリキ

往時ニ在テハ地金ノ市場價騰貴シ外國爲替不利トナルトハ英國銀行取締役ハ金貨ノ流出ヲ妨ゲテ己レノ安全ヲ謀ランガ爲メニ紙幣發行ヲ減縮セザルヲ得ザリシナリ往時ノ取締役ト雖恐クハ當時ノ取締役ト同シク原理ヲ會得セザリシナル可シト雖實際ニ不便ヲ感シ不知不識之ニ從ハザルヲ得ズシテ爲メニ紙幣ノ發行制限セラレシナリ然ルニ兌換停止後ハ取締役實際ニ不便ヲ感スルヲナキヲ以テ此制限除カレシナリ然レニ委員ハ明瞭ニ斷言シテ曰英蘭銀行ハ兌換停止ノ際ニ在テモ停止前ニ於ケルト同シク地金相場及爲替相場ニ徴シテ其紙幣發行ヲ

序理セザル可カラズ而テ地金相場ノ大ニ騰貴シ外國爲替ガ前ニ陳示セル極點ヲ越ヘテ下落セルハ該銀行ガ適當ニ紙幣發行ヲ制限スルヲ怠レルニ歸セザル可カラズト

委員ハ右ノ制限除カレシ以來取締役ガ如何ナル主義ニ從テ其紙幣發行ヲ序理セル乎ヲ知ランヲ勉メタリ而テ取締役及或ル商人ハ其固ク執リテ眞理ナリト確信スル主義ヲ陳示センニ熱心セリ其主義タルヤ他ナシ英蘭銀行ガ眞正ノ商業取引ニ起リタル確實ナル短期手形ヲ割引センガ爲メニノミ其紙幣ヲ發行スル間ハ決シテ紙幣ノ發行多キニ過クルヲナシト云フ

是ナリ是レ則取締役ガ遵守セシ所ノ主義ニシテ彼輩ハ之ヲ以テ其紙幣發行ニ關スル眞正唯一ノ制限ナリト信セシナリ然レニ報告書ハ斯カル主義ハ理ニ於テ全ク誤レル者ニシテ危険ナル結果ヲ生スル者ナリト云ヘリ而テ次ニ報告書ハ紙幣ニ關



スル此主義ノ誤レルヲ論シタリト雖余ハ既ニ述ヘシ如ク後章ニ至テ紙幣ニ關スル他ノ主義ト共ニ之ヲ觀察ス可シ又報告書ニ曰法律ヲ以テ利息ノ割合ヲ五分ニ制限セルヲハ投機ノ精神ヲ獎勵シ割引ノ需要ヲ一層大ナラシメ爲メニ有害ナル結果ヲ生シタリ左レバ取締役ト雖屢其割引ヲ制限セザルヲ得ザルヲアリテ己レガ正確ナリ安全ナリト信スル主義ヲ終始遵奉スルヲ能ハザリキ故ニ彼輩ハ己レヲ導ク可キ明確ナル主義ヲ有セザリシ者ト云ハザル可カラズト

又曰金貨仕拂ノ停止ハ全ク己レノ隨意ヲ以テ國內ノ流通媒介物ヲ供給スルノ大權ヲ英國銀行取締役ノ手中ニ投シタル者ナリ最モ明ニ商業ノ事情ニ通曉シ最モ深ク貨幣ニ關スル諸原理ヲ講究シタル人々ト雖常ニ商業ノ有様如何ニ從テ流通媒介物ヲ適當ニ序理スルハ能ハザル所ナリ唯適當ニ之ヲ序理スル者

ハ資金ノ一アル耳ニシテ如何ナル智能若クハ熟練ヲ以テスルモ決シテ之ニ代ユルヲ能ハザルナリ而テ英國銀行取締役ハ己レガ公衆ノ利ナリト思惟スル所ニ從ヒ豫期セラレシヨリモ一層ノ堪忍ヲ以テ己レニ托セラレタル此大權ヲ使用セリ然レモ不幸ニシテ其依據セル所ノ主義ハ全ク誤レル者ニシテ實ニ貨幣制度ノ大攪擾ヲ久シキニ續カシムルノ原因タリシナリト

次ニ報告書ハ兌換停止以來ノ紙幣流通高ニ關スル統計ヲ示セリ然レニ單ニ流通紙幣ノ數額ヲ以テ紙幣ノ過多ナルヤ否ヤヲ判スルノ標準ト爲ス可カラズシテ貿易ノ繁閑及取引ノ廣狹如何ニ因リテ要セラル、紙幣ニ多少アルヲ説キタリ曰若シ信憑十分ニ行ハル、時ニ在テハ世人恐慌ヲ感シ貨幣ヲ貯フル時ニ比スレバ要セラル、紙幣少ナシ且取引ヲ行フ方法ノ異同及貨幣ノ用ヲ節省ス可キ方法ノ異同ハ大ニ一國ニ適當トシ必用

トスル紙幣ノ數額ニ影響スル者ナリ而テ取引ヲ行フ方法ノ改  
 頁セル事、英蘭銀行ノ執リシ政略、地方銀行紙幣増加セシ事ノ如  
 キハ凡テ商業ニ必要ナル英蘭銀行紙幣ノ數額ヲ減少スルノ傾  
 向アリキ故ニ單ニ流通紙幣ノ數額ヲ以テ其過不足ヲ判スルノ  
 標準ト爲スコカラスシテ真正ノ標準ハ爲替相場及地金相場ニ  
 於テノミ之ヲ求ム可キナリト

又曰紙幣ノ制度ニ在テハ時トシテ地方ニ於テ信憑ノ破壊スル  
 一アルヲ免レズシテ之ヲ救治ス可キ真正ノ方法ハ辨金ヲ擴張  
 スルニ在ルコトハ一千七百九十三年ノ恐慌ノ實例ニ徴シテ明ナ  
 リ蓋一千七百九十三年ニ於テモ英蘭銀行ハ辨金ヲ擴張スルヲ  
 拒ミシハ實ニ然リ然レト出納局手形ヲ發行セシハ理ニ於テ銀  
 行紙幣ヲ發行セシニ異ナラズノ爲ニ其結果ヲ生セリ左レバ若  
 シ英蘭銀行ガ一千七百九十七年ニ於テ其紙幣ヲ減縮セズシテ

其辨金ヲ擴張スルノ勇氣ヲ有セシナラニハ當時起リシ大凶  
 難ハ之ヲ避ケ得シヲ知ル可キナリ當時ニ在テモ或ハ斯ク思惟  
 セル人ナキニ非スシテ取締役ノ如キモ一千七百九十七年ノ經  
 験ニ徴シ當時英蘭銀行ガ施セシ主義ノ大ニ世ノ凶難ヲ加ヘシ  
 コトヲ許セル者多シト而テ委員ハ全ク此意見ニ同セリ

又曰金ニ對スル内國ノ需要ハ信憑ノ一時破壊スルヨリ時トシ  
 テハ大ニシテ且俄然ニ起ル者ニシテ此内國ノ需要ト貿易ノ差  
 額ヨリ起ル金ノ流出トノ間ニ緊要ナル區別ノ注意セザル可カ  
 ラザル者アリ即前ノ現像ヲ救済ス可キ正當ナル方法ハ慎シク  
 辨金ヲ擴張スルニ在リト雖後ノ現像ヲ救済ス可キ正當ナル方  
 法ハ紙幣發行ヲ減縮スルニ在ルコト是ナリト

又曰今日ノ紙幣流通高キニ過ク然レモ國內商業ノ利益ヲ  
 謀ルニ紙幣濫發ノ際ニ締結セザレタル商業上ノ契約ヲ履行セ

シメシメ之ヲ減少スルニ漸チ以テシ大ニ儆戒ヲ加フルヲ要ス下而テ次ニ報告書ハ地方銀行紙幣ノ大ニ増加セルヲ詳述シ地方銀行紙幣ニ關スル當時現行ノ法律ガ其濫發ニ便チ與ヘシコトヲ説キヨリ

以上ニ記スル如キ事實ト論理トニ基キ遂ニ報告書ハ左ノ決論ニ達シクリ曰今日紙幣發行高ハ多キニ過ク而テ此事ノ儆モ明瞭ナル第一ノ徵候ハ地金相場ノ騰貴セシト是ニシテ其第二ノ徵候ハ爲替相場ノ下落セシト是ナリ斯ク紙幣ノ過發セラレシ者ハ金貨仕拂ヲ停止シテ以テ英蘭銀行紙幣ノ發行ニ關スル制限ヲ除キシニ原因ス左レハ初メ一時ノ者トシテ施サレタル停止條例ガ永遠ノ軍事上ノ政略トシテ繼續セラル、ニ至リシハ實ニ欺大可キコトナリ而テ價值ノ尺度ノ大動搖ヲ呈セシガ爲メニ社會各階級ノ人民ニ怖ル可キ凶害ト不正トナシ禁ラシメシ

ハ最モ著明ナルヲ以テ今又之ヲ喋々スルヲ要セズ且此凶害及不正ハ尙ホ今日ニ存シテ益増加スルノ景况アリ故ニ議院ノ正直ト榮譽トヲ證センニハ成ル可キダケ速ニ此有様ヲ救治スルヲ最モ須要トス

又曰斯カル有様ノ久シク續キシガ爲メニ議院ハ貨幣本位ヲ變更シ金貨ヲ劣惡ニスル策ニ出ツルノ誘惑ヲ受クルニ至レリ蓋此策ヤ斯カル場合ニ際シテ數多ノ政府ノ施セシ所ニシテ此弊害ヲ醫ス可キ最モ容易ナル方法タル可シ然レニ紙幣ノ價值ヲシテ法律定ムル所ニ貨幣本位ニ回復セシムルヲ爲サズシテ反テ貨幣本位ヲ劣惡ニシテ紙幣ト同位ナラシムルガ如キハ國家ノ誠信ヲ破リ政府ノ第一ノ義務ヲ破ルノ處置ナリト

又曰英蘭銀行ノ辨金即割引若クハ其利益金即割引金ヲ制限シテ以テ此弊害ヲ醫セメトノ議ヲ出ダセル者アリ然レニ此等ノ

策凡ア非ナリ何トナレバ必用ナル數額ヲ確定スルコトハ決シ  
 ア能ハザレバナリ又假令之ヲ確定シ得シトスルモ之ガ爲メ  
 金融一時壅塞セルト不便ヲ大ニ増加ス可ケレハナリ此等  
 ノ策ヲシテ其効アラシムルモ是レ甚有害且不適常ナル干涉ヲ  
 商業上ノ財産權ニ加フル者ナレバナリト  
 又曰故ニ凡テ以上ノ諸弊害ニ對スル真正適當ナル唯一ノ救治  
 策ハ金貨仕拂ヲ再始スルニ在リ然レモ是レ最モ活機ノ事業  
 ニシテ之ヲ實行スルハ一ニ之ヲ英國銀行ノ裁斷ト遠謀トニ任  
 セザル可カラズ即議院ハ唯其時期ヲ定ムル耳ニシテ其他ノ事  
 ハ悉ク之ヲ該銀行ニ任セザル可カラズ而テ如何ナル事情ニ於  
 テモ其時期ヲ二年後ト定ムルヲ必要トス可クシテ該銀行ヲシ  
 テ之ニ準備スルヲ得セシメヨハ是レ長キニ失ヌル者ニ非ザ  
 ル可シト爾ヲ委員ハ遂ニ此時ヨリ二年後ニ至テ金貨仕拂ヲ再

始セザルヲ得ザラシムル一條例ヲ制定セシメテ勸告シ以テ其  
 報告書ヲ結ベリ  
 此有名ナル報告書ハ曾テ議院ニ出サレタル如何ナル報告書ヨ  
 リ著明ナル所ニシテ上記スル所以テ公平ニ其要旨ヲ解剖  
 シ得タリト余ハ信スルナリ此報告書ハ永遠不滅ノ原理ヲ含ム  
 者ニシテ尙モ紙幣ノ價值ヲシテ其表スル金ノ價值ニ符合セシ  
 メシヨハ必ス此等ノ原理ニ據テ紙幣ヲ序理セザル可カラザル  
 ナリ而テ若シ紙幣ニ關シテ法律ヲ設クルヲ必要ナリト思惟ス  
 ルニ於テハ此報告書ノ原理ヲ實際ニ應用スルコトヲ勉メザル可  
 カラスシテ其意此等ノ原理ヲ離レ若クハ之ニ抗スルニ從ヒ愈  
 經濟學ノ永遠不滅ノ原理ヲ離レ若クハ之ニ抗スル者タルヲ發  
 見ス可シ然ラバ則紙幣ニ關スル凡テノ法律ハ一ニ此等ノ原理  
 ニ實行スル最良ノ方法ヲ具スルヲ以テ其目的トセザル可カラ

ズ此報告書ニ於テ説キタル諸原理ハ其正確ナルコト毫モ幾何學ノ原則ニ讓ラズ而テ報告書ノ此事ヲ論スル方法ハ極メテ學理ニ合ヒ物理學上ノ大理ヲ發見シテ曾テ世ノ嘆美ヲ博シタル如何ナル論文ニ比スルモ讓ル所ナシ且此報告書ハ苟モ尋常ノ智カチ有シ議論ノ力ヲ感シ得ルノ人ハ容易ニ會得シ得可キ所アリ然ルニ此報告書ノ發行セラル、ヤ忽チニ無數ノ小冊子記者ノ攻撃スル所トナレリ此等ノ記者ハ世ノ殆ト忘ル、所トナリ又今日之ヲ想起セシムル程ノ價ナキナリ蓋此報告書ハ利害ノ及ホメ所極メテ深ク且廣キヲ以テ世人ハ及フ可キタケノ嘲罵刺譏ヲ逞フシテ之ヲ攻撃セリ而テ余輩ハ是レヨリ下院ニ於テ此報告書ガ如何ナル待遇ヲ受ケシ乎ヲ觀察セサル可カラズ此報告書ハ一千八百十年六月九日ヲ以テホルタル氏之ヲ出タシテト雖歷十一年五月六日ニ至ルニテ之ニ關シテ嚴正ニ討

論ヲ開カザリキ而テ此報告書ハホルタル氏、ハスキントン氏、ヘンリー、メルントン氏ノ各草ニ係ル所ニシテホルタル氏ハ三時間以上ニ亘ルノ演説ヲ爲シテ以テ討論ヲ開キケルニ聽者擧テ之ヲ嘆美セザルハナカリキ然レモ茲ニ氏ノ演説ヲ觀察スルハ不要ニ屬ス何トナレバ其大趣意ハ報告書ニ關シテ既ニ記セシ所ニ同シケレバナリ而テ氏ハ十六箇條ノ決議案ヲ出シテ以テ其演説ヲ終レリ其第一條ヨリ第七條マデハ我國ニ於テ據テ以テ一切ノ契約ヲ表稱スル所ノ價值ノ合法本位ノコトニ係レリ其第八條ハ英國銀行ノ約束手形ハ請求ニ應シテ其表面ニ記載セル若干ノ磅金貨ヲ仕拂フノ約束ナリト云フコト是ナリ其第九條ハ議院ガ初メ紙幣兌換停止條例ヲ出タスニ當テ紙幣價值ノ變セラレハ、コト期セザリシト云フコト是ナリ其第十條ハ實際紙幣ノ價值ガ久シク其正當ノ價值ヨリモ下落セリト云フコト是ナリ

其第一條ハ斯ク紙幣ノ下落セルハ英國銀行及地方銀行共ニ其紙幣ヲ過發セルニ原因スト云フコ是ナリ其第十二條及第十三條ハ外國爲替ノ甚シク下落セル者ハ專ラ外國ノ貨幣ニ比シテ我國ノ貨幣ノ下落セルニ原因スト云フコ是ナリ其第十四條ハ兌換停止ノ際ニ在テモ英國銀行取締役ハ地金相場及爲替相場ニ徴シテ其紙幣發行ヲ序理セサル可カラズト云フコ是ナリ其第十五條ハ紙幣ヲシテ其正當ノ價值ヲ維持セムル唯一ノ方法ハ請求ニ應ジ我國ノ金貨ヲ以テ之ヲ兌換セシムルニ在リト云フコ是ナリ其第十六條ハ此時ヨリ二年後ニ至リ金貨仕拂ヲ再始セザル可カラズト云フコ是ナリ

以上ス氏ハホルトルノ説ヲ反駁セリ曰余ハ英國銀行紙幣が過發シ爲メニ下落セズマテ委員ノ報告書ハ謬論誤説ヲ以テ滿ル

議會ヲ請院ニ出ガレシメ如何ナル報告書ヨリモ甚シキコトヲ證

スルヲ得可シ余ハ英國銀行紙幣ノ發行ハ地金相場若クハ爲替相場ノ上ニ何等ノ影響ヲモ及ボス者ニ非ザルコトヲ信ゼリ余ハ商品直段ノ騰貴ハ銀行紙幣ノ増加ニ原因ストノ説ヲ決シテ容ル、能ハズ委員ノ報告書ハ諮問ヲ受ケタル凡テノ證書者ノ説ト相反スル者ニシテ委員ト同一ノ説ヲ爲セシ證報者ハ唯二人アルノミ凡テノ實驗ハ委員ノ論理ニ反セリト而テ氏ハ銀行紙幣ト地金相場及爲替相場トノ間ニ何等ノ關係モ存セザルコトヲ證センガ爲メニ銀行紙幣流通高ノ増減、地金相場ノ高低、ハムボルクニ對スル爲替相場ノ浮沈ヲ示ス統計表ヲ出ダシ且論シテ曰然レハ單ニ紙幣流通額ヲ以テ其下落セルヤ否ヤヲ判スルノ標準ト爲ス可カラサルコトハ委員モ亦最モ強ク論セシ所ナリ而テ過クル二年間英國ガ歐洲大陸ニ巨額ノ仕拂ヲ爲セシコトハ以テ爲替ノ下落セシ所以ヲ解釋スルニ足レリ歐洲大陸中紙幣ノ

行ハレザル諸國ニ於テ諸物品直段ノ騰貴セルコト英國ト同様ノ  
 度ニ達セリト而テ氏ハ銀行紙幣ノ發行ハ地金相場若クハ爲替  
 相場ニ影響スト云フ説ノ非ナルヲ證センガ爲メニ長キ論ヲ爲  
 セリ

ヘンリー・ソルトン氏曰地金調査委員ト英國銀行ト相争フ大  
 疑問ハ其紙幣發行ヲ序理スルニ地金相場及外國爲替相場ヲ以  
 テセザル可カラザルヤ否ヤ又タ其紙幣過發ヨリ地金相場及外  
 國爲替相場ノ上ニ影響ヲ及ボセシヤ否ヤコト在リト而テ氏ハ報  
 告書ノ原理ヲ辨護スル長キ論ヲ爲シ其眞理タルコトヲ徴ス可  
 キ明證トシテ一千八百五年ノ佛蘭西銀行ノ實例ヲ指摘セリ蓋  
 此時佛蘭西政府ハ國債ヲ募集セザル可カラザルノ事情ニ際會  
 セント雖佛蘭西銀行ニ就テ之レヲ募集スルガ如キハ該銀行ノ  
 規則ニ反スル所ナルヲ以テ商人中ヨリ之ヲ募集セリ是ニ於テ

乎商人ハ募集ノ金額ニ應スル丈ケノ手形ヲ造リ之ヲ佛蘭西銀  
 行ニ携ヘテ割引ヲ請ヘリ故ニ到底該銀行ハ眞ノ債主トナリシ  
 者ニシテ之ガ爲メニ該銀行ノ紙幣大ニ増加シ隨テ又正金ノ取  
 付ケ大ニ増加セリ是ヲ以テ該銀行ハ大損失ヲ冒シテ諸地方ヨ  
 リ正金ヲ回收セザルヲ得ザリシ耳ナラズ遂ニ仕拂ヲ停止セザ  
 ル可カラザルニ至リシカバ其紙幣ハ一割乃至一割二分ノ割引  
 ヲ生シ外國爲替相場ハ一割ヲ下落セリ然レモ該銀行ハ勉メテ  
 其紙幣ヲ減少シ三ヶ月ニシテ容易ニ紙幣兌換ヲ再始セシカバ  
 外國爲替相場モ直ニ回復セリ又ソルトン氏ハ同一ナル現象  
 ノ起リシ他ノ諸國ノ實例ヲモ指摘シ次ニ貨幣本位ノ問題ニ論  
 及シ紙幣ノ斯ク絶ヘズ下落セルガ爲メニ大ニ貨幣本位ノ攪擾  
 ヲラレタルコトヲ述ベタリ氏曰貨幣ヲ劣惡ニセントノ議論ハ日  
 一日ト強キチ加フルナリ蓋或ル歲月ヲ經過セシ後ハ反テ貨幣

劣悪ニスルヲ以テ正道ニ合ヘリト爲スニ至ル可ケレハナリ  
 吾人若シ下落紙幣ヲ用ユルコト儘ニ二三年ニ止マラシムニハ從前  
 ノ本位ニ復スルヲ以テ正道ニ合ヘリト爲スト雖若シ紙幣ノ下  
 落セシ以來十年若クハ二十年ノ久シキヲ經過スルコト及ンデハ  
 從前ノ本位ニ復スルコト反テ不正トナルニ至ル可ケレバナリト  
 而テ氏ハ機ノ未タ過キザルニ先チテ速ニ從前ノ本位ニ復セン  
 コトヲ議院ニ強諫シ以テ其論ヲ結ベリ  
 ヴンセンタート氏ハホルチル氏ニ反對スルノ決議案ヲ動議シ長  
 キ論ヲ爲シテ以テ報告書ノ主義ヲ駁セリ氏曰正貨ヲシテ外國  
 爲替相場ヲ騰貴スルノ影響ヲ生セシムル唯一ノ方法ハ之ヲ輸  
 出スルニ在リ而テ正貨ノ輸出法律ヲ以テ禁セラル、以上ハ正  
 貨ハ如何ナル影響ヲモ爲替相場ノ上ニ及ホス者ニ非ズト此説  
 ヲ驚ク可ク誤レルコトハ此書ノ前諸章ニ於テ十分ニ之ヲ證シタ

ルヲ以テ今又茲ニ之ヲ反覆スルヲ要セザルナリ然レモ此説ハ  
 氏ガ次ニ突入セル數多ノ暴論ニ比スレバ尙ホ稍々實着ナル者  
 アリト云フ可シ氏ハホルチル氏ノ決議案中前ノ七箇條ハ本位  
 ナル者ヲ以テ觸知シ得可キ者ト爲スノ謬想ニ基ケルコトヲ述ヘ  
 論シテ曰此等ノ紳士ガ本位ナル語ヲ用ユル意義ニ從ヘバ本位  
 トハ價值ノ尺度トナル資金ノ一定不變ノ量目ヲ指ス者ト爲セ  
 ドモ余ハ斯カル本位ノ曾テ我國ニ存セザリシコトヲ斷言セント  
 スト而テ氏ハ法律上通用ヲ許サレタル貨幣ノ量目ハ一定セル  
 者ナリト爲スホルチル氏ノ決議案ノ趣旨ヲ嘲笑セリ且氏ハ己  
 レノ狂論ヲ證センガ爲メニ貨幣劣惡トナリテ其量目ヲ失ヒシ  
 ニ拘ラズ尙ホ法貨トシテ行ハレシコトアルノ實例ヲ指摘シ主張  
 シテ曰貨幣トハ地金一定ノ量目ヲ云フ者ニ非ザルコトハ此等ノ  
 實例ニ因テ之ヲ證ス可シト氏ハ又紙幣下落セルヤ否ヤノ疑問



此一點ニ屬スルコトヲ述ベ論シテ曰金銀一定ノ量目ニ因テ算シタル價值ノ如キハ英蘭銀行紙幣及我國ノ合法正貨ノ曾テ決シテ有セザリシ所タレバ銀行紙幣ガ此價值ヲ失ヒタリト云フ説ハ余ニ於テハ之ヲ許スヲモ要セズ又拒ムヲモ要セズト思惟ス蓋銀行紙幣ハ世人ガ英蘭銀行ニ置ク所ノ信憑ヨリ起ル通<sup>用</sup>價值ノ外ハ他ニ何等ノ價值ヲモ有スル者ニ非ス而テ銀行紙幣ガ從前ト同シク十分ニ此價值ヲ有スルコトハ余ノ固信スル所ニシテ余ノ決議案ノ第三條ニ明瞭ニ此事ヲ記セリト而テ氏ノ演説ノ爾餘ノ部分ハ單ニ斯カル狂説ヲ反覆シ布行セルニ過キザルヲ以テ茲ニ更ニ之ヲ詳察スルハ徒ラニ時間ヲ空費スル者ナルノミ然レモ茲ニ更ニ指摘セサルヲ得ザル所ノ今一ノ點アリ氏曰然ラハ則貨幣價值ノ減少ハ外國爲替相場ヲ騰貴セシムルノ結果アラント雖決シテ之ヲ下落セシムルノ結果ナキヲ知

ル可キナリト即此語ノ意タル一國貨幣ノ愈劣惡トナリ愈下落スルニ從ヒ外國人ハ愈之ヲ重シ外國爲替相場愈騰貴ス可シト云フニ在リ故ニ此説ニ從ヘバ夫ノ佛國ノ紙幣ガ内國ニ於テ日ニ益下落セシニ當テ外國人ハ之ニ對シテ益多クノ正貨ヲ與ヘシナラザル可カラズ即佛人ハ一千二百法ノ紙幣ニ對シテ單ニ「リゾル」ノ正貨ヲ與ヘシニ當テ英人及其他ノ外國人ハ紙幣ノ額面價ニ當ル丈ケノ正貨ヲ與ヘシナラザル可カラズ加之ヴ<sup>ン</sup>シタート氏ノ説ニ從ヘハ其以上ノ正貨ヲモ與ヘシナラザル可カラズ而テ次ニ氏ハ銀行紙幣ノ取引ト正貨ノ取引トノ間ニ差ナキコトノ事實ヲ擧ゲテ喋々己レノ説ノ當レルヲ誇レリ氏ハ己レガ一千八百四年ノ愛爾蘭委員ノ一人タリシコト及ヒ當時愛爾蘭銀行紙幣下落セリトノ説ニ同意セシコトヲ許セリ然レモ氏論シテ曰此ニノ場合ハ相北ス可カラズ何トナレバ愛爾蘭ニ於

アハ正貨公然増打ヲ以テ買買セラレシ耳ナラズ正貨ニテ仕拂  
 フキト銀行紙幣ニテ仕拂フキトハ物品直段ニ確然タル差アリ  
 シト雖英國ニ於テハ銀行紙幣ハ正貨ニ同一ナリトシテ通用セ  
 ラレタレバナリト然レモ氏ハ愛爾蘭銀行紙幣ノ此下落ハ紙幣  
 ノ過發ヨリ來リシトノ説ヲ拒ミ當時ノ政治上ノ事情ヨリ來リ  
 シ者ト爲セリ  
 報告書ノ決論ニ反對スル重モナル議論ハ以上掲グルガ如クニ  
 シテ此等ノ議論タル其形ヲ小變シテ絶ヘズ再出セシ所ナリ然  
 レモ余ハ造幣篇ニ於テ既ニ詳論セシ所アルヲ以テ大英國ノ貨  
 幣ハ金銀ノ一定ノ量目ヲ有ス可キ者ニ非ズト云フ説ノ暴且愚  
 ナルヲ茲ニ再ヒ痛論スルハ全ク無用ニ屬センノミ若シ此説  
 眞ニシテ貨幣ノ價值ハ其含ム金銀ノ量目ニ因テ規定セラル、  
 者ニアラズトモハ貨幣ヲシテ聊サカタリトモ金銀ヲ含マシム

ルノ要果シテ何處ニカアル全ク之ヲ含マシメスシテ可ナルニ  
 アラスヤ

日常ノ買買ニ於テ正貨ト銀行紙幣トノ間ニ差ナクシテ愛爾蘭  
 ニ於ケルガ如ク正貨公然増打ヲ以テ買買セラレザリシト云フ  
 説ニ關シテハ之ニ對スル答辨單純ニシテ且爭フ可カラザルナ  
 リ何トナレバ若シ此ノ如クナリシトモハ是レ唯刑罰ヲ恐ルハ  
 ガ爲メニ然リシニ外ナラザレバナリ現ニ議院ニ此討論アリシ  
 時ニ當リ二十一日以上ノ相場ヲ以テ金貨ヲ賣リタリトノ告發  
 ヲ受ケシ者三人アリテ此三人ハエドワード四世ノ法律ニ照ラ  
 シテ有罪ト判決セラレタリ而テ此法律ハ愛爾蘭ニハ及ハザル  
 ナリ以テ該國ニ於テ金貨ノ公然増打ヲ以テ買買セラレシ者ハ之  
 ナ禁スルノ法律ナキニ因ルヲ明ナリ然ルニ英國ニ於テハ此事  
 罪トシテ禁セラル、所ナリシテ以テ其結果トシテ金貨悉ク流

通上ヨリ退キタリ然ルゾアンシタート氏ハ更ニ他ノ攻撃ヲ與ヘ  
 テ以テ論ヲ挑ミタリ氏ハ商人ガ正貨ヲ受取ル下銀行紙幣ヲ變  
 取ルトニ從テ其直段ヲ異ニスルハ法律許ル所タルヲ認メ而  
 テ商人ガ之ヲ爲サバリシヲ論シタリ此點ニ關シハ氏ハスキッ  
 ソン氏ヨリ明瞭ナル反駁ヲ受ケタリハスキッソン氏曰若シ紙幣  
 ニシテ幾分ニテモ公衆ノ敬重ヲ維持シタリトセバ是レ全ク恐  
 怖ノ情ヨリ起リタル助力ニ基カザル可カラズ即當時ニ在テ將  
 サニ墮落シ來ラントセシ不幸ヲ察スルヨリ起リタル助力ニ基  
 カザル可カラズ故ニ此事ノ一トヲ定マルニ及ンデハ公衆ノ  
 之ヲ敬重スルヲ減シ忽チニ紙幣ノ有様異ニ如何ナル乎ヲ證ス  
 ルナル可シ既ニ今日ニ在テモ國內各地方ニ於テ二様ノ直段行  
 ハル、トニシテ余ハ此事實ノ疑フ可カラザル證左ヲ有セリ余  
 ハ斯カル事ニ親熟セル人ヨリ得タル書狀ヲ懷ニセリ此書狀ニ

據レバ地方ニ於テ二様ノ直段行ハレ金貨ノ通常ノ増打ハ半ク  
 ロウンナリト云ヘリト

又地金調査委員ノ一人タルシャープ氏ハ銀行紙幣下落セルヲ  
 證ス可キ他ノ事實ヲ附加セリ氏曰キニ屯在セル兵  
 士ニ給センガ爲メニ彼處ニ正貨ヲ送ルヲ常トセリ然ルニ近頃  
 一〇金貨ヲ二〇三志ニ算シテ之ヲ兵士ニ給シタリシニ一隊ノ兵  
 士ハ此割合ヲ以テ金貨ヲ受取ルヲ拒ミタリト又氏ノ説ニ曰  
 正貨一千「キニー」ノ遺物ヲ受ケタル人アリテ之ヲ以テ國債證書  
 ヲ買ハントシテ三分利附國債ノ相場幾何ナルヤヲ問ヒシニ六  
 十四磅半ナリトノ答ヘテ得タリ然レモ彼レ更ニ問フニ若シ正  
 貨ヲ以テ仕拂ハバ其直段幾何ナルヤヲ以テセシニ六十磅ニテ  
 賣ル可シトノ答ヘテ得タリ而テ彼レ現ニ此相場ヲ以テ之ヲ賣  
 ヘリト左レバ氏ノ説ニ據レバ政府ハウエストミンスターニ於テ

ハ金貨ト銀行紙幣ト同價ナルヲ主張セルニ拘ラズ尙ホ不正  
 モ一金貨二十三志ノ割合ヲ以テ之ヲ兵士ニ給セシナリ  
 又フランシス、バルデット氏ノ説ニ曰シユルシニ於テハ同地ノ銀  
 行紙幣ニ比スレバ英國銀行紙幣ハ三分ノ割引ヲ生シタリト又  
 曰國內ヲ通シテ一般ニ二様ノ直段行ハル、コト著明ナリト又  
 氏ハ其自カラ實驗セシ所ヲ述ヘテ曰余ハ仕拂フ所ノ正貨タル  
 ト銀行紙幣タルトニ從ヒ大ニ異ナル直段ヲ以テ葡萄酒ヲ賣ラ  
 レタリト

余ハ此緊要ニシテ興味アル討論ニ關シ既ニ多ク紙面ヲ費ヤシ  
 タルヲ以テ又此事ニ關スル他ノ演説ヲ觀察ス可キノ餘白ヲ有  
 セザルナリ蓋報告書ノ議論及事實ハ苟モ吾人ノ認諾ヲ與フ可  
 キ如何ナル原理ニ徵スルモ十分ニ満足ス可キ者ナルヲ以テ吾  
 人ハ又如何ナル議論ノ以テ之ニ反對ス可キ者アル乎ヲ知ラソ

トテ欲セリ然ルニ其議論タルヤ他ナシ磅トハ觸知シ得可キ者  
 非ズト云フニ在ルノミ磅ハ幻想的ノ虛相ナリ曖昧不定ノ假  
 像ナリ無形的ノ空物ナリ決シテ磅ナル實跡ノ存スルニ非スト  
 云フニ在ルノミ故ニ貨幣タルト地金銀タルトヲ問ハズ各物ハ  
 此幻想的ノ虛相ヲ中心トシテ無限ニ變シ得ル者ナリト云フニ  
 在ルノミ磅ノ實跡ヲ有セザルハ一片ノ煙ヨリモ甚シト云フニ  
 在ルノミ磅ハ思議ス可カラザル方法ニ由テ人ヨリ人ニ通セラ  
 ル、價値ノ感覺ナリト云フニ在ルノミ而テケノング氏ハ其  
 演説ニ於テ此愚妄ナル説ノ主唱者ヲ寬假スル所ナク嘲罵セリ  
 又氏ハ市價ニ從テ金貨ヲ通用スルヲ許サバ尙モ爲メニ金貨  
 全ク市場ヲ去ルニ至リシヲ説キ弗銀貨ノ如キモ法律ヲ以テ  
 強ヒテ下落セル紙幣ト同價ニ通用セシメントスルニ當テハ市  
 場ヲ去ラヌトセシト雖市價ニ從テ之ヲ通用スルヲ許スニ及

忽チニ再ヒ市場ニ出テ述ベタリ斯ノ如ク氏ハ報告書  
 ノ原理及議論ニ悉ク一致シタリト雖尙ホ二年ノ短時期ヲ以テ  
 英蘭銀行ニ正貨仕拂ヲ再始セシムルハ得策ニ非スト爲セリ  
 四夜ノ討論ノ後チ委員會ハホルチル氏決議案ノ第一條ニ關シ  
 テ可否ノ起立ヲ取リシニ七十五人ニ對スル百五十一人ノ多數  
 ヲ以テ非決セラレタリ又次ノ十四箇條ハ起立ヲ取ルコ及ハズ  
 シテ非決セラレ最後ノ一箇條ハ四十五人ニ對スル百八十八人ノ  
 多數ヲ以テ非決セラレタリ而テ夫ノロベルト、ピール氏モ多數  
 黨ニ列セシ一人ナリキ  
 宰相ハ斯ノ如キ多數ヲ以テ地金調査委員ヲ破リシコナレバ最  
 卓此議論チ東欄ニ歸セシムルヲ已レニ取テノ得策トセシナル  
 可シ蓋銀行紙幣下落セルヤ否ヤノ二黨相争フ事實上ノ疑問ニ  
 關シテハ更ニ一語ヲモ費ヤスノ要ナキナリ然ルニ宰相黨ハ斯

ノ如ク明瞭獲フ可カラザル事實ニ對シテ妄リニ抗論シ取テ慎  
 山所チカリキ若シ夫ノ宰相黨ニシテ此事實ハ則之ヲ許シ單ニ  
 其議論チ戰爭間ニ急激ナル變動ヲ起スハ國家ニ不利ナリト云  
 フノ一點ニ止メタラシムニハ容易ニ其面目ヲ維持スルヲ得シナ  
 ル可シ然ルニホルチル氏決議案ノ全敗ヲ取リシヲ以テ尙ホ足  
 レリトセズシテヴァンシグート氏ハ已レノ威權及自黨勢力ノ盛  
 ナルヲ頼ミ徒ラニ壓制ノ慾ヲ逞フセンガ爲メニ下院ヲシテ嘲  
 弄ト愚妄トノ最深ノ底ニ陥ラシム可キ處置ニ出デントコ決セ  
 リ即チ氏ハ一連ノ決議案ヲ動議シタリ此決議案ハ長キヲ以テ  
 茲ニ之ヲ引擧スル能ハズト雖其趣意ヲ摘括スレバ左ノ如シ曰  
 貨幣ノ含ム地金ノ量目ハ各君主ノ隨意ニ定ム可キ者ニシテ一  
 定ナル者ニ非ス曰英蘭銀行紙幣ハ單ニ斯カル貨幣ヲ仕拂フノ  
 約束ナルニ外ナラズシテ世人ハ常ニ之ヲ我國ノ合法正貨ト同

視之又今日ニ於テモ同視セリ而テ法律上此合法正貨ヲ使用シ得可キ一切ノ金銀上ノ取引ニ於テハ一般ニ此正貨ニ同一ナリトシテ銀行紙幣ヲ受授セリ曰地金相場ノ騰貴及爲替相場ノ下落ハ決シテ銀行紙幣ノ過發ニ原因スル者ニ非ズト氏ハ此決議案ヲ提出スルニ當リ驚ク可ク長キ演説ヲ爲シ内國貨幣ノ有様如何ハ外國爲替相場ノ上ニ何等ノ影響ヲモ及ボス者ニ非ストノ氏ノ前説ヲ反覆再陳シ未聞ノ大膽ヲ以テ議院ノ記録セラレタル意見及當時諸記者ノ萬口同音ノ意見ヲ無視シ一千六百九十六年及一千七百七十四年ニ於テ外國爲替ノ下落セシハ貨幣下落ノ原因ニシテ之ガ結果ニ非ストノ奇怪ナル説ヲ吐ケリケシニシテ氏ハ宰相黨ガ地金調査委員ノ取テ取リシニ満足シ議院外ニ在テハ何人モ笑ヲ含マズシテ語ル能ハザル此愚ナル決議案ヲ更ニ通過セシメテ以テ議院ノ聲譽ヲ汚ス勿

クシテ宰相黨ニ勸説セシト雖其効ナク氏ノ修正説ハ四十二人ニ對スル八十二人ノ多數ヲ以テ非決セラレ而テヴァンシックト氏ノ決議案ハ遂ニ可決セラル、所トナレリ金貨ノ公然増打ヲ以テ賣買セラレザリシ者ハ此事ヲ以テ罪トセシニ因ル者ニシテ現ニ之ガ爲メニ審問ヲ受ケ有罪ト判決セザレシ者三人アリシトハ余既ニ之ヲ記セリ故ニ斯カル事情ノ下ニ在テ銀行紙幣ト正貨ト其價值ニ差ナシトノ論ヲ立ツルガ如キハ陋劣賤ムニ堪ヘタル詭辨ナルノミ然レモ此事ニ關スル法律ニ對シテ當時與ヘラレタル解釋ホド愚ナルハ非ザルナリ蓋二十志以下ノ地金ニ對シテ銀行紙幣ヲ與フルトハ有罪ナリト思惟セラレシト雖尙ホ商人ガ正貨ト銀行紙幣トニ從ヒ其賣ル物品ノ直段ヲ異ニスルハ十分ニ法律ノ許セシ所ナリ夫ノザレシト氏ハホルテ氏ノ決議案ヲ駁スル演説ニ於テ商人

於此事ヲ爲サバリシヲ論シテ以テ己レノ論敵ヲ嘲罵セリ然レ  
 此法律ヲ避クルハ最も容易ナル所ナレバ氏ガ如何ニシテ斯  
 ガル愚論ヲ爲シ得シ乎テ怪マザルヲ得ズ即何人ト雖廿一志以  
 上ノ相場ヲ以テ金貨ヲ賣ラント欲セハ偽賣買ノ手段ニ因テ法  
 律ヲ避クルハ最も容易ナリトス先ツ紙幣一磅及銀貨五志ニ對  
 シテ一ノ麵包ヲ賣リ再ヒ金貨一「ギニー」ヲ以テ之ヲ買戻ス可シ  
 即金貨一「ギニー」ト紙幣一磅及銀貨五志トノ交易ハ此單純ナル  
 手段ニ因テ之ヲ行フヲ得可クシテ此手段ナルヤ全ク法律ニ合  
 ハル者ナリ然レハ常訴裁判所ハ判事一同異議ナクシテ夫ノテ  
 同ノテノ判決ヲ破毀シ増打ヲ以テ金貨ヲ賣買スルハ有罪ニ非  
 ズト布告セシカバ又斯カル欺計ヲ行フヲ要セザルニ至レリ  
 議院ハ斯カル粗暴氣隨ナル處置ヲ恣ニシ英蘭銀行ノ無謀ナル  
 舉動ニ向テ大ナル獎勵ヲ與ヘシテ以テ爾來各人財產ノ價值ハ

一ニ該銀行取締役ノ意志如何ニ屬スルコトハ苟モ此問題ヲ解ス  
 ル者ニ取テハ明ナラザル可カラズ而テ此事ヤ定額ノ年金ヲ受  
 クル者ニ對シテ最モ驚ク可キ結果ヲ生ジタリ何トナレバ日常  
 必要ノ諸物品ハ紙幣下落スルニ從テ益騰貴スルト雖定額ノ借  
 地料ヲ得ル所ノ地主ノ如キハ下落セル紙幣ヲ以テ之ヲ受取ラ  
 ザルヲ得ザレバナリ而テ其借地人ハ其賣ル物品ニ對シテ名ノ  
 ミノ高價ヲ受取リシナリ此ノ如クシテ事態益甚シキヲ加ヘ三  
 月ニ至リ地金相場ハ一匁ニ付四磅十六志ニ騰貴セタリシカバ  
 キング公ハ己レノ借地人ニ廻章ヲ送り當初ノ契約ハ我國合法  
 正貨ノ若干ヲ仕拂フニ在リシ者ニシテ今日ノ紙幣ハ著シク下  
 落セルコトヲ告ゲタリ即チ氏曰余ハ將來我國ノ合法金貨ヲ以  
 テ借地料ヲ受取ラント要ス然レハ余ノ目的ハ唯當初契約ニ  
 定メタルト同一ノ實價アル借地料ヲ受取ラントスルニ在ルガ

故ニ契約ニ定メタル「ギニー」金貨ノ額ト同量ナル葡萄牙金貨ヲ以テ之ヲ仕拂ヒ若シハ借地料ヲ仕拂フニ要スル丈ケノ造幣金ヲ買フニ十分ナル紙幣ヲ以テ之ヲ仕拂フアラバ之ヲ受取ルヲ諾ス可シト

斯カル要求ノ正當ナルコトハ何人ト雖之ヲ拒ミ肯ンゼザル可シ然ルニキング公ガ下院ノ決議ニ對シテ此實際的ノ刺戟ヲ加ヘシガ爲メニ公ハ愛國心ナシトテ無限ノ誹謗ヲ敵黨ヨリ受ルニ至レリ蓋公ノ要求ハ如何ナル點ヨリ觀察スルモ法理ニ合ヘル事ナラス又之ヨリ公平ナルハアラザル也其借地人ハ農産物ヲ賣リテ増加セル直段ヲ受取ルニ拘ラス從前同類ノ借地料ヲ下落セル紙幣ヲ以テ公ニ仕拂フナリ故ニ其借地人ニシテ紙幣ノ下落セルガ爲メニ穀物ニ對シテ増加セル直段ヲ得ルトスレバ公亦同様ニ増加セル借地料ヲ得ザル可カラザルコト明ナリ然

ルニスタンホープ公ハ正貨ノ仕拂ト銀行紙幣ノ仕拂トノ間ニ差ヲ立ルヲ以テ輕罪ト爲スノ議案ヲ提出シ此議案ハ大ニ修正ヲ受ケシ後テ遂ニ可決セラレタリスタンホープ公ハ此議案ヲ提出セルトキ金貨「ギニー」ニ對シテ二十七志ノ代價要求セラレタル數多ノ實例ヲ述ヘタリ又ホルランド公ノ說ニ據レバ通常金貨「ギニー」ニ對シテ一磅ノ紙幣ト七志ノ銀貨與ヘラレシト云ヘリ嗚呼下院ハ僅ニ二月前ニ於テ金貨及銀行紙幣ハ同價ナリトノ決議ヲ凱歌ヲ奏シテ通過シ此決議ハ顯然トシテ其討論録ニ存スル所ナリ故ニ右ノ事實ハ此決議ニ對スル驚嘆ス可キノ註解ト云フ可キナリ

グレンヴィル公ハ最モ熱心ニ此議案ニ抵抗セリ且公ハ最初兌換停止條例ヲ出シタル内閣ノ一員タリシヲ以テ公ノ說ハ特ニ價値アリトス公曰余ハ我國ノ宰相ガ彼ノ夜ニ於ケルガ如ク辱ツ





我國ニ存セザリシ所ナリ合法貨幣トハ紋章ヲ印刻セラレタル貨幣ヲ是レ云フナリ之ヲシテ鎔解輸出ス可カラザル合法ルナリ余ハ余ノ對論セザル可カラザル人ノ如何ナル數學者タルヤチ知ラザルナリ然レモ法律ヲ以テ銀行紙幣及金貨ハ共ニ磅ニ對シテ一定ノ割合ヲ有スル者ト爲ス以上ハ銀行紙幣及金貨モ亦互ニ相同一ナリトス余ハ之ヲ證センガ爲メニ單ニ幾何學ノ原則ニ徵セバ足レリ蓋一物ニ同シキ者ハ又互ニ相同シト云フハ幾何學ノ原則トシテ確立セラル、所ナレバナリト

吾人ハ常ニ地球ノ運動ハ虛偽ナリトノ判決ヲ下タセル夫ノ宗敎裁判所ノ有名ナル命令ヲ嘲笑シ該裁判所ノ糺責ヲ受ケテ退クニ當リ然ルニモ關セズ地球尙ホ運動ス」ト稱語セルガリ、チ

ニ對シテ同情ヲ懷ケリ然レモ實際ニ「ギニー」ノ金貨ガ一磅ノ紙幣及七志ノ銀貨ニ對シテ賣買セラル、ニ拘ラス尙ホ世人ノ金貨ヲ視ル「銀行紙幣」一ナリト公言セル議院ノ此有名ナル決議及法律ガ同價ナル可シト布告セルガ故ニ現ニ同價ナリト主張セルスタンホーア公ノ此斷定説ハ其愚ナル「之」ヲ右宗敎裁判所ノ命令ニ比スルニ更ニ遙カニ越ユル所アリ而テ吾人ハ宗敎裁判所ノ有力ナル祖先ヲ回顧シテ寧ロ欣然タル者アルト同時ニ又ヴァンシグート氏ノ決議案ヲ想起シテ端然クラザルヲ得ザルナリ

此議案ハ上院ニ在テハ其通過ノ各段落ニ於テ烈シク爭議セラレタリト雖遂ニ十六人ニ對スル四十三人ノ多數ヲ以テ第三讀會ヲ通過セリ又下院ニ在テモ討論激ニシテ久シキニ亘リシト雖遂ニ二十人ニ對スル九十五人ノ多數ヲ以テ可決セラレタリ

而テ初メ此條例ハ一千八百十二年三月二十四日ニ至テ其期盡  
 クルコト定メシト雖其後兌換停止條例ノ續ク間ハ此條例モ亦  
 續クコトナレリ  
 余ハ一千八百九年及一千八百十年ノ投機過商ノ結果ニ關シテ  
 論ス可キ者アリト雖後章ニ至リ商業上ノ手形ニ對シテ紙幣ヲ  
 發行スルコトニ關スル英蘭銀行ノ主義ヲ論ス可キガ故ニ其章ニ  
 至ルマデ之ヲ遷延ス可シ  
 兌換ヲ再始スルコトニ抗シテ主張セラレタル今一ノ議論ハ英蘭  
 銀行ヲシテ騰貴セル市價ヲ以テ金ヲ買ハザルヲ得ザラシムル  
 ハ不正ナリト云フニ在リ蓋當時討論ニ與カリシ人々ノ利害ハ  
 深ク此等ノ問題ニ關セシガ故ニ隨テ公平ニ之ヲ觀察スル能ハ  
 ザル者アリシト雖今日吾人ヨリスレバ一層公平ニ之ヲ觀察ス  
 ルヲ得ル所ニシテ吾人ハ當時英蘭銀行ヲシテ金ヲ買ハザルヲ

得サラシムルモ此事ニ於テ一ノ困難アル可カラザリシコトヲ看  
 破スルヲ得可シ抑下落セル紙幣ヲ以テ仕拂ヲ受ケタル各債主  
 ハ其正當ニ受ク可キ返金ノ二割ヲ欺奪セラレシ者ナリ而テ英  
 蘭銀行ガ其紙幣ノ所持人ヲ損セシメテ己レ大利ヲ博セシコト  
 考フルキハ該銀行ハ其費用ノ幾何ナルニ拘ラズ其責任ヲ盡ス  
 ニ十分ナル金ヲ買ハザル可カラザルコト明ニシテ是レ實ニ正道  
 ノ要スル所タリ而テ紙幣所持人ノ受ケシ損害大ハ則大ナリト  
 雖尙ホ一時ニ止マレリ一般國民ノ受ケシ損害ニ至テハ更ニ之  
 ヲリモ大ナリトス何トナレハ此下落紙幣ヲ以テ募集セル國債  
 ノ負擔大ニ重キヲ加フルニ至リタレバナリ  
 一千八百十一年ノ收穫ハ非常ニ不登ニシテ加フルニ當時ナボ  
 レタンノ權勢ハ其頂點ニ達シ歐洲大陸ヨリスル供給ノ泉源全  
 ク遮塞セラレタリ左レバ同年ノ半バニ際シ穀物ノ直段速ニ騰

貴シ翌一千八百十二年八月ニ至リ戰爭間ノ最高點ニ達セシマ  
 デハ益騰貴シテ止マザリキ當時英蘭及ウエールスニ於ケル小麥  
 ノ平均直段ハ百五十五志ニシテ或ルダントズツク産ノ小麥ノ  
 如キハ百八十志ニ達セリ而テ一二ノ場合ニ於テハ大麥ノ直段  
 八十四志ニ達セシコアリ而テ相反對スル夫ノ二主義ノ主唱者  
 ハ互ニ此非常ノ騰貴ヲ以テ相異ナル原因ニ歸シタリ即甲黨ハ  
 之ヲ以テ殆ト全ク紙幣ノ下落ニ歸シ乙黨ハ之ヲ以テ殆ト全ク  
 穀物ノ缺乏ニ歸セリトツク氏ハ後説ノ最モ有名ナル主唱者ニ  
 シテ氏ハ其説ヲ證センガ爲メニ當時殆ト正貨ノミ行ハレシ佛  
 國ニ於テモ穀價ノ同様ニ騰貴セシ事實ヲ舉ゲ以テ最モ強固ナ  
 ル議論ヲ提出セリ益トツク氏ノ此強固ナル議論ハ氏ガ當時ノ  
 人タリシ故ヲ以テ一層ノ勢力ヲ添ユル所ニシテ余ハ其許ス可  
 キハ十分ニ之ヲ許スト雖氏ガ穀物ノ騰貴ヲ獨リ其缺乏ニ歸シ

テ全ク紙幣下落ノ影響ヲ算外ニ除クニ至テハ余ハ氏ノ説ヲ當  
 然ト爲スト能ハザルナリ未ノ紙幣直段ト正貨直段トヲ區別  
 スルヲ禁スル條例出デシ前ニ在テハ國內ニ於テ紙幣直段ト正  
 貨直段トノ二様ノ直段一般ニ行ハレシコハ吾人十分ノ實證ヲ  
 有スル所ナリ而テ此條例出デシ後ハ此事止ミテ獨リ紙幣直段  
 ノミ行ハレ金貨ハ地ヲ拂テ消滅スルニ至リシナリ然レモ若シ  
 仕拂ニ充ツルニ金貨ヲ以テスルニ於テハ正貨直段ト紙幣直段  
 トノ間ニ條例發布前ト同様ニ大ナル差アリシコ必ス可クシテ  
 吾人豈之ヲ疑フテ得ンヤ而テ金貨ヲ以テ仕拂ニ充ツル場合ニ  
 於テ斯カル差アリシナル可キコ既ニ此ノ如シトセハ紙幣ノミ  
 ナ以テ仕拂ニ充ツル時ノ直段ハ正貨ヲ以テ仕拂ニ充ツル時ノ  
 直段ニ比スレバ此差タテ騰貴セシナラザル可カラザルコ明ナ  
 リ且一千八百十二年ノ穀物缺乏ハ一千八百百年ノ穀物缺乏ヨリ

モ甚シト想像ス可キノ理由ナキ耳ナラズ之ヲ事實ニ徴スルニ  
 一千八百年ハ一千八百十二年ヨリモ反テ甚シキ者アリシニ似  
 タリ然ルニ一千八百十二年ニハ小麥ノ平均直段百五十五志ニ  
 達シ一千八百年ニハ百三十三志ニ止マレリ然ラハ則此差ハ如  
 何ナル原因ヨリ生セシ乎他ナシ據テ以テ直段ヲ算ス可キ紙幣  
 ノ下落セシニ原因セルコト事實ニ徴シテ明瞭獲フ可カラズト余  
 ハ信ズルナリ又一千八百十二年五六月ノ交ニ在テハ地金ノ相  
 場ハ一考ニ付約シ四磅十八志ニシテ即此相場ヲ以テスレバ紙  
 幣ノ實價ハ十五志十一片ナリトス事實其レ斯ノ如クニシテ紙  
 幣ヲ以テ仕拂フキハ直段騰貴スルコトハスタンホーア公ノ條例  
 發布前ニ在テハ十分ニ著明ナリシナリ然ルニ吾人ハ此直段ノ  
 騰貴ハ此條例ノ發布ト共ニ現ニ消滅セシ者ト想像ス可キ乎豈  
 此ノ如キ理アラシヤ

地金報告書ノ原理ハ議院ノ爲メニ斷然排斥セラレ二十一年ヲ以  
 テ五十七ニ同一ナリト爲ス夫ノ決議ノ爲メニ誤認ナリト宣告  
 セラレケレバ英國銀行ハ又其紙幣ノ實價ナシテ其呼價ニ符合  
 セシメント勉ムルコトナク地金ノ市價ハ益騰貴シテ遂ニ一千八  
 百十三年十一月ニ至リ五磅十志ニ達セリ是レ實ニ其曾テ達セ  
 レ最高點ナリキ而テ一部ハ連年收穫ノ凶歉ニ基キ一部ハ紙幣  
 ノ下落ニ基キテ物品直段ノ騰貴久シキニ續キケレバ世人遂ニ  
 此事永遠ニ續ク可シトノ信ヲ懷クニ至レリ是ニ於テ乎土地ノ  
 賣買ニ關シテ非常ノ投機取引行ハレ荒地濕地ノ開拓セラレ、  
 者極メテ大ナリキ夫ノリシニコレニ於テ非常ノ農業上  
 ノ改良行ハレシガ如キハ則此時ニ在リ大抵ノ場合ニ於テハ借  
 地料ハ一千七百九十二年ニ比スレバ二倍増加シ當時新ニ締結  
 セシ所ノ一切ノ農業上ノ契約ハ斯カル法外ナル直段ニ基キテ

行ハレシ者ニシテ地主及借地人ハ齊シク其出費ヲ増加シ財產  
ヲ妻子ニ配與スルヲ亦同一ノ度ヲ以テ増加セリ左レバ之ガ自  
然ノ結果トシテ地方銀行ノ如キモ大ニ増加セリ即一千八百十  
一年ニハ其數七百二十八ナリシニ一千八百十三年ニハ九百四  
十ニ増加シ其紙幣發行高ハ之ヲ低算スルモ尙ホ約ソ二千五百  
萬磅ナル可シト想像セラレタリ而テ一千八百十二年露國遠征  
ノ役ニ於テ佛軍ガ蒙リシ大敗及レイアシクノ戰爭ノ後ハ露國  
及北日耳曼ノ諸港英國ノ商業ニ對シテ開カレケレバ之ガ爲メ  
ニ輸出ニ關シテ非常ノ投機取引行ハルニ至レリ  
一千八百十三年ノ收穫ハ驚ク可ク豊稔ナリケレバ一千八百十  
二年八月ニ百五十五志ニシテ爾來一千八百十三年八月ニ至ル  
マテ次第ニ下落シタリシ小麥ノ相場ハ一層下落シ一千八百十  
四年七月ニハ僅ニ六十八志トナレリ而テ一千八百十四年ノ春

季ニ於テハ輸出ニ關スル投機取引熾ニ行ハレ輸出品ノ直段凡  
ク騰貴シテ從前ニ比スレバ概テ一倍若クハ二倍セリ左レハ各  
種ノ事業ニトシテ前記ノ原因ノ爲メニ影響セラレザルハナク  
當然ニシテ避ク可カラザルノ結果速ニ起レリ即激烈ナル反動  
起リテ各種財產ノ直段一般ニ下落シ農民、商人、製造者、鑛業者、船  
舶營業者、建築者等凡テ損失ヲ蒙リテ破産セルコト曾テ其例ヲ見  
ザル程ノ甚シキニ至レリ蓋狂騒ノ際ニ在テ人々カ濫リニ契約  
ヲ締結シ投機取引ヲ營ムルハ其結果ノ爾後數年ニ亘リテ續ク  
テハ常ニ然ル所ニシテ此場合ニ於テモ亦然リシナリ即此慘禍  
一千八百十四年ノ秋季ニ始マリ翌十五年ヲ通シテ愈甚シキ  
ヲ加ヘ十六十七年ニ至テ其頂點ニ達セリ此數年間八十九ノ地  
方銀行破産シ其一千八百十六年ノ紙幣發行高ハ之ヲ一千八百  
十四年ニ比スレバ殆ト半額ニ減少セリ

斯内如ク地方銀行紙幣ノ一般ニ信ヲ失ヒシヨハ恰モ一千七百九十三年及一千七百九十七年ノ事情ト相似タル者ニシテ世上信憑ノ破壊ヲ支ヘンガ爲メニ英蘭銀行紙幣ノ増發ヲ要シタリ而テ之ガ爲メニ英蘭銀行紙幣ヲ増發スルヲ三百萬磅以上ニ及ヒタリト雖地方銀行紙幣ノ減少セルヲ甚大ニシテ英蘭銀行紙幣増發高ノ三倍ニ下ラザル程ナリシカバ一般ニ紙幣ノ價值速ニ騰貴シ一千八百十五年五月ニハ地金相場五磅六志ニシテハムボルグニ對スル爲替相場ハ二八、二、巴里ニ對スル爲替相場ハ一九ナリシニ一千八百十六年十月ニハ地金相場ハ速ニ下落シテ三磅十八志六片トナリ又ハムボルグニ對スル爲替相場ハ三八トナリ巴里ニ對スル爲替相場ハ二六、一〇トナレリ而テ一千八百十七年七月マアハ概テ此相場ニテ續ケリ

是ニ於テ平地金報告書ノ原理ノ大勝利ヲ得シテ遂ニ證セリ

メリト謂フ可シ蓋無價ナル剩餘紙幣除カレシヲ以テ一般ニ紙幣ノ價值騰貴シテ殆ト平價ニ復シ若シ此際少シク意ヲ用ヒバ之ヲ平價ニ復スルヲ得テ爲ス可カリシナリ而テ地方銀行紙幣ノ濫發ヲ將來ニ制スルノ手段ヲ施シタラシムハ此時ヲ以テ適モ物議ヲ招クヲナク最モ容易ニ紙幣兌換ヲ再始スルヲ得シナル可シ

英蘭銀行ガ紙幣兌換ヲ再始スルノ最モ容易ナルヲ政府ニ通知セシメテ數回ニ及ビシト雖常ニ政治上ノ理由ノ爲メニ之ヲ再始スル能ハザリシハ余既ニ之ヲ記セリ而テ一千八百十五年平和ノ遂ニ回復セラル、ニ及ビ該銀行ハ何時ニテモ命ニ應シテ容易ニ紙幣兌換ヲ再始センガ爲メニ之ガ準備ヲ爲シ該年及翌十六年ニ於テ巨額ノ正金ヲ貯積シタリケレバ十六年十一月

至リ一千八百十七年一月一日前ニ發行シタル紙幣ヲ凡テ兌

換又可キ旨ヲ揭示シ又十七年四月ニ至リ一千八百十六年一月  
 一目前ニ發行セタル紙幣ヲ凡テ兌換ス可キ旨ヲ更ニ揭示セリ  
 然ルニ此等ノ揭示ヲ爲セシニ拘ラズ金ヲ要求スル者ハ殆ト之  
 アルヲ見ザリキ蓋人民久シク紙幣ニ慣レシヲ以テ之ニ代ヘテ  
 金ヲ受取ルヲ最モ好マザリシニ因ルナリ英蘭西部ノ最大銀  
 行者ノ一人タルスダック<sup>1</sup>氏ノ説ニ據レバ氏ノ得意者ハ凡テ氏  
 ノ紙幣ヲ擇ミ曩キニ金貨ヲ匿藏セタリシ人ノ如キモ多クハ之  
 ニ代ヘテ紙幣ヲ得ンヲ懇請シ地方ニ於テハ毫モ金貨ヲ拂出  
 スニ由ナカリシカバ氏ハ紙幣兌換ノ半バ再始セラレタル此時  
 期間ニ於テ己レノ手ニ集積シタリシ剩餘ノ金貨ヲ速ク倫敦ニ  
 送ラザルヲ得スニテ爲メニ殆ト百磅ヲ費ヤセリト云ヘリ  
 之ヨリ先キ一千八百十二年三月ヲ以テ兌換停止條例ヲ一千八  
 百十六年七月マケ延期シタリキ此議案ハナボレンサンガニルバ

ヲ出デタリトノ新聞未ダ英國ニ達セザル前ニ提出セラレ且可  
 決セラレタルナリ而テ此議案ノ可決セラルト殆ト同時ニ戰  
 争新ニ起リ遂ニ夫ノウ<sup>2</sup>トル<sup>3</sup>ノ戦争ヲ以テ其局ヲ結ベリ  
 左レバ宰相ハ此役ノ費用ノ爲メニ金融ノ閉塞ヲ起サント恐  
 レ更ニ兌換停止條例ヲ一千八百十八年七月マケ延期セリ  
 此時紙幣兌換ヲ半バ再始セシトハ十分ノ功ヲ奏シ之ガ爲メニ  
 敢テ大ニ金貨ノ取付ケヲ起ス<sup>4</sup>トナク一千八百十七年十月マケ  
 ハ金貨益英蘭銀行ニ集積セ遂ニ此時一千九百一十一萬四千磅  
 ノ最高額ニ達シタリ而シテ此月該銀行ハ一千八百十七年一月  
 一目前ニ發行シタル紙幣ハ凡テ所持人ノ望ミニ應シ正貨若ク  
 ハ新紙幣ニ兌換ス可キ旨ヲ揭示セリ然ルニ一千八百十七年間  
 ニ於テ外國政府ノ國債ヲ募集スル<sup>5</sup>ト甚多ク普露士、換地利及歐  
 州諸國ノ諸小國ハ其下落紙幣ニ代ニル<sup>6</sup>ト正貨ヲ以テセシトキ



魁之而ア貨幣英國ニ豊多ナリクレバ此國債ノ大部ハ英國ニ於  
テ募集セラレタリ左レバ之ガ結果漸ク一千八百十七年四月ノ  
頃ヨリ現ハレハムボルグ及巴里ニ對スル爲替相場下落シ地金  
相場騰貴スルニ至レリ而テ斯カル現像ハ一千八百十八年ヲ經  
テ翌十九年一月ニ至ルマデ次第ニ甚シキヲ加ヘ此時地金相場  
ハ四磅三志トナリハムボルグニ對スル爲替ハ三三、八トナリ巴  
里ニ對スル爲替ハ二三、五〇トナレリ而テ一千八百十七年七月  
其造幣局ハ巨額ノ新金貨ヲ發行セリ是ヲ以テ英國銀行ニ向  
テ正貨ノ取付ケ漸次ニ起リ前記ノ揭示ニ從テ金貨ノ引出サル  
モノ六百七十五萬六千磅ニ及ベリ且恰モ此時ヲ以テ英國政府  
ハ出納局手形ノ利息ノ割合ヲ減少セリ而テ歐洲大陸諸政府ハ  
一層高キ利息ヲ與ヘシヲ以テ輸出ノ爲メニ金貨ノ需要大ニ起  
ルニ至リ一千八百十八年ノ初メニ至テハ金貨大ニ流出セリ然レテ英

蘭銀行取締役ハ斷シテ地金報告書ノ原理ヲ蔑如シ斯ク金貨ノ  
流出スルニ際シ政府ヘノ貸付金ヲ二千萬磅ヨリ二千八百萬磅  
ニ増加シ金貨ノ需要ハ輸出ノ爲メニ起リシ者タルヲ十分ニ知  
ルニ拘ラズ尙ホ其輸出ヲ妨グシガ爲メニ紙幣發行高ヲ減少ス  
ルヲ爲サベリキ之ト同時ニ地方銀行紙幣ノ發行高ハ一千八百  
十六年以後三分ノ二ヲ増加セリ  
金ノ需要ハ一千八百十八年及十九年間ハ益強キヲ加ヘ若シ法  
律ヲ以テ之ニ干渉スルニ非ズンバ英國銀行ノ金庫速ニ竭盡ス  
ルニ至ルコト明瞭トナレリ是ヲ以テ一千八百十九年二月三日ヲ  
以テ上下兩院ハ英國銀行ノ實狀ヲ調査セシメシガ爲メニ委員  
ヲ任シ而テ委員ハ四月五日報告ヲ爲シ一千八百十六年及十七  
年少揭示ニ從テ金貨ヲ仕拂フコト英國銀行ニ禁スル條例ヲ速  
ニ提出スルヲ利トスル旨ヲ陳示セリ乃チ其後二日ニシテ此目的

一條例發布セラレタリ而テ下院委員ノ報告書ニ記ス  
 所ニ據レバ一千八百十八年ノ前六ヶ月間ニ佛國造幣局ニ於  
 テ金貨ヲ鑄造セシメ一億二千五百萬法ニ及ヒ其四分ノ三ハ英  
 國ノ金貨ヲ改鑄セシ所ニ係ルト云ヘリ此條例ヲ以テ當期ノ議  
 院會場中ハ英蘭銀行ガ五磅以下ノ仕拂ニ於テモ又ハ其如何ナ  
 ル紙幣ニ對シテモ金貨ヲ出ダスヲ全ク禁シタル故ニ此條例  
 該銀行ノ門戸ヲ閉鎖シテ全ク正貨仕拂ヲ禁シタル者ナリ  
 余ハ一千八百四年及一千八百十年ノ調査委員ノ名ヲ列記シタ  
 ルヲ以テ又茲ニ一千八百十九年ノ上下兩院ノ調査委員ノ名ヲ  
 列記ス可シ即下院ノ委員ハカストレリーフ公、ツァンシタート氏、  
 ト、  
 上院ノ委員ハハルロウビー公、ウエルリントン公、ランスタウ  
 シ公、モントロース公、リヴァーポール公、セイント、ゼルマインヌ公、  
 パストスト公、シドマウス公、アベルブーロン公、グランヴィル公、キン  
 グ、  
 上院ノ委員ハハルロウビー公、ウエルリントン公、ランスタウ  
 シ公、モントロース公、リヴァーポール公、セイント、ゼルマインヌ公、  
 パストスト公、シドマウス公、アベルブーロン公、グランヴィル公、キン

下院ノ委員ハハルロウビー公、ウエルリントン公、ランスタウ  
 シ公、モントロース公、リヴァーポール公、セイント、ゼルマインヌ公、  
 パストスト公、シドマウス公、アベルブーロン公、グランヴィル公、キン  
 グ、  
 上院ノ委員ハハルロウビー公、ウエルリントン公、ランスタウ  
 シ公、モントロース公、リヴァーポール公、セイント、ゼルマインヌ公、  
 パストスト公、シドマウス公、アベルブーロン公、グランヴィル公、キン

委員ノ報告書中余ノ本論ニ關係アル重モナル點ハ夫ノ地金報  
 告書ノ大原理ニ關シテ證報者ノ懷ケル意見是ナリ蓋上下兩院  
 ノ委員ハ何レモ貨幣ニ關スル原理ニ論及スルヲ爲サズシテ單  
 ニ一ニ處分法ヲ勸告スルニ止マリシト雖尙ホ最モ此問題ニ通  
 曉セル數多シ證報者ニ諮問シ而テ其證報者ノ答ヘシ所最モ意  
 外ニ出ヌ者アリ蓋一千八百四年及一千八百十年ニ於テハ紙  
 幣ニ發行セ爲替相場及地金相場ニ影響スル者ニシテ此二者ニ

因テ原理セテハザル可カラズト云フ原理ニ反對スルノ意見大ニ商人ノ答辨中ニ勢力ヲ振ヒシトハ讀者ノ記スル所ナル可シ然ルニ之ニ關セズシテ右二年ノ委員ハ全ク商人ノ答辨ニ反對スルノ意見ヲ其報告書ニ陳示セリ而テ爾來地金報告書ノ公衆ノ眼前ニ供セラル、一九〇九年ニ及ヒ此問題ニ關シ議院及新聞紙ニ於テ大ニ討論ヲ起セシト如何ナル他ノ問題ヨリモ激烈ナル者アリキ故ニ若シ該報告書ノ原理ニシテ誤謬ナラシムハ商業社會ノ人々ハ愈之ニ反對スルノ意見ヲ固執スルニ至ラザル可カラザルヤ明ナリ然ルニ其結果今果シテ如何ツヤ蓋今ヤ諮問ヲ受ケタル商人ノ大多數ハ全ク地金報告書ノ原理ヲ是認スルニ至レリ商人輿論ノ強ク之ニ傾同セルト恰モ從前ニ在テ強ク之ニ反對セルガ如クナルニ至レリ嗚呼何者カ之ニ如クニ勝利ヲ得テ該報告書ノ原理ハ商業社會ニ於テ覆フ所ノ多數

ト由メタル反對者ヲ化シテ反テ己レニ與ミセシムルニ至レリ其原理ノ詳密且正確ナルヲ徴スルニ於テ何者カ此事實ニ如クノ明證アラマヤ商人ノ輿論ニ於テ此驚ク可キ變化ヲ呈シタル一斑ヲ窺ハシメシガ爲メニ余ハ左ニ聊カ證報者ノ答辨ヲ摘出ス可シ英蘭銀行頭取ドルレイン氏ガ上院委員ノ諮問ニ應スル答辨中左ノ如キ語アリ

(答)出納局手形ニ對シテ英蘭銀行ヨリ政府ニ貸付スル所ノ金額ハ該銀行隨意ニ之ヲ回收スル能ハズ然レモ若シ短時期間貨幣ヲ貸付スルハ該銀行ハ紙幣ノ過發ヲ制シテ以テ不當ナル投機取引及地金ノ輸出ヲ妨グ斯クシテ外國爲替相場ヲ支配スルヲ得ルナリ

(問)然ラハ外國爲替相場ハ紙幣流通高ノ増減ニ因テ影響セラ

ル者ナリトノ意見ヲ汝ハ懐ク平

(答)流通媒介物ノ何者ヨリ成レルニ拘ラズ若シ其匱乏スルハ商人ハ外國ヨリ資金ヲ吸引セザルヲ得ズ之ニ反シテ其豊富ナルキハ商人ハ國外ニ資金ヲ輸送ス可シ

貨幣匱乏ノ結果ハ商品及製造品ヲ輸出セザルヲ得ザラシムルニ在リテ之ガ爲メニ外國爲替相場ヲ我國ニ利ナラシムルニ至ルナリ

又同氏ト下院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ

(問)紙幣流通高減少スルキハ爲替相場ヲ利ナラシムルノ効アリ可キ乎

(答)然リ何トナレバ之ガ爲メニ必ズ商品ノ輸出ヲ起シ而テ商品ノ輸出ハ貨幣ヲ國內ニ吸引スレバナリ

(問)汝ハ紙幣發行ヲ減縮スルキハ一切ノ物品直段ヲ下落セシム

ト云ハレバ一切ノ他ノ物品直段ト同シク又金銀ノ直段ヲモ下落セシムル者ト解シテハ不可ナル乎

(答)余ハ金銀ノ直段ヲモ下落セシムルヲ信スルナリ

(問)今日外國爲替相場ノ我國ニ不利ナルヲ五分ナリト假定セバ若シ紙幣發行ヲ減少シ随テ商品ノ直段下落スルキハ爲メニ此爲替相場ヲ平均點ニ復スルノ結果ナカル可キ乎

(答)之ガ結果ハ勢ヒ輸出ヲ増加シ随テ爲替相場ヲ騰貴セシムルニ在リ

又英蘭銀行副頭取ポール氏ト上院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ

(問)汝ハ金ノ去テ國外ニ流出スル者ハ外國爲替相場ノ不利ナシヨリ起ルト思惟セザル乎

(答)確カニ然リ

(問)左ノハ外國爲替相場ハ英蘭銀行紙幣流通高ノ増減ニ因テ影響セラル、者ト汝ハ思惟スル乎

(答)紙幣増發ノ場合ニ於テハ我國ニテ貨幣ノ利息ヲ廉ナラシムルヲ以テ人々其資本ヲ利息ノ一層高キ外國ノ證券類ニ放下セシガ爲メニ我國ヨリ資本ヲ輸出スルヲ利トスルニ至ル可シ故ニ我國ヨリ外國ニ仕拂フ可キ負債ヲ生スルナリ

又同氏ト下院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ  
(問)汝ハ汝ノ紙幣發行ヲ大ニ減少スルルハ爲替相場ニ影響スル者ト思惟スル乎

(答)然リ爾ク思惟ス  
(問)銀行紙幣ノ減少ヨリ爲替相場ノ上ニ及ボス可キ影響ニ關スル汝ノ答辨ハ或ル特別ナル場合ノ實驗ニ基ケル乎將々純然タル理論ニ基ケル乎

(答)全ク理論ニ基ケリ蓋余ノ説ハ若シ紙幣ヲ減少スルルハ人々ヲシテ己レノ仕拂ニ應ゼシガ爲メニ歐洲大陸ヨリ我國ニ資本ヲ吸引セザルヲ得ザラシムト云フニ在リ

又十年間英蘭銀行ノ取締役アリシ人ニシテ當時非番ナリシハルロイマンド氏ト上院委員トノ答辨中左ノ如キ語アリ  
(問)汝ハ英蘭銀行が大ニ紙幣ヲ減少スルルハ爲メニ安全ニ其紙幣兌換ヲ再始スルヲ得可シト思惟スル乎

(答)斷シテ然リト信ズ  
(問)左レバ汝ノ意見ハ斯ク紙幣ヲ減少スルルハ爲メニ外國爲替ヲ我國ニ利ナラシムルノ結果ヲ生スト云フニ在リト解シテ可ナル乎

(答)余ハ英蘭銀行紙幣ノ數額ハ凡テ我外國爲替ニ對シテ有力ナル木槌ナルノ効ヲ有シ其昇降ヲ支配スル者タルヲ常ニ確

信セリ

余ハ外國爲替ハ地方銀行紙幣ト英蘭銀行紙幣トノ總額ニ因  
テ影響セラル、者ナリト思惟ス

(問)汝ハ英蘭銀行紙幣ノ數額ハ凡テ我外國爲替ニ對シテ有力  
ナル木挺タルノ効ヲ有シ其昇降ヲ支配スル者タルヲ常ニ確  
信セリト云ヘリ汝ハ地金相場ニ於ケルモ此事亦然リト思惟  
スル乎

(答)余ハ然リト思惟ス

(問)汝ハ理論ニ據テ此意見ヲ立テシ乎將テ汝ノ實際ニ目撃セ  
シ所ニ據テ之ヲ立テシ乎

(答)余ハ初メ理論ニ據テ余ノ意見ヲ立テタリ而テ爾後實際ニ  
目撃セシ所此意見ヲ確證セリ

又此證報者ハ商業恐慌ノ有様ヲ詳記シ紙幣ノ過發ハ爲替相場

及地金相場ニ影響スルヲ最モ明ニ證スル所ノ佛蘭西銀行頭  
取ノ報告書ヲ示セリ

(問)吾輩ノ今見ル所ノ統計表ニ據ルニ去九月ニ於テハ爲替相  
場殆ト平均ヲ維持セシニ爾後我國ニ不利トナリ一千八百十  
五年後ノ如何ナル時ニ於ケルヨリモ甚シキニ至レリ汝ハ斯  
ク爲替ノ大ニ下落セシテ何等ノ原因ニ歸スル乎

(答)我紙幣下落セルノ大原理ヲ外ニシテ時々爲替相場ニ影  
響スル所ノ特別ノ事情ヲ指摘スルハ難シトス余ハ外國々債  
證書ニ資本ヲ放下セシガ爲メニ一時爲替相場ノ下落ヲ起セ  
シテ信ス然レモ余ハ唯下落ノ一小部分ヲ此原因ニ歸スル  
者ニシテ其主因如何ト云ハ紙幣過利ナリトノ余ノ原理ニ  
歸セサル可ガラズ余ハ英蘭銀行ガ當時正金ヲ以テ紙幣ヲ免  
換セシナランニハ玆ニ云フ所ノ爲替ノ下落ハ決シテ起ラザ

リシナル可キヲ最モ固ク信スルナリ余ハ外國間ノ爲替取引ニ關シテ余ノ實驗セシ所ニ基キ此說ヲ立テシナリ蓋佛國ハ今日殆ト二千萬磅ヲ諸外國ニ仕拂ハザル可カラズシテ既ニ三回ノ仕拂ヲ爲シ今後二十七ヶ月間ニ悉ク其仕拂ヲ了セザル可カラズト雖和蘭及ハムボルクノ如ク正金ヲ以テ其紙幣ヲ兌換スル國ニ對スル佛國ノ爲替相場ハ之ガ爲メニ下落セザルナリ又之ガ爲メニ佛國ノ正貨ガ不便ヲ起ス程ニ減少セシトナク又減少ス可シト思惟セラレザルニ似タリ余ノ說ハ此巨額ノ仕拂中正貨若クハ地金ヲ以テセシ者ハ一小部分ニ止マルト云フニ在リ若シ若干ノ流通媒介物佛國ヲ去ルハ殘餘ノ流通媒介物其價值ヲ増加シ隨テ物品ノ直段下落ス可シ故ニ殘餘ノ仕拂ハ時々其產物及製造品ヲ以テスル佛國ニ利益アルニ至ル可シ

又同氏ト下院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ

(答)余ハ殘餘ノ紙幣ヲシテ金ニ對スル其從前ノ價值ヲ回復セシメ爲替ヲ平均點ニ回復セシメシメシハ斯ク英國銀行紙幣ヲ強ヒテ減少セシムルヲ必要ナリト信スルナリ余ハ英國銀行ガ紙幣兌換ヲ再興スルニ及ンデハ爲替相場ノ忽チニ平均點ニ回復ス可キヲ余ノ確說トシテ斷言スルヲ猶豫セザル可シ余ハ信ス爲替相場ノ下落ハ全ク英國銀行紙幣ノ過發ニ原因スルヲ余ハ請求ニ應シ正金ヲ以テ其紙幣ヲ兌換セザル國ニシテ其紙幣ノ下落セザリシ者アルヲ未ダ曾テ聞カザルナリ

(問)汝ノ說ハ爲替相場及地金相場ハ專ラ紙幣發行額ノ多少ニ因テ影響セラル、者ナリト云フニ在リト解ス可キ乎

(答)然レ余ノ說ハ爾カク云フニ在リ

(問)汝ハ昨年下半季間ハ一千八百十七年下半季間ニ比スレバ  
流通紙幣ノ額商業上ノ需要ニ對シテ一層大ナリト云ヘリ之  
ヲ云フニ於テ汝ハ如何ナル理由ヲ有スル乎

(答)如何トナレバ昨年下半季ハ一昨年下半季ニ比スレバ紙幣  
ノ下落一層甚シケレバナリ即地語以テ之ヲ云ハハ金ノ市價  
一層騰貴シタルベキナリ

(問)汝ハ金ノ市價ハ據テ以テ銀行紙幣ノ過發ヲ判ス可キ重モ  
ナル標準ナリト思惟スル乎

(答)然リ爾カク思惟セリ

余ハ昨年十月偶々巴黎ニ在リシニ此時佛蘭西銀行ハ割引ノ  
爲メニ紙幣ヲ發行スルコトヲ俄ニ大ニ減少セリ蓋此時佛蘭西  
銀行ガ割引ノ爲メニ發行セシ紙幣ハ一億三千萬法ニシテ曾  
テ知ラレタル最高額ヨリモ多キコト一倍餘ナリ而テ佛蘭西銀

行取締役ガ斯ク紙幣ヲ減少スルノ處置ニ出テシ者ハ左ノ如  
キ事情アリシニ因ルナリ蓋此時正貨ハ各方位ヨリ國外ニ流  
出セリ而テ正貨ノ此流出ハ幾分カハ紙幣ノ過發ニ原因セシ  
ナル可シト雖是レ小原因ニシテ其大原因ハ露國ニ於テ或ル  
財政上ノ大舉動ヲ起セシト佛國ガ殆ト二千萬磅ニ達スル大  
金額ヲ外國ニ仕拂ハザル可カラザリシトニ在リ是ヲ以テ巴  
里ノ銀行者ハ諸外國ニ宛テタル爲替手形ノ需要大ニ増加セ  
シコトヲ前見シ其諸外國ノ代理店ニ宛テ、振出サント期スル  
所ノ手形ヲ仕拂フノ資金トシテ諸外國ニ正貨ヲ送り其之ヲ  
送ルニ就テ小利益ヲ博セリ然ルニ佛蘭西銀行ガ俄ニ割引ヲ  
節減セシガ爲メニ外國爲替佛國ニ利アルニ至リ爲メニ凡テ  
此等ノ取引ヲ沮害セリ正貨ノ運動其潮勢ヲ一變シテ巴黎及  
其他最大ノ必迫ヲ感セシ地方ニ返流セリ



(問)汝ハ英蘭銀行紙幣ノ過發ハ國內全躰ノ紙幣ノ價值ニ影響スル者ニシテ今日地金ノ市價其造幣價ノ上ニ騰貴シ外國爲替ノ不利トナリシ者ハ該銀行紙幣ノ過發ニ原因スト云ヘリ汝ハ地金相増及爲替相場ニ徴シテ蒐集シタル證左ノ外ニ英蘭銀行紙幣ノ過多ナルヲ證ス可キ他ノ理由ヲ有スル乎

(答)余ハ世界ノ何レノ國ニ於テモ他ノ原因ヨリシテ此等ノ結果ヲ生セシヲ見ザルナリ

(問)左レバ汝ノ說ハ英蘭銀行ニシテ苟モ地金相場ノ騰貴シ爲替相場ノ下落セルヲ見バ該銀行ハ地金相場ノ平價ニ回復シ爲替相場ノ平均點ニ回復スルマデ若クハ爲替相場ノ下落一國ヨリ一國ニ資金ヲ運送スル費用ニ越ヘザル點ニ回復スルマデハ其紙幣ヲ減少セザル可カラズト云フニ在リト解ス可キ乎

(答)余ハ斷シテ其說ヲ懐ク者ナリ

(問)汝ハ紙幣兌換ノ行ハル、際ト其停止セラレ、際トテ間ハメ英蘭銀行ガ常ニ注意セザル可カラザル真正ノ標準ハ地金相場及爲替相場ニ在リト云フノ說ヲ持スル者ト解ス可キ乎

(答)余ノ見ル所ヲ以テスレバ是レ實ニ唯一ノ標準ナリ余ハ戰爭ノ時ニ於テモ平和ノ時ニ於テモ此理ノ齊シク適合スルヲ信スルナリ

(問)汝ハ英蘭銀行ガ舉行セシ一部ノ兌換ガ十分ニ其功ヲ奏セザリシ者ハ一部ノ兌換ガ常ニ其効ナキニ因ルニ非スシテ英蘭銀行ガ同時ニ其紙幣ヲ減少セザリシニ因ルト思惟スル乎

(答)此事ニ關スル余ノ見ヲ以テスレバ先ツ國內紙幣ノ總額ヲ減少シ其價值ヲシテ一部發行ス可キ正貨ノ價值ト同等ノ位ニ回復セシムルニ非ズンバ一部ノ兌換ハ常ニ其功ヲ奏スル

能ハザル可シト思惟スルナリ

(問)爲替相場ノ我國ニ利トナリ地金相場ガ其造幣價ト符合スルコト外ニ紙幣ノ復價ヲ徵ス可キ他ノ標準ナシト汝ハ思惟スル乎

(答)余ハ之ヲ外ニシテ他ニ標準アルヲ知ラズ

若シ吾人充分ニ我紙幣流通額ヲ減少セバ資金ハ各方位ヨリ我國ニ流入ス可シ議院ノ如何ナル條例ヲ以テスルモ其流入ヲ制スルコト能ハザル可シ

余ハ金ノ造幣價ヲ變更スルガ如キハ我國ノ政府ニ取テ契約ヲ破ルノ處置タルヲ信スルナリ

此種報者ハ己ノ意見ヲ證センガ爲メニ數多ノ詳細ナル論ヲ爲シト雖長キヲ以テ茲ニ之ヲ引擧スルコト能ハズ  
又英蘭銀行取締役ノ一人ニシテ地中海ノ商業ニ從事セル銀行

者ウイレンムウード氏ト上院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ

(問)汝ハ英蘭銀行紙幣ノ流通高四百萬磅ヲ減少セバ多分ハ爲替ヲ利ナラシムルニ至ル可シト云ヘリ汝ハ理論ニ基キテ此説ヲ立テシ平將々英蘭銀行ノ紙幣兌換停止以來銀行紙幣ノ總額増減スル毎トニ其増減ニ應スル丈ケノ影響ヲ我國ノ爲替相場及地金相場ニ及ホセシコトヲ目撃シ銀行者タル汝ノ實験ニ基キテ此説ヲ立テシ乎

(答)余ハ理論ニ基キテ余ノ説ヲ立テタリ余ハ特ニ銀行紙幣ノ數額ノミニニ依據セズ

(問)吾人ハ銀行紙幣ヲ減少セバ爲替ヲ利ナラシムルノ結果アルコトヲ必期スルヲ得ル乎

(答)余ノ利害ノ關セル爲替取引ニ於テ余ハ斯カル結果アルヲ必期ス可シ

又同氏ト下院委員トノ問答中ニ左ノ如キ語アリ

(問)汝ハ爲替相場及地金相場が如何ナル度ニマテ銀行紙幣過  
發ノ爲メニ影響セラレタリト思惟スル乎

(答)余ハ直接若クハ間接ニ痛ク影響セラレタルヲ信ス

(問)爲替相場ニ影響スル他ノ原因ハ二ノ異ナル時期ニ於テ同  
一ノ影響ヲ及ホス者ト假定スルハ地金相場及爲替相場ハ  
據テ以テ銀行紙幣ノ十分ナルヲ將タ過多ナルヲ判ス可キ  
標準ナリト汝ハ思惟スル乎

(答)然リ余ハ之ヲ信ス

(問)汝ハ紙幣兌換ノ行ハル、場合ニ於テ地金ノ市價が久シク  
其造幣價ノ上ニ騰貴シ又外國爲替相場が我國ヨリ歐洲大陸  
ニ金ヲ運送スル費用ヲ越ヘテ下落スル如キヲアリト思惟ス  
ル乎

(答)否ナ地金ノ市價ハ永遠ニ其造幣價ノ上ニ騰貴スルヲアラ  
ザル可シ

(問)左ノハ英蘭銀行が其買フ金ニ對シテ其造幣價ヨリモ高キ  
直段ヲ仕拂ハサル可カラザルヲ曾テ之アル可キ乎

(答)余ハ斯カル直段ヲ仕拂ハザル可カラザルヲナカル可シト  
信ス

又三十九年間英蘭銀行ノ取締役タリシサミュエル、ソルントン氏  
ト下院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ

(問)英蘭銀行ハ其紙幣發行額ヲ序理スルニ於テ如何ナル主義  
ニ據テ導カル、乎

(答)余ハ紙幣流通額ノ幾何ナルヤヲ考察シ其増加ヲ求ムル原  
因ノ何タルヤヲ考察スルヲ以テ常ニ余ノ義務ナリト思惟セ  
リ又余ハ爲替相場及地金相場ニ注目スルヲ以テ余ノ義務ナ

リト思惟セリ  
 (問)汝ハ紙幣發行額ヲ序理スルニ於テ爲替相場及地金相場ニ注目スルニ要スト爲ス理由ヲ余輩ニ向テ説明スルヲ諾スル乎

(答)若シ國內商業ノ要スル度ヲ越ヘテ銀行紙幣増加セラル、  
 則ハ爲メニ地金相場ノ騰貴ヲ起スト明ナラザル可カラズ而  
 テ余ハ同様ノ結果ヲ爲替相場ノ上ニ及ホスト容易ニ許ス  
 可シ

又「レイド、イルヴィング」商社ノシヨ、イルヴィング氏ト下院委員トノ  
 問答中左ノ如キ語アリ

(問)英蘭銀行紙幣ヲ減少スルガ爲メニ起ル可キ商業上ノ攪雜  
 大姑ク考察ノ外ニ置クキハ汝ハ該銀行ガ斯カル處置ニ因リ  
 爲替相場ヲ利ナラシメ地金相場ヲ下落セシムルヲ得ルト思

惟スル乎

(答)余ハ其説ヲ懐ケリ

(問)若シ吾人ニシテ外國ニ對スル爲替ノ尺度トシテ正貨ヲ用  
 フルアラバ爲替相場ニ斯カル浮沈起ル可キ乎

(答)決シテ然ラズ

又「ペーリソング、プロザース」商社ノ社員ホルランド氏ト下院委員  
 トノ問答中左ノ如キ語アリ

(問)汝ハ外國爲替ガ如何ナル度ニマデ英蘭銀行紙幣ノ増減ノ  
 爲メニ影響セラル、者ト思惟スル乎

(答)余ハ外國爲替ガ英蘭銀行紙幣ノ増加ノ爲メニ影響セラル  
 、ヲ確信セリ

(問)若シ英蘭銀行紙幣ヲ大ニ減少スルキハ外國爲替ヲ我國ニ  
 利ナラシメ其甚シキ下落ヲ妨クルノ結果アル者ト汝ハ思惟

スル乎

(答)余ハ其説ヲ懐ケリ

(問)汝ハ若シ我國ノ貨幣ガ正貨若クハ正貨ニ兌換シ得可キ紙幣ヨリ成ルルハ地金相場ニ大浮沈アラザル可シト思惟セリ然ラバ汝ハ今日ノ大浮沈ヲ何等ノ原因ニ歸スル乎

(答)市場ニ流通スル紙幣ノ數額市場ニ要スルヨリモ大ナリ故ニ若シ金ノ市價ヲ三磅十七志十片半ニ下落セシムルヲ望マントセバ獨リ紙幣ヲ減少シ此目的ヲ達シ得可シト余ハ信ス  
(問)汝ハ原動及反動ノ勢ニ因リ爲替相場ヲシテ循環セシメ金ヲシテ其平準ニ歸セシムルト云ヘリ若シ之ヲ然リトセバ我今王治世ノ初メヨリ正貨絶ヘズ國外ニ流出シ曾テ反動ノ爲メニ其流入ヲ起サマリシ事實ヲ汝ハ如何ナル理由ヲ以テ解釋スルヲ得ル乎

(答)若シ金ノ市價其造幣價ヨリ貴キトハ之ヲ國內ニ保ツテ能ハズ

(問)爲替ヲ我國ニ不利ナラシメ地金相場ヲ其造幣價ノ上ニ騰貴セシメタル原因ノ一ハ我國事情ノ不利ナルニ在リ即他語以テ之ヲ云ハバ我國ガ仕拂ノ差額ヲ外國ニ借ルニ在リト汝ハ思惟セザル乎

(答)否ナ余ハ爾カク思惟セズ何トナレバ金ハ凡テ商業國間ノ普通ノ平均者ト稱ス可クシテ若シ價值ノ本位トシテ金ヲ以テ金ニ對スルニ於テハ必ス爲替相場ヲ適當ノ平準ニ歸セシメザルヲ得ザレバナリ

(問)英蘭銀行ガ正貨ヲ以テ紙幣ヲ兌換スル場合ニ於テ金ノ造幣價ト市價トノ間ニ著シキ差ノ久シク存シ得可シト汝ハ思惟スル乎

(答)余ハ決シテ斯カル事アラズト思惟ス

又トーマス、ドック氏ト上院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ

(問)汝ハ如何ナル手段ニ因リ爲替相場ヲ回復シ地金相場ヲ下落セシムルヲ得ルト思惟スル乎

(答)先ツ英國銀行ノ紙幣發行ヲ今日ノ額ニ止メ然ルキ爲替相場及地金相場ノ成行キニ徴シテ此目的ヲ達セシムルハ更ニ幾何ノ紙幣ヲ減少セザル可ラザル乎ヲ判ス可シ

(問)汝ハ我國ノ貨幣ガ外國ノ貨幣ト平準ヲ保ツト云ヘル語ニ因テ何ヲ意味スル乎

(答)地金相場及爲替相場ノ平價ナル時若クハ其差ノ最モ微ニシテ殆ト平價ニ近キ時ヲ云フ

(問)汝ハ爲替相場ノ利ナルハ紙幣ノ過多ナラザルヲ證スル者ト思惟スル乎

(答)若シ爲替ノ利ナルコト久シキニ亘ルトハ是レ其時期ニ於テ紙幣ノ過多ナラザリシコト兆ヲ示ス者ナリ然レモ唯一ノ爭フ可カラザル標準ハ地金相場ナリ蓋紙幣ハ金ニ兌換セラル可キ者ナレバナリ

(問)吾輩ノ茲ニ見ル統計表ニ據ルニ一千八百四年四月十三日ヨリ一千八百五年十一月十七日マデノ十八ヶ月間ニ於テハ金ノ市價常ニ四磅ニシテ又此十八ヶ月間ニ於テ爲替相場ノ常ニ我國ニ利ナリシコト示セリ汝ハ此時期ニ於テ我紙幣過多ナリシト思惟スル乎

(答)概シテ云ハレバ余ハ然リト答フ可シ何トナレバ余ガ前ニモ云ヘル如ク誤謬ナキ唯一ノ標準ハ地金相場ニシテ爲替相場ノ如キハ假令久シク利ナルモ唯紙幣過多ナラザルノ兆ヲ示スニ過ギザレバナリ

(問)汝が紙幣ノ過多ナルト否ト判スルニ於テ爲最相場ヨリモ地金相場ヲ以テ一層正確ナル標準ナリト爲ス理由ヲ示セ

(答)其故如何ト云スニ若シ正貨真好ニシテ紙幣ノ嚴ニ此正貨ニ兌換セラル、トハ獨リ紙幣ヲ發行スル銀行ヲ除クノ外ハ何人ト雖同性合ノ金ニ對シテ一弓ニ付三磅十七志十片半以上ヲ與フルノ理ナケレバナリ然ルニ爲替相場ニ至テハ一國ヨリ一國ニ正貨ヲ運送スルニ要スル時間及費用ノ限内ニ於テ種々ノ事情ノ爲メニ影響セラル、者ニシテ隨テ地金相場變動セザル時ト雖爲替相場ハ浮沈スルコトアレバナリ

(問)紙幣ノ過多トハ國內ノ商業上ニ要スル額ニ越ユルノ義ニ非ズシテ金ノ市價ヲ其造幣價ニ符合セシメンガ爲メニ汝が若干額ニマデ紙幣ヲ減少セザル可カラズト思惟スル其若干

額ニ越ユルノ義ナリト汝ハ爲ス乎

(答)余ハ國內ノ商業上ニ要スル流通媒介物ノ額ヲ判ス可キ標準アルヲ知ラズ然レモ若シ國內ノ貨幣單ニ正貨ノミナル時若クハ正貨及正貨ニ兌換シ得可キ紙幣ノミナル時ニ當テ流通ス可キ貨幣ノ額ニ越ユルヲ是レ紙幣ノ過多ト云フナリ

又リカード氏ト上院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ  
(答)英國銀行ハ常ニ其紙幣ノ數額ヲ増減シテ以テ地金相場ヲ支配スルノ力ヲ有ス

又氏ト下院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ

(問)汝ハ今日我國ノ紙幣過多ニシテ金ニ對シテ下落シ地金相場ノ騰貴シ爲替相場ノ下落セルガ如キハ紙幣下落ノ結果ニシテ又之ガ徵證ナリト思惟スル乎

(答)然リ余ハ爾カク思惟ス

(問)然ラバ汝ハ地金相場ノ騰貴ヲ以テ銀行紙幣ノ下落ヲ證ス可キ正確ナル標準ナリト思惟スル乎

(答)余ハ之ヲ以テ銀行紙幣ノ下落ヲ證ス可キ正確ナル標準ナリト思惟ス何トナレバ我國ノ貨幣本位ハ地金ニシテ其價値ノ高低如何ニ拘ラズ紙幣ハ常ニ其價値ニ符合セザル可カラズト余ハ思惟スレバナリ而テ一千七百九十七年前ノ制度ノ下ニ在テハ必ス之ニ符合ス可シ

(問)前ニ云ヘル統計表ニ徵スルニ我國ノ金ノ市價ハ一千八百十五年四月ニハ五磅七志ニシテ一千八百十六年四月ニハ四磅一志トナリ二割五分ヨリ三割マデノ差ヲ呈セルヲ見ル而テ此等ノ市價ハ常ニ我紙幣ヲ以テ算セル者ニシテ汝ハ佛國若クハ其他ノ歐洲大陸ノ國ニ於テ此同時期間ニ金ノ市價ニ斯カル變動ヲ呈セルヲ知ル乎

(答)佛國ニ於テハ貨幣ノ本位タル金屬ノ直段ニ斯カル變動起リ能ハズト余ハ思惟ス而テ貨幣ノ本位ニ非サル他ノ金屬ニ至テハ其變動ハ常ニ全歐洲ニ起ルニ金屬相互割合ノ變動ニ限ラザル可カラズ

(問)前ニ云ヘル時期間ニ於テ巴里ニ在テハ金ノ直段ニ何等ノ變動モナカリシト此ノ如シトセハ汝ハ此事實ニ徵シ一千八百十五年四月ヨリ十六年四月マデノ間ニ金相場ノ變動セシハ紙幣價値ノ變動ニシテ地金直段ノ變動ニ非ズト推決セントスル乎

(答)佛國ニ於テハ荷モ本位タル金屬ノ直段騰貴スルアレバ直ニ紙幣流通高ヲ減少シテ之ヲ匡正セリ而テ同様ノ事情ニ際シテ同様ニ我國ノ紙幣流通高ヲ減少セザルニ於テハ紙幣過多トナリ金ノ市價ヲシテ其造幣價ノ上ニ騰貴セシメザルヲ



得ズ能ク整頓セル幣制ノ下ニ在テハ金ノ價值ハ變動セシ其  
 直段ハ決シテ變動スル能ハザルナリ

(問)汝ガ前回ノ一疑問ニ對スル答辨中ニ用ヒシ變動ナル語ハ  
 茲ニ汝ニ與ヘシ一疑問ニ對スル答辨中ニ用ヒシ紙幣ノ下落  
 ナル語ト同意義ナル乎

(答)紙幣ト金トノ價值ノ差ハ如何ナル原因(其種々ノ原因ハ余  
 之ヲ算擧セリ)ヨリ起ルニ拘ラズ苟モ金ノ市價其造幣價ノ上  
 ニ騰貴スルキハ余之ヲ稱シテ紙幣ノ下落ト云フ

(問)汝ハ金ノ市價ト造幣價トノ差ヲ以テ銀行紙幣ノ下落ヲ判  
 ス可キ標準ナリト思惟スル乎

(答)精密ニ然リ

(問)汝ハ地金若クハ正貨ト紙幣トノ間ニ左ノ如キ緊要ナル區  
 別アリト思惟セザル乎即地金若クハ正貨ハ貿易ノ普通ノ媒

介物ナルヲ以テ爲替手形ノ如キ性質ヲ帶ブト雖銀行紙幣ハ  
 斯カル性質ヲ有セザルト是ナリ故ニ地金若クハ正貨ノ價值  
 ハ爲替相場ノ動搖ニ追隨スルト雖銀行紙幣ハ爲替取引ノ爲  
 メニ影響セラレ能ハザルト是ナリ

(答)如何ニモ然リ正貨ニ兌換スル能ハザル銀行紙幣ハ内地ノ  
 流通ノミニ止マリ以テ外國ノ仕拂ニ充ツ可カラズ正貨ニ兌  
 換シ得可キ紙幣ニ至テハ正貨若クハ地金ト全ク同一ナリ

(問)左レバ銀行紙幣ト地金トノ間ニ價值ノ差ヲ生スルモ國內  
 商品ノ價值ヲ測ルニ於テハ銀行紙幣下落セリト云フ可カラ  
 スシテ二者價值ノ差ハ二者性質ノ此異同ヲ以テ之ヲ解釋ス  
 ルニ足ラザル乎

(答)否ナ余ハ之ヲ解釋スルニ足ラズト思惟ス蓋余ノ見ル所ヲ  
 以テスレバ下落ナル語ハ單ニ價值ノ減少セシト意味スル

ニ非スノ本位タル物ニ比照シ其相對的ノ價值ノ減少セシトシテ意味スル也故ニ假令銀行紙幣ノ價值騰貴スルアルモ據テ以テ其下落ヲ判ス可キ本位タル物ト同一ノ度ヲ以テ騰貴セザルニ於テハ尙ホ銀行紙幣下落セルナリト余ハ信ズ

(問)汝ハ紙幣ノ發行高チ減少セバ常ニ金ノ市價ヲ其造幣價ニ符合セシメ外國爲替ヲ我國ニ利ナラシムルノ効アリトノ説ヲ爲セリ然ラハ若シ我國仕拂ノ差額ヲ外國ニ借ルト假定スルハ汝ハ如何ナル手段ニ因リ之ヲ仕拂フ者ト思惟スル乎

(答)余ハ紙幣ヲ減少セバ常ニ地金ノ市價ヲ其造幣價ニ符合セシムルノ効アリト思惟ス然レモ之カ爲メニ常ニ爲替相場ヲ平均點ニ回復スルノ効アリトハ云ハザリキ

又アレキサンダー、ペーリリング氏(其後アシバルトン公ノ爵ヲ受ケ人)ト上院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ

(問)汝ハ爲替相場及地金相場ガ英國銀行紙幣増減ノ爲メニ影響セラル、者ト思惟スル乎

(答)余ハ其影響セラル、トニ關シテハ一疑ヲモ懷カズ此點ヨリ云ハ、地金相場モ爲替相場モ到底一物ニシテ其相場ハ紙幣ニ因テ定マリ紙幣増減ノ爲メニ支配セラル、者タルヲ余ハ常ニ信セリ然レモ余ハ外國爲替相場若クハ地金相場ガ常ニ英國銀行紙幣ノ増減ト同一ノ割合ヲ以テ變動スト云フニ非ズ又國內紙幣總額ノ増減ト同一ノ割合ヲ以テ變動スト云フニモ非ズ何トナレバ時々各國ニ要スル流通媒介物ノ數額ヲ變ス可キ種々ノ事情アレバナリ例セハ時トシテハ二千五百萬磅ノ銀行紙幣ト雖多キニ過クルコトアル可ク又時トシテハ三千萬磅ノ銀行紙幣ト雖少キニ過クルコトアル可クレバナリ而テ事情ノ此變化ニ適應スル能ハザルハ是レ則紙幣ノ大

缺點ナリ

(問)平和後諸外國就中佛國ノ募集セシ國債ハ爲替相場ヲ我國ニ不利ナラシムルノ結果アリタリト汝ハ思惟スル乎

(答)我國ノ貨幣今日ノ如キ有様ナル以上ハ如何ナル原因ヨリ起ルニ拘ラズ外國ヘノ仕拂ハ必ス爲替相場ニ影響セザル可カラズ

(問)汝ノ所謂我國ノ貨幣今日ノ如キ有様トハ如何ナル意ナル乎

(答)余ノ意ハ若シ我國ノ幣制従前ノ如クニシテ正貨ヲ以テ仕拂ヲ爲スニ於テハ假令外國ヘ仕拂ヲ爲スアルモ外國爲替相場ヲ著シク平均點以下ニ下落セシムル者ニ非ズト云フニ在リ然レニ據テ以テ其價值ヲ序整ス可キ者ナキ紙幣行ハルニ於テハ曩ニ戰爭間ニ於テ十分ニ其實證ヲ見タルガ如ク外

國ヘ仕拂ヲ爲スガ爲メニ其價值必ズ下落セザル可カラズト云フニ在リ

(問)汝ハ佛蘭西銀行ノ大必迫ノ時ニ巴黎ニ在リシ乎

(答)余ハ巴黎ニ在リキ而テ紙幣ノ減少ガ外國爲替相場及該銀行ノ正金在高ニ及ボシタル影響ニ關シ該銀行頭取ガ去一月ヲ以テ其株主ニ示セル報告書中ニ記スル所ハ余其當レルヲ信スルナリ該銀行ガ其割引ヲ節減シタルガ爲メニ外國爲替相場及該銀行ノ正金在高ニ及ボシタル結果ハ恰モ我今日ノ疑問ニ的中スル所アリト余ハ信ズルナリ蓋該銀行ハ濫リニ紙幣ヲ發行セシガ爲メニ其正金在高ハ一億一千七百萬法ヨリ三千四百萬法ニ減少セシト雖其後其管理ヲ慎ミシヲ以テ一億萬法ニマテ回復シ十日目前ニ於テハ現ニ此額ニ立チタ

(問)然ラバ汝ノ説ニ從ヘバ凶歉ノ年ニ巨額ノ穀物ヲ輸入スルハ爲替相場ヲ不利ナラシムルノ結果アリト解ス可キ乎

(答)請求ニ應シテ正貨ニ兌換シ得可カラザル紙幣行ハレ正貨ガ自カラ伸縮スルガ如クニ紙幣ヲ伸縮セシム可キ手段ナキニ於テハ如何ナル國タルヲ問ハズ斯カル結果ヲ生ス可キヲ余ハ思惟スルナリ

(問)紙幣兌換停止前ニ於ケルガ如クニ國內ノ貨幣一部ハ正貨ヨリ成リ一部ハ正貨ニ兌換シ得可キ紙幣ヨリ成ル場合ニ於テモ之ト同一ノ結果若クハ同一ナラザルモ幾分カノ結果ヲ生ス可キ乎

(答)余ハ正貨ノ需要如何ニ切ニシ其如何ナル性質ノ需要タルニ拘ラス正貨ヲ運送スル費用ト法律ヲ犯ス危險(正貨輸出ヲ禁スル法律ノ存スル間ハ)トシ償フ額ヲ越ヘテ爲替相場ヲ下

落セシムル者ニ非スト思惟ス此説ハ貨幣ノ原理ニ基キテ立テラレシ所ニシテ兌換停止前ノ我國ノ實驗及余ノ知ル所ノ各國ノ實驗ニ因テ十分ニ證明セラレシ所ナリ惟フニ此説ノ當否ハ過クル二年間佛國ニ於テ如何ナル他ノ場合ニ於ケルヨリモ一層嚴密ニ試験セラレシ所ナリ蓋佛國ハ己レニ代償ヲ得ルヲナクシテ其商業ノ能ク及バザルガ如クニ思ハル、程ノ巨額ノ仕拂ヲ外國ニ爲サメルヲ得サリシト雖之ガ爲メニ該國流通媒介物ノ上ニ何等ノ攪擾ヲモ生セザリキ又貨幣ノ取引ニ關シテ實驗ニ富メル商人ナルジョン、ウァード氏ト下院委員トノ問答中左ノ如キ語アリ

(問)汝ハ外國爲替相場及地金相場ガ銀行紙幣ノ増減ニ因テ影響セラル、者ト思惟スル乎

(答)實ニ然リ